

Ⅲ 調 査 結 果

Ergebnisse der Untersuchungen

1. 植 生 単 位

Vegetationseinheiten

神奈川県下34の市町村にわたって選定された199社寺の現地調査の結果、約140の植生調査資料が得られた。これらの資料はテーブル操作のくり返しによって診断種が抽出され、これによって局地的な群落単位が決定された。さらに、すでにに発表された神奈川県下および隣接地の研究結果と比較検討した結果以下の群集および群落単位が決定された。

組成表上で把握された社寺林の森林植物群落は、今回の調査から自然植生11、代償植生9が記録された。

a) 自 然 植 生

Natürliche Vegetation

社寺林は人間の生活域にあって幾分の人為的干渉下にはあるが、種の組み合わせを基礎として、群落組成表で比較・考察の結果、自然植生として以下の10群集1群落が記録された。

1) ヤブコウジースダジイ群集

Ardisio - Castanopsietum sieboldii

(Tab. 6. Fig. 4)

1) 群落の相観

常緑広葉樹のスダジイが優占する高木林。

2) 標徴種および区分種

スダジイ、イヌビワ、クスノキ、ツルグミ

3) 主な構成種

高木層——スダジイ

低木層——アオキ、ヤブツバキ、モチノキ、シロダモ、イヌビワ、ヒサカキ、ヤブニッケイ、ネズミモチ

草本層——テイカカズラ、ヤブコウジ、ビナンカズラ、ヤツデ、ジャノヒゲ、キツタ、ベニシダ、ヤブラン

4) 主な社寺林

瑞泉寺

新善光寺

諏訪神社

東福寺

熊野神社

法性寺

福泉寺

岩殿寺
 御嶽神社
 阿弥陀寺
 三浦神社
 桂林寺
 寒川神社
 松石寺
 勝国寺
 浅間神社
 若宮八幡宮
 宝生寺
 普門寺
 浄滝寺
 熊野神社
 春日神社
 宝勝寺
 総持寺

5) 群落の形態

ヤブコウジースダジイ群集は、神奈川県下の社寺林として広く各地に生育がみられるスダジイが優占する常緑広葉樹林である。

発達した林分では20mをこえる高木第1層は高い植被率でスダジイが優占する。林分によりタブノキ、モチノキ、カクレミノなどを混生することもある。高木第2層および低木層の構成種は、アオキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、シロダモ、カクレミノ、トベラ、ネズミモチなどヤブツバキクラスにまとめられる常緑広葉樹が大部分である。草本層には、キツタ、ヤブコウジ、ベニシダ、テイカカズラ、ヤブラン、ヤマイタチシダなどが高い常在度で生育する。

県下の26地点で植生調査資料が得られたヤブコウジースダジイ群集は、トベラ、カクレミノ、イタビカズラ、ツワブキ、ヤマハゼ、オオバグミを区分種とするカクレミノ亜群集と特定の下位単位区分種をもたない典型亜群集とに下位区分される。また、典型亜群集はタブノキ、ムラサキシキブ、ミズキなどイノデータブ群集の構成種をもつ植分と、伴わない植分とに下位区分される。さらに各下位単位は、アズマネザサ、チチミザサ、ノイバラ、コナラ、ガマズミなど代償植生の構成種の混生の有無によっても区分される。

6) 群落の立地・分布

ヤブコウジースダジイ群集は、海岸に比較的近い、海拔300m以下の低海拔地で土壌の堆積が浅い尾根部や凸状斜面を中心に広がりをもつ自然植生である。ヤブコウジースダジイ群集は、東海地方東部以東の臨海域に広がるスダジイ林の大部分が含まれ、河川などに沿って、より内陸域まで生育域を広げている。

カクレミノ亜群集は区分種であるカクレミノ、オオバグミ、イタビカズラ、トベラ、ツワブキの生育からも判定されるように、典型亜群集の立地より、より温暖な臨海域で人為的攪乱の比較的少ない植分を中心としている。

ヤブコウジースダジイ群集は、神奈川県南部一帯から東部にかけて広い生育域をもつ自然植生、潜在自然植生であり、社寺林として残されている林分も少なくない。

7) 群落の保全

ヤブコウジースダジイ群集は、その大部分が尾根筋や斜面に多く残されており、斜面保全林、立地保全林としての性格も強い。自然環境の維持、斜面などの立地保全、災害防止林として、これからも群落とその立地の十分な保護保全が強く望まれる植生である。



Fig. 4 ヤブコウジースダジイ群集断面模式

Vegetationsprofil des Ardisio-Castanopsietun sieboldii

- | | |
|----------|--|
| 1: トベラ | <i>Pittosporum tobira</i> |
| 2: ベニシダ | <i>Dryopteris erythrosora</i> |
| 3: イヌビワ | <i>Ficus erecta</i> |
| 4: ネズミモチ | <i>Ligustrum japonicum</i> |
| 5: スダジイ | <i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i> |
| 6: キツタ | <i>Hedera rhombea</i> |
| 7: アオキ | <i>Aucuba japonica</i> |
| 8: ヤブコウジ | <i>Ardisia japonica</i> |

9: アラカシ	<i>Quercus glauca</i>
10: モチノキ	<i>Ilex integra</i>
11: シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>
12: テイカカズラ	<i>Tracherospermum asiaticum</i>
13: カクレミノ	<i>Dendropanax trifidus</i>
14: ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>
15: ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum japonicum</i>
16: オオバグミ	<i>Elaeagnus macrophylla</i>
17: ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>
18: ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i>

2) ホソバカナワラビースダジイ群集

Polystichopso-Castanopsietum sieboldii

(Tab. 7)

1) 群落の相観

スダジイ、タブノキが優占する常緑広葉樹の高木林。林床に常緑のシダ植物であるホソバカナワラビが特徴的に繁茂する。

2) 標微種および区分種

ホソバカナワラビ、イタビカズラ、スダジイ、タブノキ

3) 主な構成種

高木層——スダジイ、タブノキ

低木層——モチノキ、アオキ、イヌビワ、ヒメユズリハ、トベラ、ヤブニッケイ

草本層——イタビカズラ、テイカカズラ、ホソバカナワラビ

4) 主な社寺林

神武寺（逗子市） 三島神社（横須賀市）

富岡八幡宮（横浜市金沢区）

5) 群落の形態

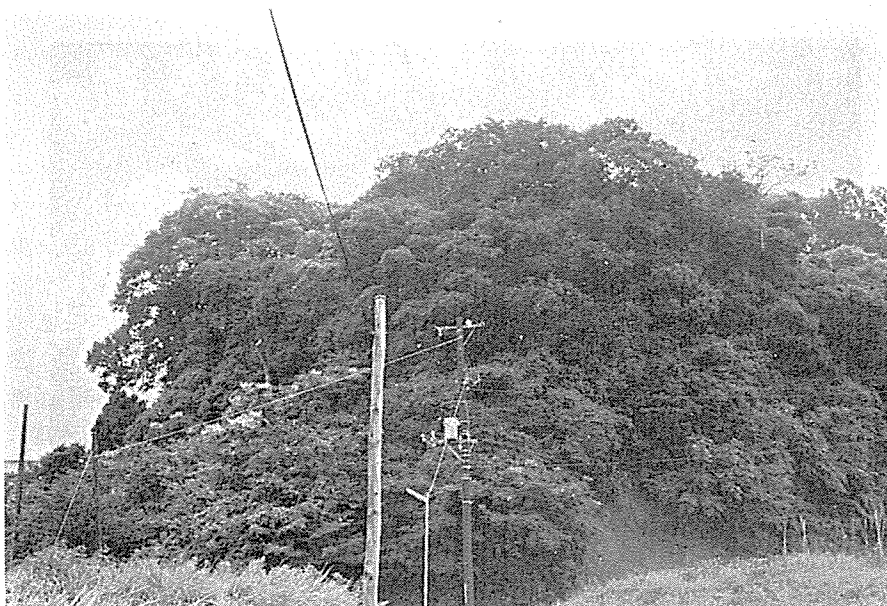
ホソバカナワラビースダジイ群集は、発達した林分では高さが15mを超える常緑広葉樹の高木林を形成する。スダジイまたはタブノキが林冠を広く覆い、優占する林分を形成することが多い。神武寺では高木第1層の植被率は30%にとどまるものもみられる。

高木第2層および低木層は植被率50~80%で、モチノキ、アオキ、カクレミノ、ヒメユズリハが比較的高い被度で生育し、構成種の大部分が常緑広葉樹である。高さ0.5~1.0mの草本層は、ホソバカナワラビ、アスカイノデ、イタビカズラ、ヤブラン、テイカカズラ、キツタ、ビナンカズラ、ジャノヒゲなどが30~80%の植被率で繁茂する。ヤブコウジースダジイ群集と比較してホソバカナワラビースダジイ群集は草本層の種類組成および植被の高いことが特徴的である。また、出現種数は、植生調査資料が得られた4地点で28~37種（平均33種）を数える。

6) 群落の立地・分布

ホソバカナワラビースダジイ群集は、高木第2層、低木層、草本層が発達しており、比較的水分条件にめぐまれた谷あいやテラス状の緩傾斜地、斜面下端付近に生育域をもつ。したがって、神奈川県下の自然植生あるいは潜在自然植生としての広がりが限られている。また、ホソバカナワラビースダジイ群集はヤブコウジースダジイ群集と同様に海拔400m以下の海岸地域を中心に分布する。

7) 群落の保全



Phot. 5 三島神社 (Nr. 103) のホソバカナワラビースダジイ群集の外観。林内にはシダ植物が繁茂する。
 Physiognomie des *Polystichopso-Castanopsietum sieboldii*
 (Shinto-Schrein Mishima)

ホソバカナワラビースダジイ群集は、神奈川県下において、他の地域と同様に、小面積の残存林分しかみられない、今日では貴重な常緑広葉樹の自然林である。林内の環境が高い湿度に保たれていることによって安定した群落を形成する。したがって、神武寺、富岡八幡宮に残存するようなホソバカナワラビースダジイ群集は、水分条件の著しい悪化などの影響を最少限にとどめ、隣接域も含めた形で林分の保全が必要とされる。

3) イノデータブ群集

Polysticho-Machiletum thunbergii

1) 群落の相観

タブノキが優占する常緑広葉樹の高木林。

2) 標徴種および区分種

イノデ、エノキ、オオベニシダ、ハウチャクソウ

3) 主な構成種

高木層——タブノキ、ケヤキ、(スダジイ)

低木層——アオキ、ヤブツバキ、シロダモ、イヌビワ、ヤツデ、ヒサカキ、トベラ、モチノキ

草本層——ジャノヒゲ、キツタ、ベニシダ、ヤブラン、イノデ、テイカカズラ、ヤブコウジ

4) 主な社寺林

諏訪大神社 (横須賀市)

大松寺 (横須賀市)

蓮生寺 (厚木市)

東福寺 (横浜市西区)



Phot. 6 宝生寺の裏山にひろがるヤブコウジ-スダジイ群集の林分は横浜市街地内の有数の自然林である。
Ardisio-Castanopsietum sieboldii mit reicher Strauchschicht,
 das in der Stadt Yokohama einen der auffallendsten naturnahen Wälder darstellt (Hosho-ji
 -Tempelwald).

福泉寺（三浦市）

宝生寺（横浜市）

妙秀寺（横浜市戸塚区）

本覚寺（横浜市神奈川区）

熊野神社（横浜市磯子区）

善行寺（横浜市中区）

南金目神社（平塚市）

上諏訪神社（三浦市）

八幡神社（横浜市磯子区）

叶神社（横須賀市）

新善光寺（葉山町）

称名寺（横浜市金沢区）

5) 群落の形態

イノデータブ群集は、めぐまれた立地条件を反映して、20mをこえる高木第1層以下、高木第2層、低木層、草本層までヤブツバキクラスにまとめられる常緑植物が繁茂して生育する多層群落の自然林である。高木第1層はタブノキが優占し、林分によってケヤキ、スダジイなども混生している。高木第2層および低木層は、必ずしも階層構造が明確に区分されないが、アオキ、ヤブツバキ、シロダモ、キツタ、ヤブニッケイ、ヒサカキ、モチノキ、ネズミモチなどヤブツバキクラスの種が多数生育している。草本層には、イノデ、オオベニシダが特徴的に生育する。人間の侵入による攪乱の少ない

イノデータブ群集においては、特徴的にイノデが林床を広く被っている。

イノデータブ群集は、ケチチミザサ、イボタノキ、トコロ、ミズヒキ、アケビ、ドクダミを区分種とするイボタノキ亜群集と特定の区分種をもたない典型亜群集とに下位区分される。

6) 群落の立地・分布

イノデータブ群集は、神奈川県下の沖積地あるいは台地斜面下部で、土壌が厚く堆積した適湿あるいは湿潤な立地が生育域となっている。内陸側の対応立地でローム層に被われている環境などではシラカシ群集ケヤキ亜群集が(潜在)自然植生として生育域をもつ。

下位単位であるイボタノキ亜群集は典型亜群集と比較して湿潤、富養な立地条件下に生育する。

7) 群落の保全

林冠を広く被うタブノキは、壮重な樹形と幹から神社林の主要樹木とされ、保護されてきた。イノデータブ群集は、神奈川県下に残されたヤブツバキクラスの常緑広葉樹の中では、最も、温暖で湿潤な立地に、群落構造上からも多彩な安定した森林を発達させるものである。神奈川県下にとどまらず広く常緑広葉樹林帯沿海部一帯の社寺林の基本的な位置を占めている。

4) モクレイシータブノキ群落

Microtropis japonica-Persea thunbergii-Gesellschaft

(Tab. 8)

1) 群落の相観

神奈川県西部の臨海域に限って生育する常緑広葉樹の自然林。タブノキが優占する高木林。

2) 区分種

カゴノキ、モクレイシ、カラタチバナ、サイハイラン

3) 主な構成種

高木層——タブノキ、ミズキ、カゴノキ

低木層——アオキ、シロダモ、イヌビワ、ヒサカキ、モクレイシ

草本層——キツタ、ジャノヒゲ、カラタチバナ、サイハイラン、ヤブコウジ

4) 主な社寺林

鷹取神社(大磯町)

5) 群落の形態

モクレイシータブノキ群落は、高さ18mの高木第1層にタブノキが被度・群度4・4~5・4で優占し、カゴノキを混生する。高木第2層および低木層の構成種は Tab. 8 から判定されるように、大部分が、イノデータブ群集と共通種であり、モクレイシが低木層に生育することによって特徴づけられる。草本層は植被率が20~30%と貧弱であり、ヤブコウジ、テイカカズラ、ヤブランなどが生育する。出現種類は25~27種と他のヤブツバキクラス林と比較して少ない。

6) 群落の立地・分布

モクレイシータブノキ群落は、神奈川県下でも西端にあたる大磯町の鷹取神社で植生調査資料が得られるにとどまる。高木層には樹皮に特徴があるカゴノキを混生し、神奈川県がほぼ北限あるいは東限といわれているモクレイシが低木層に生育するモクレイシータブノキ群落は、今回の神奈川県下の社寺林調査で新たに明らかにされたヤブツバキクラス林のタイプである。東海地方以西には、カゴノキ群集その他として類似の植生の報告もみられるが、神奈川県下では、明瞭な報告は、まだ行なわれていない。

7) 群落の保全

モクレイシータブノキ群落は、県下では残存する林分も少なく、植生学的にも貴重なものといえる。タブノキの高木にカゴノキを混生するため林内景観上からも特徴的なものといえる。

5) マサキトベラ群集

Euonymo-Pittosporretum tobirae

(Tab. 9)

1) 群落の相観

トベラ、ヤブツバキ、オオバグミなど常緑広葉樹で構成される風衝低木林。クロマツが高木層に限られた被度で生育する林分もある。

2) 標徴種および区分種

クロマツ、トベラ、オオバグミ、ツワブキ、マサキ

3) 主な構成種

高木層——クロマツ

低木層——トベラ、ヤブニッケイ、イヌビワ、オオバグミ、マサキ

草本層——ツワブキ、キツタ、ヤブラン

4) 主な社寺林

小坪寺(逗子市)

5) 群落の形態

高さ15mの高木層にクロマツが被度・群度1・2で生育し、高さ6mの低木層に植被率90%でトベ



Phot. 7 シラカシに囲まれたわらぶき屋根の社殿にはふるさとの社のおもかげが残る(Nr. 159 南足柄神社)。Von immergrünen *Quercus myrsinaefolia* umgeheuer Shinto-Schrein Minami-ashigara.

Tab. 9. マサキートベラ群集
Euonymo-Pittosporum tobirae

Nr. d. Aufnahme:	調査番号	1
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	750
Exposition:	方位	SW
Neigung (°):	傾斜	40
Höhe d. Baumschicht (m):	高木層の高さ	15
Deckung d. Baumschicht (%):	高木層の植被率	20
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ	6
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層植被率	90
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ	0.5
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層の植被率	30
Artenzahl:	出現種数	31
<u>Kenn- u. Trennarten d. Ass.:</u>	<u>群集標徴種および区分種</u>	
<i>Pinus thunbergii</i>	クロマツ	B 1.2
<i>Pittosporum tobira</i>	トベラ	S 3.3
<i>Elaeagnus macrophylla</i>	オオバグミ	S +
<i>Farfigium japonicum</i>	ツワブキ	K 2.2
<i>Euonymus japonicus</i>	マサキ	S +
<u>Kenn- u. Trnnarten d. Verb., Ord. u. Klasse:</u>	<u>上位単位の標徴種及び区分種</u>	
<i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i>	スタジイ	S 1.2
<i>Cinnamomum japonicum</i>	ヤブニッケイ	S 1.2
<i>Fatsia japonica</i>	ヤツデ	S 1.2
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	S 1.2
<i>Camellia japonica</i>	ヤブツバキ	S 1.2
		K +.2
<i>Ficus erecta</i>	イヌビワ	S +.2
		K +
<i>Persea thunbergii</i>	タブノキ	S +
<i>Neolitsea sericea</i>	シロダモ	S +
<i>Hedera rhombea</i>	キツタ	K 1.2
<i>Liriope platyphylla</i>	ヤブラン	K +
<i>Dryopteris bissetiana</i>	ヤマイタチシダ	K +
<i>Cyrtomium fortunei</i>	ヤブソテツ	K +
<u>Begleiter:</u>	<u>随伴種</u>	
<i>Fagara manchurica</i>	イヌザンショウ	S 1.2
<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシワ	S 1.1
		K +
<i>Arundinaria chino</i>	アズマネザサ	S 1.2
<i>Morus bombycis</i>	ヤマグワ	S +
<i>Ligustrum ovalifolium</i>	オオバイボク	S +.2
		K +
<i>Zelkova serrata</i>	ケヤキ	S +
<i>Vitis ficifolia</i> var. <i>lobata</i>	エビヅル	S +
<i>Fagara ailanthoides</i>	カラスザンショウ	S +
<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ	K +
<i>Deutzia scabra</i>	マルバウツギ	K +
<i>Lycoris sanguinea</i>	キツネノカミソリ	K +
<i>Aristolochia debilis</i>	ウマノスズクサ	K +
<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ	K +
<i>Arisaema serratum</i>	カントウマムシグサ	K +

Fundort 調査地: 小坪寺 (134) Temp. Kotsubo-ji am 1. Dez. 1974.

ラ、ヤブニッケイ、スダジイ、ヤブツバキ、オオバグミ、マサキなど常緑広葉樹がマッキー状に繁茂する。草本層にはツブキを中心にキツタ、ヤブラン、ヤマイタチシダ、アオキ、ヤブツバキなど常緑広葉樹の芽生えがみられる。植生調査資料が得られた小坪寺では、出現種数31種を数え、イヌザンショウ、アカメガシワ、アズマネザサなど代償植生の構成種の侵入もみられている。

6) 群落の立地・分布

マサキートベラ群集は、神奈川県下の海岸線沿いの直接海に面した風衝地に生育する常緑広葉樹の低木林である。海からの強い風、塩分を含んだ風をまともに受けるため、スダジイ、タブノキなどの高木が優占する常緑広葉樹林の成立が困難な極端な立地となっている。したがって、高い被度で樹冠をそろえている低木層の構成種、優占種は、植分により変動がみられ、出現するヤブツバキクラスの種も少ない。

土壌の堆積が少なく、乾燥した立地条件になる傾向がみられる。

7) 群落の保全

マサキートベラ群集は、海岸前線に成立する常緑広葉樹林である。四季を通じて、より内陸側の耕作地、住宅域への海からの影響を最少限にとどめる環境保全林としての性格をもっていたものである。したがって、臨海域の社寺林においても、一部に断片的であるがマサキートベラ群集がみられる。

6) シラカシ群集

Quercetum myrsinaefoliae

(Tab. 10)

1) 群落の相観

常緑広葉樹のシラカシが特徴的に高木層に生育するヤブツバキクラス林。それぞれの亜群集によりモミ、シラカシ、ケヤキなど優占種が異なる。

2) 標徴種および区分種

シラカシ、ヒイラギ、チャノキ

3) 主な構成種

高木層——シラカシ、モミ、ケヤキ、アラカシ、アカガシ

低木層——ヤブツバキ、アオキ、ヒサカキ、シロダモ、ヤブニッケイ、ネズミモチ、チャノキ

草本層——ジャノヒゲ、キツタ、ベニシダ、ヤブラン、ヤブコウジ、ヒナンカズラ

4) 主な社寺林

万福寺

王子神社

極楽寺

南足柄神社

正法寺

春日神社

青蓮寺

汁守神社

豊顕寺

本興寺

樹源寺
 神明社
 浄性院
 八幡神社



Fig. 5 シラカシ群集断面模式

Vegetationsprofil des *Quercetum myrsinaefoliae*

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 1: ヒサカキ | <i>Eurya japonica</i> |
| 2: タブノキ | <i>Persea thunbergii</i> |
| 3: シラカシ | <i>Quercus myrsinaefolia</i> |
| 4: テイカカズラ | <i>Trachelospermum ariaticum</i> |
| 5: ベニシダ | <i>Dryopteris erythrosora</i> |
| 6: アラカシ | <i>Quercus glauca</i> |
| 7: チャノキ | <i>Thea sinensis</i> |
| 8: アカガシ | <i>Quercus acuta</i> |
| 9: オオバジャノヒゲ | <i>Ophiopogon planiscapus</i> |
| 10: ヤブコウジ | <i>Ardisia japonica</i> |
| 11: ヒイラギ | <i>Osmanthus heterophyllus</i> |
| 12: ナンテン | <i>Nandina domestica</i> |
| 13: キツタ | <i>Hedera rhombea</i> |
| 14: イヌツゲ | <i>Ilex crenata</i> |
| 15: ヤブラン | <i>Liriope plathyphylla</i> |
| 16: ヤブツバキ | <i>Camellia japonica</i> |
| 17: アオキ | <i>Aucuba japonica</i> |
| 18: モチノキ | <i>Ilex integra</i> |
| 19: ガマズミ | <i>Viburnum dilatatum</i> |
| 20: ヤブニッケイ | <i>Cinnamomum japonicum</i> |

西方寺
 妙伝寺
 白旗神社
 旧城寺
 稲荷社

5) 群落の形態

シラカシ群集は、ヤブツバキクラスにまとめられる常緑植物を主な構成種とする常緑広葉樹林である。発達した林分、自然度の高い林分では20mをこえる高木林を形成する。高木第1層は、亜群集ごとに群落構成種、とくに優占種が異なり、モミノキ、シラカシ、アラカシ、アカガシ、ケヤキなどをあげることができる。高木第2層は、高木第1層と共通の樹木の他にヤブツバキ、シロダモ、イヌツゲ、タブノキなども生育している。林分によって高さに差がある低木層には、アオキ、ヒサカキ、ヤブニッケイ、チャノキ、モチノキ、ネズミモチ、ヒイラギなど常緑広葉樹が主な構成種である。ハリギリ、マユミ、コバノガマズミ、ムラサキシキブ、ヤマグワなど夏緑広葉樹の混生もみられる。草本層には、ベニシダ、ヤブコウジ、テイカカズラなどが生育している。

シラカシ群集は、モミ、ウラジロガシが高木層に生育し、モミ、ウラジロガシ、コバノガマズミを区分種とするモミ亜群集と、ケヤキが高木層を中心に繁茂し、ミズキ、ハリギリ、マユミ、イボタノキ、ムクノキを区分種とするケヤキ亜群集およびシラカシが高木層に優占し、特定の亜群集区分種をもたない典型亜群集に下位区分される。

6) 群落の立地・分布

シラカシ群集は、ローム層に被われた内陸側の台地上および台地斜面を中心に広い面積を占める(潜在)自然植生である。神奈川県下の内陸側の古くからの集落の屋敷林としてのシラカシ、(ケヤキ)は現在でも多くみることができる。したがって多摩丘陵、相模原台地、大磯丘陵の一部などにある社寺林の多くが、シラカシ群集およびその断片的林分である。

シラカシ群集は3亜群集に下位区分される。モミ亜群集はローム層の堆積がほとんどみられない凸状地に生育域をもち、相観的にシキミーモミ群集に類似する。ケヤキ亜群集は、亜群集区分種からも判定されるように、土壌の堆積が多くみられ、水分条件にめぐまれた斜面下部、凸状地を主な生育地とする。典型亜群集は、ローム台地上のシラカシ群集であり、広く耕作畑として土地利用されてきている。

7) 群落の保全

神奈川県下の相模原台地を始めとするローム層に被われた内陸域は、裸地化することによる飛砂や土砂の侵食、斜面崩壊など立地の不安定化を生じやすい。そのため、社寺林、屋敷林として自然植生であるシラカシ群集を直接、間接に利用してきたし、今後とも、“生きた緑の構築材料”としてシラカシ群集を積極的利用することが望まれる。

7) イロハモミジ-ケヤキ群集

A c e r o - Z e l k o v e t u m

(Tab. 11)

1) 群落の相観

高木第1層にケヤキ、イロハモミジなど夏緑広葉樹が優占する。高木第2層以下にはヤブツバキクラスにまとめられる常緑植物が多く生育する。

Tab. 11. イロハモミジ-ケヤキ群集
 Acero-Zelkovetum

Nr. d. Aufnahme:	調査番号	1
Exposition:	方位	N
Neigung (°):	傾斜	10
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	100
Höhe d. Baumschicht-1 (m):	高木第1層の高さ	12
Deckung d. Baumschicht-1 (%):	高木第1層植被率	30
Höhe d. Baumschicht-2 (m):	高木第2層の高さ	8
Deckung d. Baumschicht-2 (%):	高木第2層植被率	40
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ	3
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層植被率	60
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ	0.7
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層植被率	30
Artenzahl:	出現種数	42
<u>Kenn- u. Trnntarten d. Ass.:</u>	<u>群集標微種および区分種</u>	
<i>Zelkova serrata</i>	ケヤキ	B-1 2.2
<i>Acer palmatum</i>	イロハモミジ	B-1 1.2
		B-2 3.2
<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>	ウグイスカグラ	S 2.1
		K +
<i>Reineckea carnea</i>	キチジョウソウ	K +
<i>Coniogramme japonica</i>	イワガネソウ	K +
<u>Kenn- u. Trenntarten d. Verb., Ordn. u. Klasse:</u>	<u>クラス・オーダー・群団 標微種および</u>	
<i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i>	スダジイ	B-1 1.1 区分種
<i>Torreya nucifera</i>	カヤ	B-1 1.1
		K +
<i>Ficus erecta</i>	イヌビワ	B-2 1.1
		S +
<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ	B-2 1.1
<i>Neolitsea sericea</i>	シロダモ	S +
		K +
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	S 3.3
		K +2
<i>Osmanthus heterophyllus</i>	ヒイラギ	S 1.1
<i>Dentropanax trifidus</i>	カクレミノ	S +
<i>Elaeagnus glabra</i>	ツルクミ	S +
<i>Cinnamomum japonicum</i>	ヤブニッケイ	S 1.2
<i>Ophiopogon planiscapus</i>	オオバジャノヒゲ	K +
<i>Trachelosparum asiaticum</i>	テイカカズラ	K 2.2
<i>Hedera rhombea</i>	キヅタ	K 1.2
<i>Ardisia japonica</i>	ヤブコウジ	K +
<i>Ophiopogon japonicus</i>	ジャノヒゲ	K +
<i>Arachnoides aristata</i>	ホソバカナワラビ	K 1.2
<i>Damnacanthus major</i>	ジュズネノキ	K 2.2
<i>Piper kadsura</i>	フウトウカズラ	K +2
<u>Begleiter:</u>	<u>随伴種</u>	
<i>Fourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	カマツカ	B-2 1.1
		S +
<i>Zanthoxylum piperitum</i>	サンショウ	S 1.1
<i>Acer palmatum</i> var. <i>marmoratum</i>	エンコウカエデ	S +
<i>Euscaphis japonica</i>	ゴンズイ	S +
<i>Callicarpa japonica</i>	ムラサキシキブ	S +
<i>Viburnum dilatatum</i>	ガマズミ	S +
<i>Viburnum erosum</i>	コバノガマズミ	K +
<i>Podocarpus macrophyllus</i>	イヌマキ	K +
<i>Disporus sessile</i>	ホウチャクソウ	K +
<i>Dioscorea japonica</i>	ヤマノイモ	K +
<i>Iris japonica</i>	シャガ	K 1.2
<i>Athyrium japonicum</i>	シケシゲ	K +
<i>Polygonatum falcatum</i>	ナルコユリ	K +
<i>Houttuynia cordata</i>	ドクダミ	K +2
<i>Aphananthe aspera</i>	ムクノキ	K +
<i>Polystichum polyblepharum</i>	イノデ	K +
<i>Akebia trifoliata</i>	ミツバアケビ	K +
<i>Viola verecunda</i>	ツボスミレ	K +
<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ	S +

2) 標徴種および区分種

ケヤキ, イロハモミジ, ウグイスカグラ, キチジョウソウ, イワガネソウ

3) 主な構成種

高木層——ケヤキ, イロハモミジ, カヤ

低木層——ヤブニッケイ, アオキ, ウグイスカグラ, ヒイラギ, サンショウ

草本層——ジュズネノキ, フウトウカズラ, キツタ, テイカカズラ, キチジョウソウ

4) 主な社寺林

神武寺(逗子市)

5) 群落の形態

イロハモミジ-ケヤキ群集は, ヤブツバキクラス域の溪谷林である。高さ12mに達する高木第1層および高木第2層には, ケヤキ, イロハモミジの夏緑広葉樹を中心にカヤ, スダジイなどヤブツバキクラスの種を混生する。低木層は0.7~3m, 植被率60%, アオキが被度・群度3・3で繁茂する他に, イヌビワ, ヤブニッケイ, ツルグミ, カクレミノ, ヒイラギ, シロダモ, サンショウ, カマツカなどが生育している。草本層はテイカカズラ, キツタ, ジュズネノキ, ホソバカナワラビ, フウトウカズラ, ドクダミ, シャガなどが植被率30%で生育している。

6) 群落の立地・分布

ヤブツバキクラスにまとめられる常緑広葉樹林は, 高木層から草本層まで構成種の大部分が常緑植物からなる植生である。しかし, イロハモミジ-ケヤキ群集は, 林冠を形成する高木第1層および高木第2層に夏緑広葉樹が, 特徴的に繁茂する。自然植生あるいは潜在自然植生としてのイロハモミジ-ケヤキ群集の生育域は, 谷あいなど日射量が少ない湿潤な斜面を中心に線状あるいは細長い帯状にみられるにとどまる。

7) 群落の保全

イロハモミジ-ケヤキ群集は, 秋季に紅黄葉がみられ, 冬季に落葉があるなどヤブツバキクラス林としては季観の変化のある林分となっている。したがって, 社寺林の一部として積極的に残されてきた傾向もみられるが, 全体として生育域は数, 面積共に少ない。

8) コクサギーケヤキ群集

Orixa japonica - *Zelkova serrata* - Ass.

(Tab. 12)

1) 群落の相観

春季に林床植生が特徴的なケヤキの優占する夏緑広葉樹林。

2) 標徴種および区分種

コクサギ, ミズキ, ケヤキ, ニリンソウ, ムラサキケマン

3) 主な構成種

高木層——ケヤキ, ミズキ, アラカシ

低木層——アオキ, ヒサカキ, チャノキ

草本層——ニリンソウ, ムラサキケマン, ジャノヒゲ, ベニシダ, ヤブラン, ヤブコウジ

4) 主な社寺林

無量光寺(相模原市)

Feb. 12. コクサギ-ケヤキ群集

Orixa japonica-*Zelkova serrata*-Ass.

Nr. d. Aufnahme:	調査番号	1
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	150
Exposition:	方位	NE
Neigung (°):	傾斜	10
Höhe d. Baumschicht-1 (m):	高木第1層の高さ	17
Deckung d. Baumschicht-1 (%):	高木第1層植被率	50
Höhe d. Baumschicht-2 (m):	高木第2層の高さ	6
Deckung d. Baumschicht-2 (%):	高木第2層植被率	60
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ	2
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層植被率	40
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ	0.8
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層植被率	60
Artenzahl:	出現種数	42
<u>Kenn- u. Trennarten d. Ass.:</u>	<u>群集標徴種および区分種</u>	
<i>Zelkova serrata</i>	ケヤキ	B-1 2.2
<i>Cornus controversa</i>	ミズキ	B-2 1.1
<i>Anemone flaccida</i>	ニリンソウ	K 2.2
<i>Corydalis incisa</i>	ムラサキケマン	K +
<u>Sonstige Arten:</u>	<u>その他の種</u>	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	B-1 3.3 B-2 3.3
<i>Quercus glauca</i>	アラカシ	B-2 2.2 S 1.2
<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	カマツカ	B-2 1.1
<i>Hedera rhombea</i>	キツタ	B-2 +
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	S 2.2
<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ	S 2.2
<i>Thea sinensis</i>	チャノキ	S 1.2
<i>Arundinaria chino</i>	アズマネザサ	S +2
<i>Ilex integra</i>	イヌツゲ	S +
<i>Viburnum dilatatum</i>	ガマズミ	S +
<i>Kerria japonica</i>	ヤマブキ	S +
<i>Torreya nucifera</i>	カヤ	S +
<i>Liriope platyphylla</i>	ヤブラン	K 1.2
<i>Ardisia japonica</i>	ヤブコウジ	K 1.2
<i>Ophiopogon japonicus</i>	ジャノヒゲ	K 2.2
<i>Dryopteris erythrosora</i>	ベニシゲ	K 1.2
<i>Carex conica</i>	ヒメカンスゲ	K +2
<i>Cimicifuga japonica</i>	イヌシヨウマ	K +2
<i>Disporum sessile</i>	ホウチャクソウ	K +2
<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ	K +2
<i>Reineckea carnea</i>	キチジョウソウ	K +2
<i>Viola hondoensis</i>	アオイスミレ	K +
<i>Athyrium niponicum</i>	イヌワラビ	K +
<i>Athyrium conilii</i>	ホソバシケシゲ	K +
<i>Equisetum aruvense</i> var. <i>boreale</i>	スギナ	K +
<i>Cinnamomum japonicum</i>	ヤブニッケイ	K +
<i>Hemerocallis fulva</i> f. <i>kwanso</i>	ヤブカンゾウ	K +
<i>Viola keiskei</i> f. <i>okuboi</i>	ケマルバスミレ	K +
<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ	K +
<i>Gynostemma pentaphyllum</i>	アマチャズル	K +
<i>Coniogramme intermedia</i>	イワガネゼンマイ	K +
<i>Cyrtomium fortunei</i>	ヤブソテツ	K +
<i>Euonymus sieboldianus</i>	マユミ	K +
<i>Kadsura japonica</i>	ビナンカズラ	K +
<i>Arisaema urashima</i>	ウラシマソウ	K +
<i>Selaginella remotifolia</i> var. <i>japonica</i>	クラマゴケ	K +
<i>Berchemia racemosa</i>	クマヤナギ	K +
<i>Chrysosplenium japonicum</i>	ヤマネコノメソウ	K +

Fundort 調査地: 無量光寺 (136) Temp. Muryoko-ji am 14. Apr. 1974.

5) 群落の形態

コクサギーケヤキ群集は、関東地方のヤブツバキクラス域に生育する夏緑広葉樹林である。構成種としてアオキ、チャノキ、ヒサカキ、アラカシ、ジャノヒゲ、ベニシダ、ヤブラン、ヤブコウジなどヤブツバキクラスにまとめられる常緑植物が多く混生している。林床を形成する草本層には、春季を中心に生育するニリンソウ、ムラサキケマン、夏緑性のイヌショウマ、ハウチャクソウ、キチジョウソウ、ヤマネコノメソウウ、ウラシマソウ、アマチャヅル、ケマルバスマレ、ヤブカンゾウなどがみられる。出現種数は、無量光寺の林分を4月中旬に調査した時点で42種を数えた。

6) 群落の立地・分布

コクサギーケヤキ群集は、神奈川県はやや内陸側にあたるローム層に広く被われている地域でも、小河川で一部が侵食されたような凹状地で、肥沃な土壌が厚く堆積した湿潤な立地を生育地とする。したがって耕作畑、モウソウチク林、スギ植林として古くから利用されてきたところである。また人の侵入により、団粒構造の発達した土壌が固結化しやすいため、林床植生の消滅、変化が生じやすい林分である。

7) 群落の保全

コクサギーケヤキ群集は、周辺から養分を多く含んだ土砂が集積しやすい立地であり、斜面下端の比較的傾斜角がゆるやかとなっている。

9) シキミーモミ群集

Illicio - Abietum firmae

(Tab. 13)



Phot. 8 尾根部にはシキミーモミ群集, 谷部にはイロハモミジーケヤキ群集の配分がみられる大山寺。Buddistischer Tempelwald Daisenji (500 m NN). Auf dem Hang wachsen das *Illicio - Abietum firmae* und im Tal das *Acer - Zelkovetum*

1) 群落の相観

高木第1層に常緑針葉樹であるモミを混生またはモミが優占する常緑広葉樹林。

2) 標徴種および区分種

モミ, ミヤマシキミ, アカガシ, イヌブナ, ヒイラギ

3) 主な構成種

高木層——モミ, アカガシ, ウラジログシ, カヤ, イヌブナ

低木層——ヒサカキ, アオキ, マルバウツギ, ウラジログシ, アラカシ

草本層——ヤブコウジ, テイカカズラ, カンアオイ, マメヅタ, コアカソ

4) 主な社寺林

大山神社

5) 群落の形態

シキミーモミ群集は, 群落の高さが18mで, 高木第1層, 高木第2層, 低木層, 草本層の4層からなる森林植生である。

高木第1層から林床を形成する草本層まで構成種の大部分がアラカシ, アオキ, テイカカズラ, アカガシなど, ヤブツバキクラスにまとめられる常緑広葉樹からなっている。高木第1層を中心に常緑針葉樹のモミの特徴的な生育が見られる。

ウラジログシ, シキミ, カヤ, シラカシなどサカキーウラジログシ 群団 *Sakakieto-Cyclobalanopsis* の標徴種および区分種が混生する。

6) 群落の立地・分布

シキミーモミ群集は, 神奈川県下の丹沢山塊で海拔400~800m付近の尾根筋, 斜面上部を中心に生育域をもつ自然植生であり, 丹沢大山, 札掛に天然記念物として保護された残存林分がみられる。モミノキは神奈川県下では, かつて比較的内陸の尾根筋などに点々とみられ, 社寺林のシンボリックな樹木として, 積極的に保存または移植されてきた歴史がある。しかし, 都市の発達などとともに, 単木的に生育していたモミの枯死した例が多い。

7) 群落の保全

シキミーモミ群集の残存林分は, 丹沢大山, 札掛にまとまって見ることができる。最近までは, 社寺林および社殿の周囲に, シキミーモミ群集の構成種であるモミ, シキミ, ミヤマシキミ, サカキなどが積極的に植栽されてきた。神奈川県下のヤブツバキクラス域でも, 最も高海拔地, 貧養立地に生育域をもつのがシキミーモミ群集であり, 借景的に裏山に残されていたシキミーモミ群集および単木的にモミノキを社寺林として利用してきた傾向もみられる。

10) アラカシーウラジログシ群落

Quercus glauca-Quercus salicina-Gesellschaft

(Tab. 14)

1) 群落の相観

アラカシーウラジログシ林。常緑広葉樹の高木林。

2) 区分種

ウラジログシ, アラカシ, シキミ, ヤブソテツ

3) 主な構成種

高木層——ウラジログシ, アラカシ

Tab. 14. アラカシ-ウラジロガシ群落
Quercus glauca-*Quercus salicina*-Gesellschaft

Nr. d. Aufnahme:	調査番号		1
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積		250
Höhe d. Baumschicht-1 (m):	高木第1層の高さ		16
Deckung d. Baumschicht-1 (%):	高木第1層植被率		30
Höhe d. Baumschicht-2 (m):	高木第2層の高さ		8
Deckung d. Baumschicht-2 (%):	高木第2層植被率		60
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ		4
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層植被率		50
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ		0.3
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層植被率		30
Artenzahl:	出現種数		25
Trennarten d. Gesellschaft: 群落区分種			
<i>Quercus salicina</i>	ウラジロガシ	B-1	3.3
		B-2	2.2
<i>Quercus glauca</i>	アラカシ	B-1	2.2
		B-2	3.3
		S	2.2
<i>Illicium religiosum</i>	シキミ	S	+
<i>Crytomium fortunei</i>	ヤブソテツ	S	+
Kenn- u. Trennarten d. Verb., Ordn. u. Klasse: 群団・オーダー・クラス標徴種及び区分種			
<i>Camellia japonica</i>	ヤブツバキ	B-2	+
		S	1.2
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	S	2.2
<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ	S	+2
<i>Nandina domestica</i>	ナンテン	S	+
<i>Neolitsia sericea</i>	シロダモ	S	+
<i>Podocarpus macrophyllus</i>	イヌマキ	S	+
<i>Ternstroemia gymnanthera</i>	モッコク	S	+
<i>Thea sinensis</i>	チャノキ	S	+
<i>Ilex integra</i>	イヌツゲ	S	+
<i>Fatsia japonica</i>	ヤツデ	S	+
<i>Dryopteris erythrosora</i>	ベニシダ	K	1.2
<i>Ardisia crenata</i>	マンリョウ	K	+
<i>Dryopteris bissetiana</i>	ヤマイタチシダ	K	+
<i>Trachycarpus fortunei</i>	シュロ	K	+
<i>Liloeplatyphylla</i>	ヤブラン	K	+
<i>Trachelospermum asiaticum</i>	テイカカズラ	K	+
Begleiter: 随伴種			
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	S	+
<i>Deutzia scabra</i>	マルバウツギ	S	+
<i>Reineckea carnea</i>	キチジョウソウ	K	1.2
<i>Carex lenta</i>	ナキリスゲ	K	+
<i>Pteris multifida</i>	イノモトソウ	K	+

Fundort 調査地 : 紹太寺 (126) Temp. Shotai-ji am Dez. 1974.

低木層——アラカシ, アオキ, ヒサカキ, ヤブツバキ, シキミ, ナンテン

草本層——ベニシダ, キチジョウソウ

4) 主な社寺林

紹太寺

5) 群落の形態

アラカシーウラジロガシ群落は, アカガシ亜属 *Cyclobalanopsis* のアラカシ, ウラジロガシが優占する常緑広葉樹の高木林であり, いわゆるカシ林といわれる。

アラカシーウラジロガシ群落は, 高さ8~16m, 植被率30%の高木第1層以下, 4~8mの高木第2層, 0.3~4mの低木層, 0.3m以下の草本層の4層群落を, 紹太寺の植分では形成している。

高木第1層, 高木第2層にはアラカシ, ウラジロガシが被度・群度2・2~3・3で繁茂し, 低木層には, 常緑広葉樹のヒサカキ, アオキ, ヤブツバキなどが50%の植被率で生育している。草本層は, ベニシダ, マンリョウ, イタチシダ, ヤブラン, テイカカズラなどヤブツバキクラスの常緑植物が限られた被度, 群度でみられるにとどまる。

6) 群落の立地・分布

アラカシーウラジロガシ群落は, 神奈川県下の海拔400~800m付近の急傾斜地, 岩盤地, 土壌の堆積のほとんどみられない立地を中心に生育する自然植生, 潜在自然植生であり, 一部が二次的に, より低海拔地まで生育域を広げている。

7) 群落の保全

アラカシーウラジロガシ群落を潜在自然植生とする立地には, 社寺を始め住宅, 耕作畑としての土地利用が積極的に行なわれておらず, 一部がヒノキ, アカマツの植林地とされ, 一部が河川沿いなどの岩盤地, 急傾斜地保全林として残されているにとどまる。

11) ヤマボウシーブナ群集

Corno-Fagetum crenatae

(Tab. 15)

1) 群落の相観

ブナクラス域にあって林床にササをもつ表日本型の夏緑広葉樹林。ヒメシヤラが優占する。

2) 標徴種および区分種

ヒメシヤラ, マメザクラ, ニシキウツギ, イヌシデを群集及び群団の標徴種および区分種とする。

3) 主な構成種

高木層——ヒメシヤラ

低木層——マメザクラ, ヤマモミジ, ニシキウツギ

草本層——シキミ, フッキソウ, ツルマサキ, ハコネダケ, ツルマサキ

4) 主な社寺林

箱根神社

5) 群落の形態

ヤマボウシーブナ群集は神奈川県丹沢山地及び箱根山地に見られるブナを優占する夏緑広葉樹林である。構成種としてはブナ, イタヤカエデ, ミズナラ, アオダモ, スズタケ, マメザクラ, オオモミジなどブナクラスにまとめられる落葉広葉樹からなる。箱根神社のヤマボウシーブナ群集はヒメシヤラ純林として知られている。ヤマボウシーブナ群集域で平坦地あるいは緩傾斜地で土壌の深い立

Tab. 15 ヤマボウシープナ群集
Corno-Fagetum crenatae

Nr. d. Aufnahme:	調査番号	1
Exposition:	方位	SW
Neigung (°):	傾斜	10
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	105
Höhe d. Baumschicht (m):	高木層の高さ	16
Deckung d. Baumschicht (%):	高木層植被率	80
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ	4.5
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層植被率	40
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ	2.5
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層植被率	70
Artenzahl:	出現種数	33
<u>Kenn- u. Trnarten d. Ass. u. höheren Einheiten:</u> 群集・上級単位標徴種および区分種		
<i>Stewartia monadelpa</i>	ヒメシャラ	B 5.5
<i>Prunus incisa</i>	マメザクラ	S 1.1
<i>Weigela decora</i>	ニシキウツギ	S +.2
<i>Carpinus tschonoskii</i>	イヌシデ	S +
<u>Trennarten d. Untereinheiten:</u> 下位単位区分種		
<i>Ilex crenata</i>	イヌツゲ	S 2.2
<i>Arundinaria vaginata</i>	ハコネダケ	K 3.4
<i>Illicium religiosum</i>	シキミ	K 3.3
<i>Kalopanax pictus</i>	ハリギリ	S +
<i>Torreya nucifera</i>	カヤ	S +
<u>Begleiter:</u> 随伴種		
<i>Acer palmatus</i> var. <i>matsumurae</i>	ヤマモミジ	S 2.3
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	S 2.2
<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	カマツカ	S 1.2
<i>Prunus jamasakura</i>	ヤマザクラ	S 1.2
<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ	S +
<i>Ligustrum obtusifolium</i>	イボタノキ	S +
<i>Thea sinensis</i>	チャノキ	S +
<i>Camellia japonica</i>	ヤブツバキ	S +
<i>Sambucus sieboldiana</i>	ニワトコ	S +
<i>Cephalotaxus harringtonia</i>	イヌガヤ	S +
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	S +
<i>Pachysandra terminalis</i>	フッキソウ	K 2.2
<i>Euonymus fortunei</i> var. <i>radicans</i>	ツルマサキ	K 1.2
<i>Rubus palmatus</i> var. <i>coptophyllus</i>	モミジイチゴ	K 1.2
<i>Viola grypoceras</i>	タチツボスミレ	K +
<i>Hedera rhombea</i>	キツタ	K +
<i>Solidago virga-aurea</i> var. <i>asiatica</i>	アキノキリンソウ	K +
<i>Pteris cretica</i>	オオバノイノモトソウ	K +
<i>Geum japonicum</i>	ダイコンソウ	K +
<i>Spuriopimpinella calycina</i>	カノツメソウ	K +
<i>Tripterospermum japonicum</i>	ツルリンドウ	K +
<i>Sceptridium ternatum</i>	フユノハナワラビ	K +
<i>Abies firma</i>	モミノキ	K +
<i>Microlepia marginata</i>	フモトシダ	K +

Fundort 調査地: 箱根神社 (181) Schr. Hakone am 9. Dez. 1974.

地にしばしば見られるヒメシャラの優占林分と判定され、同様な林分は天城連山にも知られている。林床にはハコネダケが高い被度で生育するが林内に風が入るようになったために侵入したとされる。出現種数は群落の最盛期で33種が記録された。冬季樹林の落葉後もヒメシャラの赤褐色の樹幹が特徴的な相観を示す群落である。

5) 群落の立地・分布

ヤマボウシーブナ群集は県内の丹沢山地、箱根山地の標高約 800 m 以上の土壌のやや厚い斜面に分布する。神奈川県下では火山性の箱根と変成岩起源の丹沢では立地条件が異なるために、それぞれの立地に対応した下位群落が多く報告されている。箱根では硫気あるいは火山起源の酸性土壌の影響を受けた下位群落の生育が知られている。



Fig. 6 ヤマボウシーブナ群集の植生断面模式

Vegetationsprofil des Corno-Fagetum crenatae

- | | |
|-----------|---|
| 1: ヒメシャラ | <i>Stewartia monadelph</i> |
| 2: ハコネダケ | <i>Pleioblastus chino</i> var. <i>vaginatus</i> |
| 3: マメザクラ | <i>Prunus incisa</i> |
| 4: フッキソウ | <i>Pachysandra terminalis</i> |
| 5: ニシキウツギ | <i>Weigela decora</i> |
| 6: イヌツゲ | <i>Ilex crenata</i> |
| 7: イヌシデ | <i>Carpinus tschonoskii</i> |
| 8: カマツカ | <i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i> |

7) 群落の保全

神奈川県では神社・仏閣のほとんどは海拔 750 m 以下のヤブツバキクラス域に集中している。ブナクラス域の社寺は数えるほどにすぎない。ブナクラス域の社寺林は大山神社の山頂と、この箱根神社 2 か所だけが知られている。保全については、林内への立入りを禁止して、ニシキウツギなどの補植

によるマント群落(林縁群落)を形成し、周辺部からの風や直射日光の侵入を防ぐ方策が挙げられる。

b) 代償植生

Ersatzgesellschaften

数百年あるいは千年以上の歴史をもつ社寺の森林は長い年月の間には大なり小なり人為的影響を受けている。伐採、植林、下草刈り、皆伐といった強い人為的干渉のもとでは自然植生はおきかえられて代償植生となる。今回の植生調査は自然植生に重点がおかれ、代償植生の調査資料は少なかったが、それでも11の群落単位がみつめられた。

これらの代償植物群落は県内のすべての地域にわたって生育し、人為的干渉の種類、程度あるいは干渉からの時間的経過によって多様な形態を示している。広大な境内の中に自然植生と代償植生がそれぞれ適当に配置されることによって、寺院の壮厳性を維持しながらある程度の経済を支え、しかも多彩な自然に近い景観を示す神武寺境内林のような例もある。また、代償度の高いアズマネザサーススキ群集やシバ群落などの草本群落も植生保全や景観保持上のはたらきが大きい。

1) オニシバリーコナラ群集

Daphnopsseudomezereum-Quercetumserratae (Tab. 16)

社寺林にはコナラで特徴づけられる林分は比較的少ない。神武寺で記録された二次林は夏緑広葉樹のコナラ、マルバアオダモ、ヤマザクラ、カマツカ、ツクバネウツギ、ムラサキシキブなどイヌシバリーコナラ群団の種が多く生育している。オニシバはみられない林分もあるが、スダジイ、ジュズネノキ、オオバウマノスズクサ、トベラ、イヌビワなどの区分種によってオニシバリーコナラ群集の林分と判定される。神武寺のオニシバリーコナラ群集はスダジイやウラジロガシが亜高木層および低木層に高い植生率で生育している特色がある。そのほかにもアオキ、ヤブツバキ、モチノキ、アカガシ、アラカシなどが亜高木層、低木層に目立つ。

この事実は、神武寺の二次林が、最近数十年間は薪炭林としては利用されず、林内の下草刈り、落葉かきなどもあまりされなかったため、自然植生への回復がかなり進んでいることを示している。

2) クヌギーコナラ群集

Quercetumaccutissimoserratae (Tab. 16)

横浜市の社寺林のうちコナラを主とした林分の植生調査資料はクヌギーコナラ群集としてまとめられた。逗子市の二次林と比較するとスダジイ、トベラ、イヌビワなど沿海性の種群を欠き、シュロ、エゴノキ、イヌワラビなどの区分種によって、クヌギーコナラ群集にまとめられた。調査された場所がいずれもシイタブ林域とシラカシ林域の境界域であるためか標徴種のクヌギ、キンラン、ホソバヒカゲスゲ、ヤマコウバシを欠いている。また神社や寺院の所有林であるために、下草刈りや落葉かき、あるいは皆伐といった一般的な薪炭林の管理が行われていない場合もある。そのために、時には高木層にクロマツやアラカシが20~30%の被度で混生している場合もある。クヌギーコナラ群集の生育域は一般にローム層の厚いしかも黒ボク土壌の肥沃な立地である。

クヌギーコナラ群集やオニシバリーコナラ群集は神奈川県内の社寺林の裏山に一般に広くみられる二次林である。その中には二次的進行遷移が進んで自然林に近いほど回復している林分もある。また、自然植生の隣接域にあって、自然林保全のための緩衝林やマント群落の機能をもつ林分もある。

3) イヌビワ-ミズキ群落

Ficus erecta-Cornus controversa-Gesellschaft

(Tab. 17)

横浜市南部の2寺院から調査されたミズキ林はイヌビワ-ミズキ群落としてまとめられた。高木層にミズキが10~30%の植被率を占めており、イヌビワ、タブノキが特徴的である。さらに、常緑広葉樹種のシロダモとアオキが高い被度で生育している。このような種構成からみると逗子市から報告されたアオキ-シロダモ群落に類似している。〔12〕善行寺の寺林では高木層の被度がきわめて高く、林床は貧弱であり、種類も少ない。〔14〕無量寺の寺林は本堂の後部においてイヌビワ、ケヤキ、ミズキが高木層を占めており、低木層以下にヤブツバキクラスの種が多い森林である。イヌビワ-ミズキ群落はイノデータブ群集域における代償植生と判定され、善行寺の場合のように隣接する自然度の高いイノデータブ群集の森林植生へと遷移が進行するものとみられる。

4) イヌシデ群落

Carpinus tschonoskii-Gesellschaft

(Tab. 18)

神奈川県東部の神社には、イヌシデの植樹がしばしばみられる。参道とか鳥居の両側などには、灰白色の樹幹に縦に隆起のめだつイヌシデの大木が生育し、時にはそれを中心にして群落が形成されている。Tab. 18 にまとめられたイヌシデ群落のうち、Aufn. Nr. 1 と 2 は丘陵の向陽の凹状斜面の二次林であり、3 と 4 は、沖積面の微高地に植栽されたイヌシデを中心形成された群落である。種組成的には、県内のスタジータブ林域とシラカシ林域の境界近くに広くみられるイヌシデ-コナラ群落に類似している。神社の境内ということで特別な人為的作用を受けたためかコナラの生育が少ない。落葉広葉樹のイヌシデが優占し、他にスイカズラ、ガマズミ、ヒカゲスゲ、ミツバアケビを伴う。神社林としてのイヌシデ群落の特徴は常緑広葉樹種が高い被度をもって生育している。特にヤブツバキ、タブノキ、アラカシ、シラカシ、アカガシなどがめだっている。このような種の構成を示すのは、イヌシデ群落がかつては択伐をされていたことによるものと判定される。イヌシデやケヤキは残しながらも他の落葉広葉樹は択伐し、さらに常緑樹——ときわ木——を残すように管理されてきた。〔81〕春日神社と〔89〕汁守神社では常緑広葉樹林への回復が進んでいる。

5) スギ・ヒノキ植林

Cryptomeria japonica-Chamaecyparis obtusa-Forst

(Tab. 19)

スギ、ヒノキ、サワラの植樹は県下の神社や仏閣に広くみられる。〔120〕円覚寺や〔197〕根小屋神社のようにスギが境内に列植されたり、〔164〕御嶽神社の例のように単木として巨樹になったものもある。樹高30mから40mに達する大木のまっすぐに伸びた樹幹やもりあがった樹姿は境内に独得の景観をつくりだしている。

スギ、ヒノキ、サワラはその生長の速さと材質の良さによって他の樹木よりすぐれた、古くから有用植栽樹とされてきた。神社や仏閣ではときわ木として境内の神秘性を保つと同時に経済的な価値が高かった。

県内の社寺について調査するとアカマツやクロマツの植林よりも、スギ・ヒノキ植林の数がはるかに多い。植生調査が行なわれた19の林分はTab. 18にまとめられた。多くの場合、高木層は20mほどで4層の森林構造を形成しており、管理の状況にもよるが低木層の被度は低い。スギや、ヒノキの植栽



Phot. 9 根小屋諏訪神社は高さ40mのスギの大木に囲まれている (Nr. 197).
Negoya-Suwa-Shinto-Schrein mit über 40 m hohen *Cryptomeria japonica*-Bäumen.

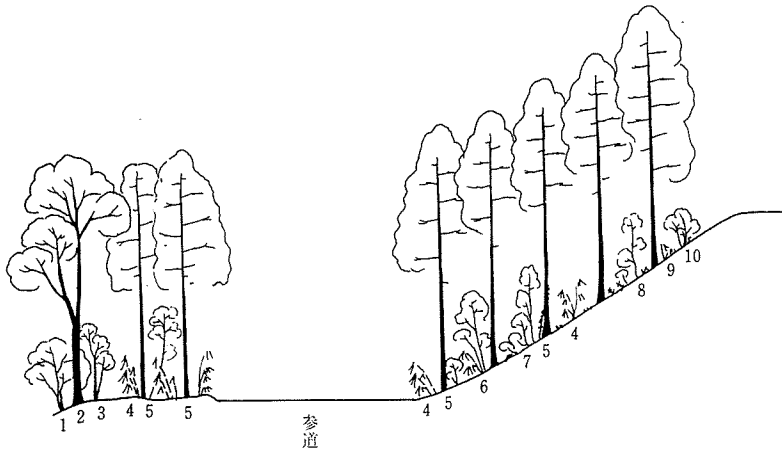


Fig. 7 スギ植林の断面模式図

Schematisches Vegetationsprofil des Forestes von *Cryptomeria japonica*

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1: ケヤキ | <i>Zelkova serrata</i> |
| 2: タブノキ | <i>Persea thunbergii</i> |
| 3: シロダモ | <i>Neolitsea sericea</i> |
| 4: アズマネザサ | <i>Arundinaria chino</i> |
| 5: スギ | <i>Cryptomeria japonica</i> |
| 6: ウラジロガシ | <i>Quercus salicina</i> |
| 7: ヤブツバキ | <i>Camellia japonica</i> |
| 8: ケンボナシ | <i>Hovenia dulcis</i> |
| 9: フユイチゴ | <i>Rubus buergeri</i> |
| 10: アオキ | <i>Aucuba japonica</i> |

地は湿性ないし適湿地の緩傾斜地が多く、林床へは光がはいらないのにもかかわらず林床の植被率は高い場合が多い。

スギ・ヒノキ植林は、種組成的に2つに下位区分される。シラカシ林域の植林地はキツタ、シラカシ、ムラサキシキブ、シュロなどによって下位区分される林分で県北、県央、小田原地区などのスギ・ヒノキ植林地がこれにあたる。他の下位単位はタブノキ、ヤブニッケイ、ニワトコで区分される林分でスダジイ林域に生育している。タブノキ下位単位はさらにジウモンジシダ、フウトウカズラ、イズセンリョウ、オオバイノモトソウ、イヌビワなどの沿海性の種群からなる下位群落に区分される。

社寺林としてのスギ・ヒノキ植林地の管理状態はさまざまであり、〔195〕普門寺のように下草刈り、枝打ちなどが整然とされた典型的な植林もあれば、低木や下草が繁茂するにまかせた林分もある。高木層の高さは最高30mで推定樹令は100年を越す林分もあるが、伐採方式は間伐ないしは択伐とみられる。

日本の東北地方および中部地方のブナクラス域では社寺林は多くの場合スギ植林であり、常緑広葉樹林は少ない。県下でも県北、南足柄市、箱根などの山地部にスギ植林をした社寺林がめだつ。

6) マテバシイ植林

Pasania edulis-Forst

(Tab. 20)

マテバシイ植林はスダジイに似た半球状の樹冠を密閉させて、一見自然林と見誤ることがある。マテ

Tab. 20. マテバシイ植林
Pasanian edulis-Forst

Nr. d. Aufnahme:	調査番号		1
Exposition:	方位		NW
Neigung (°):	傾斜		10
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積		210
Höhe d. Baumschicht-1 (m):	高木第1層の高さ		50
Deckung d. Baumschicht-1 (%):	高木第1層植被率		90
Höhe d. Baumschicht-2 (m):	高木第2層の高さ		7
Deckung d. Baumschicht-2 (%):	高木第2層植被率		30
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ		3
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層植被率		20
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ		0.5
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層植被率		10
Artenzahl:	出現種数		17
<u>Gepflanzte Bäume:</u>			
Pasanian edulis			
	マテバシイ	B-1	2.2
		B-2	2.2
Ilex integra	モチノキ	B-1	2.2
		B-2	1.2
<u>Arten d. Camellietea japonicae:</u>			
ヤブツバキスラスの種			
Camellia japonica	ヤブツバキ	B-1	1.2
Quercus acuta	アカガン	B-2	1.2
		S	+
Castanopsis cuspidata var. sieboldii	スタグジイ	B-1	1.1
Dendropanax trifidus	カクレミノ	B-2	+2
		S	+2
Aucuba japonica	アオキ	S	2.2
		K	+2
Persea thunbergii	タブノキ	K	+2
Euonymus japonicus	マサキ	K	+
Farfugium japonicum	ツワブキ	K	+
Dryopteris erythrosora	ベニシダ	K	+
Ophiopogon japonicus	ジャノヒゲ	K	+
<u>Sonstige Arten:</u>			
その他の種			
Prunus jamasakura	ヤマザクラ	B-1	2.2
Quercus serrata	コナラ	B-1	+
Callicarpa mollis	ヤブムラサキ	S	1.2
Arundinaria chino	アズマネザサ	K	+2
Ficus erecta	イヌビワ	K	+

Fundort 調査地 : 大松寺 (112) Temp. Daisho-ji am 1974.

バシイは現在市街地の緑化にも利用されているように、乾性立地に適応力が強く、萌芽再生力もあり、小枝はまっすぐに斜上して密な林冠をつくる。〔112〕大松寺で観察されたマテバシイ林は自然林にかなり近いものと考えられる。高木層はマテバシイのほかモチノキ、ヤブツバキ、スダジイが、亜高木層にはカクレミノとアカガシが加わって常緑広葉樹の優占する林冠をつくっている。高木層の樹冠は90%の植被率を占めるので林内は暗く、未分解の落葉層が厚く堆積し、林床植物は貧弱である。

マテバシイ植林は神奈川県内では三浦半島南部に見られ、多くの林分で亜高木層にマテバシイが優占する。〔112〕大松寺の林分のようにモチノキ、スダジイ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹の高木が混生する林分の成立には混植されたものかまたは自然に芽生えたものを下刈りの時に残して育てたものかの2つがあげられる。大松寺の林分は代償植生とはいふものの、乾生スダジイ林に極めて近い種組成を示している。

神奈川県下の臨海域の温暖なところでは、埋立て地、造成地など乾燥した立地であってもマテバシイ植栽、生育は可能である。現在でも京浜東北線沿い、国道沿いなどに並木状に植栽が行なわれている。今後は、マテバシイを単木的に植栽するのではなく、サザンカ、トベラ、シャリンバイなどを周辺に混植していくことによって多様で安定した環境保全、景観保全の機能が高められる。

7) アカマツ植林

Pinus densiflora-Forst

(Tab. 21)

神社仏閣にはアカマツの植栽樹は比較的少なく、また植林もスギ、ヒノキに比べるときわめて少数である。茅ヶ崎市と津久井町の寺林から得られた2つの資料がTab. 21にまとめられた。アカマツは樹冠が開放的であり、林内が明るい。そのために、林内では陰樹は育ちにくく、常緑広葉樹種の種数や被度が低いことが特徴的である。下草刈りやつる切りなどの手入れが最近行われないことと相まって林内には草地性の植物やつる植物が多くなっている。ナツツタ、フジ、ヘクソカズラ、アマチャヅル、カラスウリ、トコロ、アオツツラフジ、ツルウメモドキなどが特にめだち、〔198〕功雲寺では63種の出現種のうち13種がつる植物である。

アカマツは樹木の有用性もスギやヒノキに比較して低く、また最近まんえんしている病虫害にも抵抗力が弱くて社寺林から姿を消しつつある。

8) クロマツ植林

Pinus thunbergii-Forst

(Tab. 22)

社寺の境内には単木のクロマツは多く植栽されているが、クロマツ植林地は比較的少ない。〔127〕白峯寺と〔76〕専称寺のクロマツ植林の植生調査がまとめられた。2つの植分ともにクロマツの樹高は10m前後と低く、林冠はすいている。〔127〕白峯寺のクロマツ植林では植被率50%で、陽光は林内にはかなりはいっている。いずれの例でもあまり手入れはされていないようで、低木層、草本層の植被率が高く、下草が繁茂するにまかせたという状態である。ヤブツバキクラスの種としてはアオキ、シロダモ、ヤブラン、ヒサカキなどの生育が著しい。また、シオデ、アオツツラフジ、トコロ、ヘクソカズラ、アケビなどのつる植物が蔓延している。

アカマツに比べて材がち密なクロマツもスギ、ヒノキよりは用材としての価値は低いいため、利用度は少ない。

9) クヌギ植林

Quercus acutissima-Forst

(Tab. 22)

社寺の広い敷地には夏緑広葉樹の植栽樹林が2, 3みうけられる。[135] 新田稻荷のソメイヨシノ (*Prunus yedoensis*) の植栽地は境内の大部分を占める植栽林で鑑賞用としての機能をもつ。有用木のクヌギ植林は [41] 浅間神社にみられた。

南向きの斜面に列植されたクヌギは樹高およそ18mに生育していて、その樹木の姿からみてかつて1度も伐採されたことは無いらしい。クヌギの樹令は約40~50年ほどと推定される。林内は現在のところ、下刈りや落葉かきなどの管理はまったくされず下草が茂るままに放置されている。ヤブツバキクラスの常緑広葉樹としてはスダジイ、アオキ、トベラ、テイカカズラなどが5~30%の被度で生育している。また、オニシバリーコナラ群集とその上級単位の種も多く、コナラ、ムラサキシキブ、ガマズミ、トベラ、イボタノキなども生育している。低木層、草本層の植被率は70~90%で出現種数も多い。

神奈川県内では19世紀の末から、木炭の需要が急増し、それにとまって各地でクヌギやサクラ類の薪炭木の植樹が盛んになった。こうして造林された薪炭林は十数年から二十年に1回皆伐され、その間に下草刈りや落葉かきなどの管理が十分にされていた。しかし、燃料の変換に伴って木炭の需要が激減し、このようなクヌギ植林地はほとんど省みられなくなっている。

10) モウソウチク林

Phyllostachys heterocyclus f. *pubescens*-Bestand

(Tab. 24)

199の調査対象のうち、境内の中やそれに続く境外にモウソウチク、マダケあるいはヤダケなどの竹林を所有するものは10数か所あり、神社よりも寺院に多かった。このようないわゆるお寺の竹やぶはその管理面からみて種々の段階がある。寺の境内にあって、管理がきわめてよくゆき届き、低木も林床植物もほとんど生育していない川崎市の [93] 影向寺のような例もある。また [4] 定光寺、 [35] 長源寺のように全く放置されていて林内には高木が繁茂し、出現種類数も40種をこえる植分もある。

調査された4植分についての組成は Tab. 23 に示される。多くの場合、モウソウチクは被度70%以上で林内をおおい、管理の行き届いた林分では低木層、草本層の発達が悪い。しかし、管理がおろそかになるとヒサカキ、アオキ、ヤブツバキ、モチノキ、ナンテンのような常緑広葉樹種が多くなる。モウソウチクは山足部のやや湿生地で、肥沃な土壌の立地に生育するとされている。アマチャヅル、ミズヒキ、ムクノキ、アオイスミレなどで下位区分される竹林は特に黒ボクの土壌が厚い緩傾斜地で湿潤な立地に生育している。

モウソウチク林は代償植生であり、自然度は高くはないが常緑であり、林内で潜在自然植生の構成種を保存する機能は大きいとされる。最近少なくなったクマガエソウ、エビネ、マンリョウなどの植物を温存していくのも竹林の林床である。お寺の竹やぶとしての景観を保持すると共に、社寺の自然林の縁どりとしてのはたらきをも併せもつ群落として評価される。

Tab. 23. クヌギ植林
Quercus acutissima-Forst

Nr. d. Aufnahme:	調査番号	1
Exposition:	方位	SW
Neigung (°):	傾斜	30
Größe d. Probefläche (m ²):	調査面積	1500
Höhe d. Baumschicht (m):	高木層の高さ	18
Deckung d. Baumschicht (%):	高木層植被率	80
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ	3
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層植被率	70
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ	0.8
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層植被率	90
Artenzahl:	出現種数	45
<u>Gepflanzte Baum:</u>	植栽樹種	
Quercus acutissima	クヌギ	B 4.4
<u>Arten d. Camellietea japonicae:</u>	ヤブツバキクラスの種	
Castanopsis cuspidata var. sieboldii	スダジイ	B 1.2
		S 1.2
Aucuba japonica	アオキ	S 1.2
		K 1.2
Pittosporum tobira	トベラ	S 1.2
Dryopteris erythrosora	ベニシダ	K 1.2
Trachelospermum asiaticum	テイカカズラ	K 1.2
Ophiopogon japonicus	ジャノヒゲ	K +.2
Dryopteris hondoensis	オオベニシダ	K +
Elaeagnus glabra	ツルグミ	K +
<u>Sonstige Arten:</u>	その他の種	
Quercus serrata	コナラ	B 1.2
Rhus sylvestris	ヤマハゼ	B +.2
		S 1.1
		K +
Kalopanax pictus	ハリギリ	B +
		K +.2
Albizia julibrissin	ネムノキ	B +
Euscaphis japonica	ゴンズイ	S +
		K +.2
Smilax china	サルトリイバラ	S +
Viburnum dilatatum	ガマズミ	S 1.2
Arundinaria chino	アズマネザサ	S 3.3
		K 4.4
Rhus javanica	ヌルデ	S 2.2
Callicarpa japonica	ムラサキシキブ	S 1.2
Ligustrum obtusifolium	イボタノキ	S +
Lespedeza buergeri	キハギ	S +
Cornus controversa	ミズキ	S +.2
Dioscorea japonica	ヤマノイモ	K 1.2
Aster scaber	シラヤマギク	K +.2
Akebia trifoliata	ミツバアケビ	K +.2
Dioscorea tokoro	トコロ	K +.2
Calamagrostis arundinacea var. brachytricha	ノガリヤス	K +.2
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ	K +.2
Osmunda japonica	ゼンマイ	K +
Commelina communis	ツユクサ	K +
Chrysanthemum makinoi	リュウノウギク	K +
Brachypodium sylvaticum	ヤマカモシダ	K +
Cirsium nipponicum var. incomptum	タイアザミ	K +
Rubia akane	アカネ	K +
Achyranthes japonica	イノコズチ	K +
Morus bombycis	ヤマグワ	K +
Desmodium mandshuricum	ヤブハギ	K +
Phryma leptostachya var. asiatica	ハエドクソウ	K +
Polygonum yokusaianum	ハナクサ	K +
Athyrium japonicum	シケシダ	K +
Plectranthus inflexus	ヤマハッカ	K +
Pourthiaea villosa var. laevis	カマツカ	K +
Dryopteris uniformis	オクマワラビ	K +
Amphicarpaea trisperma	ヤブマメ	K +
Athyrium niponicum	イヌワラビ	K +

Fundort 調査地 : 浅間神社 (41) Sengen-Tempel am 23. Sept. 1974.

2. 単木について

第1次調査の際に、県の天然記念物指定の希望がだされたものの大半は老樹、巨樹、稀少種などの単木についてであった。これらの樹木について、生育状況などが記録された。

対象とされた樹木には以下の樹種がある。

Cycas revoluta ソテツ

叶神社〔105〕

Ginkgo biloba イチョウ

常倫寺〔1〕 中村八幡〔16〕

貞昌院〔21〕 大仙寺〔28〕

正福寺〔29〕 称名寺〔47〕

真福寺〔56〕 東泉寺〔69〕

薬王院〔75〕 専称寺〔67〕

影向寺〔93〕 泉福寺〔94〕

長念寺〔99〕 真福寺〔113〕

白髪神社〔108〕 白髪神社〔139〕

鷹取神社〔172〕 室生神社〔178〕

イチョウの大木は寺院に多く、山門の両側に対に植えられていることもある。影向寺のようにかなりの大木になると枝が切り払われて樹姿が不整になることもある。

Torreya nucifera カヤ

清来寺〔37〕 福泉寺〔38〕

熊野神社〔51〕 旧城寺〔60〕

真福寺〔61〕 白髪神社〔139〕

室生神社〔178〕

神社にも寺院にも植栽されていて、神木としての扱いをうけている木もある。比較的県の東部に多い。

Abies firma モミ

杉山神社〔52〕 王子神社〔59〕

白山社〔85〕 十二社〔90〕

日向薬師〔153〕 八菅神社〔189〕

八幡神社〔91〕

モミの大木は内陸部の神社に比較的目だった。鳥居の両側や社殿裏の尾根部に植栽されている例もある。

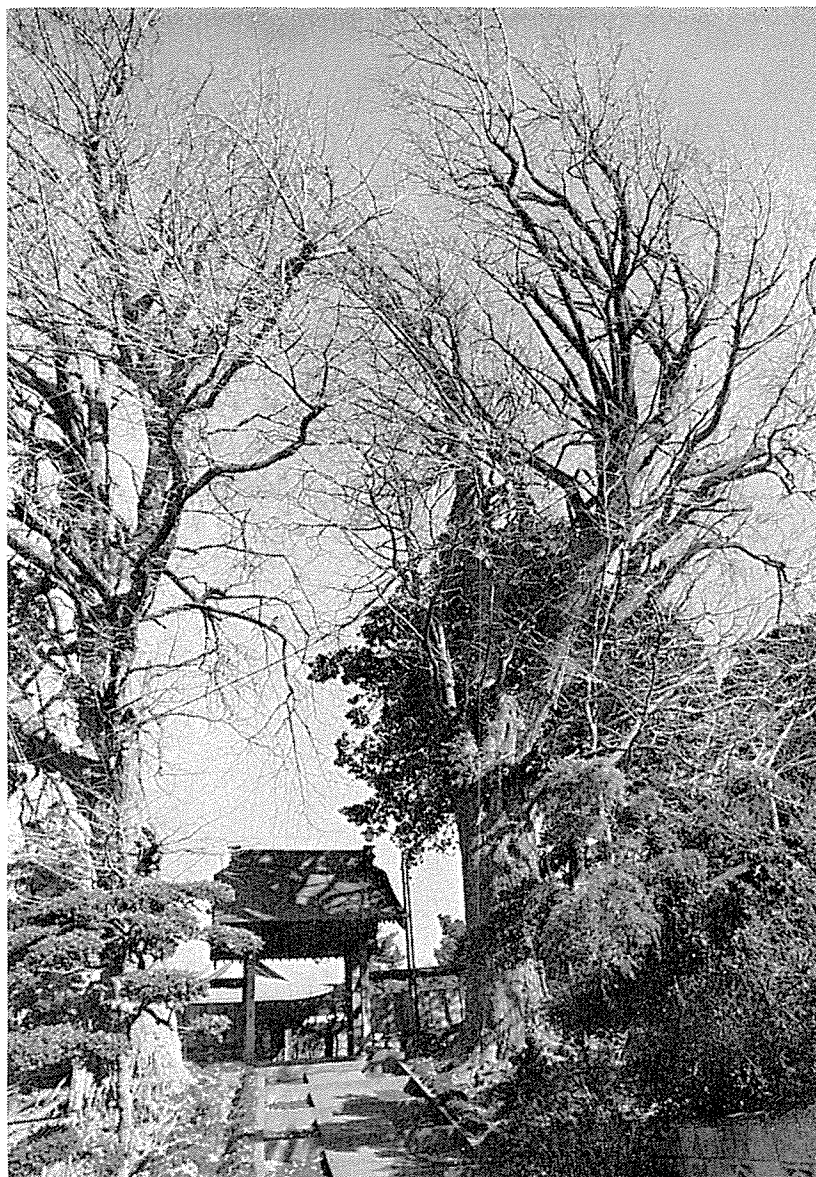
Pinus thunbergii クロマツ

八幡神社〔11〕 定泉寺〔67〕

クロマツの著しい大木は比較的少ない。社寺の境内のクロマツは植木としての手入れがよくされている。

Cryptomeria japonica スギ

無量光寺〔136〕 勝楽寺〔187〕



Phot. 10 [69] 東泉寺のイチョウ
神奈川県内の寺院では山門の両側にイチョウが2本植えられる例が多い。
Große *Ginkgo biloba*-Bäume am Tosenji-Tempel.



Phot. 11 [16] 御嶽神社

樹高40mを越す2本のスギが根元を接して生育している。

Shinto Schrein Mitake mit über 40 m hohen Bäumen von *Cryptomeria japonica*.

普門寺 [195] 御嶽神社 [164]

根小屋諏訪 [197]

県央から県の西北部の社寺にスギの大木が多くみられた。最も樹高の高かったのは御嶽神社の樹高50mスギである。その他に *Cunninghamia lanceolata* コウヨウザン 阿弥陀寺 [182], *Araucaria cunninghamii* ナンヨウスギ 海蔵寺 [124] などがスギ科の大木である。

Castanopsis cuspidata var. *sieboldii* スダジイ

御嶽神社 [88] 白峯神社 [127]

光照寺 [140] 五社神社 [170]

普門寺 [195]

スダジイの大木は群落をつくっていることが多く単木は少ない。

Quercus acuta アカガシ

天神社 [26] 鉄神社 [58]

Zelkova serrata ケヤキ

大仙寺 [28] 勝国寺 [3]

遍照寺 [31] 三会寺 [54]

三島神社 [128] 深見神社 [151]

Cinnamomum camphora クスノキ

大仙寺 [28] 東福寺 [49]

真福寺 [56] 本興寺 [72]

東蔵寺 [109]

Persea thunbergii タブノキ

善行寺 [12] 妙香寺 [19]

福聚院 [24] 最勝寺 [74]

延命寺 [97] 妙伝寺 [129]

海岸沿いの地域の社寺に多い。

Prunus zippeliana バクチノキ

海蔵寺 [124]

Ternstroemia gymnanthera モッコク

延命寺 [97]

Ilex rotunda クロガネモチ

東漸寺 [110]

Hovenia dulcis ケンボナシ

定光寺 [4]

大木や老樹は多くが境内庭園の植栽樹であり、まわりがきれいに掃き清められたり、あるいは木の根元まで人が踏みつけるような環境にある。ただ単木として生育する樹木は、かつて県文化財に指定された真福寺（横浜市）のモミジのように枯死もみられる。現在では各地方の公共団体によって大木や老樹の一部が保護されている。横浜市の古木名木指定や川崎市の環境保全指定がその例である。

3. 各社寺の植生

Vegetation der einzelnen Schrein und Tempel

1. 常倫寺 Templ Jorin-ji

所在地 横浜市鶴見区駒岡町

常倫寺は駒岡町の二ッ池の付近にあり、下末吉台地の斜面に位置する。周辺部は新しく開けた住宅地で、水田や畑も一部には残っている。寺の総面積は3,800 m²であり、寺林は山門の北側と基地周辺に約1,200 m²がある。山門の北側から沖積地の畑に続く斜面の林はアカガシ、シロダモ、モチノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなどの常緑広葉樹にミズキ、ケヤキなどの混生する樹林でヤブコウジースダジイ群集の植分と判定される。低木層にはアオキが優占し、シュロ、ヤブツバキ、ヤツデなどが生育する。林床にはキチジョウソウ、ベニシダ、シャガなどの植被率が高く、その他にも常緑のキツタ、シュロ、アカガシ、ヤブソテツ、オクマワラビ、オモト、マンリョウが生育し、一部には植栽種のハランやアジサイもみられる。この樹林は沖積地に接した傾斜地で、排水のよい適湿地であり、土壌は黒ボクである。

基地周辺の樹林はスダジイ、シラカシ、ケヤキ、ヤブツバキ、シロダモ、イヌガヤ、アカガシなどの樹木からなる植生でヤブコウジースダジイ群集アカガシ亜群集とされる。アオキ、ヒサカキ、ヤツデ、キツタ、オモト、ジャノヒゲ、マンリョウ、ナンテン、ヒイラギなどのヤブツバキクラスの植物が多数生育している。ここでは一部母岩の露出があり、土壌は褐色森林土壌である。

常倫寺の樹林には高木層から低木層、草本層にいたるまで、各階層にヤブツバキクラス構成種の植物がきわめて多数生育して、それらがバランスよく保たれている。また、傾斜が急なために林内への人の立ち入りも少ない。多くの社寺林にみられるようなスギ、ヒノキ、サワラなどの常緑針葉樹の植栽もほとんどみられない。この点から常倫寺の樹林はかなり自然林に近いものと判定される。面積がせまいので、面的な保全も考慮し、できれば周辺部も含める必要がある。林内へ墓地掃除の際に生じる塵芥を投棄しないこと、林内へ立ち入らないことなどがあげられる。なお駒岡町では常倫寺を中心としてほかにも、自然林に近い常緑樹林が点々とみられる。これらは横浜市自然山林保存地区に指定されている。

2. 宝生寺 Tempel Hosho-ji

所在地 横浜市南区堀ノ内町

ヤブコウジースダジイ群集

イノデータブ群集

宝生寺は堀ノ内町の国道16号線の西側台地斜面から台地の上部にかけて約1,500 m²の面積をもつ。泉警本部堀之内寮に続く一帯の常緑広葉樹林は、横浜市内でも有数のまとまった林相を示している。堀ノ内町の繁華な商店街から続く住宅地に接してヤブツバキ、タブノキなどの樹林が見られるが山門までの面積は比較的せまい。

本堂の裏手から基地にかけての樹林は主として3つのタイプに分けられる。それはクスノキ、シラカシなどの植栽樹種を中心とした樹林である。斜面のやや下部は適湿地であり、亜高木層以下の各階層は50~70%の高い被度でミズキ、イヌビワ、クスノキ、アオキ、ヤブツバキ、ガマズミ、ムラサキシキブなどが繁茂している。この立地は本来、イノデータブ群集域とみられるが土壌がきわめて良く発達しており、シラカシが繁茂して、一見シラカシ群集とみられる林をつくっている。しかし、イヌビワ、トベラなどシイタブ林の種群によって構成されることから、植樹に伴う特異な群落と考え

られる。

台地の上部から尾根にかけては、土地がや、乾燥していて、スダジイを主とする林分となっている (Tab. 6)。高木層に優占するのはスダジイで、樹令は特に高くはないが生育良好である。亜高木層にもスダジイが多く、ヤブツバキ、イヌビワ、ミズキなどが生育している。種組成の上からはヤブコウジースダジイ群集と判定され、各階層に常緑樹種の多いまとまった林分となっている。台地の上部へ向かって小径が通じているが、現在のところ、特に林床植物に影響を与えるほどの林内立入りは多くない。

タブノキを主とした林分は小支谷状地に設けられた墓地の両側に帯状に続いている (Tab. 8)。ケヤキが高木層に優占するが亜高木層にはタブノキが多く、ヤブツバキの被度も高く、まとまった樹林を形成している。宝生寺のこの小支谷部は面積はややせまいが種組成上からはイノデータブ群集と判定される林分である。

以上の点を総合すると1つの寺林に3つのタイプの常緑広葉樹林があり、そのいずれもが、かなり良好な状態で保存されている稀な例である。現在この宝生寺を含む台地の林は横浜市緑政局の斜面緑地保安林とされている。隣接する商店街や住宅密集地の中で、これだけ自然度の高い樹林が残されていることは現代の奇跡とも言えるほどで、宝生寺の林分が今後とも、自然度の高いままでの保護、保全されるように十分な措置が望まれる。

3. 勝国寺 Tempel Shokoku-ji

所在地 横浜市南区蒔田町932

ヤブコウジースダジイ群集 (Tab. 6)

勝国寺は南区と磯子区との境に近い台地の西縁部に位置している。周辺には学校などがあり、比較的閑静な環境となっている。

勝国寺の寺林は台地の中腹に南向きの斜面を被っている。寺の東側の基地には樹高20mをこえるスダジイやアカガシの大木が数本生育している。本堂北側は急な斜面となっていて、そこに常緑広葉樹が密生しているが、面積はせまく、十分な植生調査区の設定はできなかった。本堂の西側にはスダジイを中心とする樹林がある。

基地を中心とした樹林は Tab. 6 に示される。タブノキ、ケヤキ、アカガシなどの樹高は22mにも及び、独立木としても市内で有数の大木である。基地であるために低木層、草本層はきわめて貧弱であって常緑広葉樹林とは言えない。ケヤキやタブノキは枝先が枯れて、樹形が著しくくずれているものがあり、本堂からその後背地に沿って枯れた枝先が目だっている。

本堂の西側の樹林はスダジイを中心とした混交林である。植栽されたとみられる推定樹令200年前後のスダジイを中心にミズキ、ヤマザクラ、ヤブツバキ、アカガシ、モチノキなどが生育している。この樹林は中心部にあたる部分に高木層を欠くために日光の透入が多く、林床は草原状となっている。

文化財の指定については墓地のタブノキ、ケヤキ、アカガシなどが横浜市街地で有数の大木であるために全体をまとめた地域指定にして、保全策が講じられるべきである。本堂西側の樹林については積極的な補植をすることによって自然度の高い森林への復元を図ることが望ましい。また、この台地全体をみると、無量寺、吉祥寺の寺林をも含めた台地斜面全体の植生を、周辺部ともに保全することが好ましい。

4. 定光寺 Tempel Joko-ji (Tab. 24)

所在地 横浜市南区六ツ川町

定光寺は六ツ川一丁目の南向台地斜面約4,000 m²を占めている。背後の斜面約3,000 m²が寺所有の常緑広葉樹林であり、台地の上部は新興の住宅地となっている。

寺の本堂と基地をめぐるモウソウチクの優占する混交林となっている。モウソウチクは亜高木層を50%ほどの被度で占めているが、高木層にはアカガシ、モチノキ、ヤブツバキ、ヒサカキなども生育している。また夏緑広葉樹のケヤキ、ミズキ、イロハモミジも混生する。低木層にはモチノキ、シュロ、ナンテン、ヤブツバキ、ヤツデ、シロダモなどの常緑広葉樹種がかなり多い。

この林分に続いてさらに上部は、やや緩やかな傾斜地となっていて、スダジイの優占する林分がある。高木層にはケンボナシ (*Govenia dulcis* Thunb.) が一本ある。ケンボナシはクロウメモドキ科の植物で独得の果実をつけることで知られているが、近年みかけることが少なくなった。定光寺のケンボナシは樹高約16mで生育は良好である。秋から冬にかけて肉質の肥厚した枝が種子の下部に発達する。ケンボナシを含むこの樹林はシロダモ、モチノキ、ヤブツバキ、トベラ、ヤブニッケイ、シュロ、ヤブラン、ジャノヒゲ、ヤツデ、ベニシダなどの種群が生育することからヤブコウジースダジイ群集と判定される。

林内の保存については、現在のところ、林内への立ち入りや過度の管理もなく、林床はよく保存されている。土壌も豊かで常緑広葉樹種の復元状態も良好である。

5. 若宮八幡宮 Schrein Wakamiya-Hachiman (Tab. 6)

所在地 横浜市南区大岡1

若宮八幡宮は大岡1丁目の元横浜国立大学工学部敷地の東側の台地斜面に約4,000 m²の広さを占めている。前面の大岡川低地は住宅密集地であるが、台地上にはまだ緑の樹林地も多く残されている。

石段の左右は植栽樹種の植えこみがあり、ところどころに台地をけずった平坦地をつくって合祠社などが造られている。社殿は台地のかなり上部にけずられてできた、平坦地に建てられている。

参道から社殿にいたる台地斜面には、自然林の残存木とみられるタブノキをはじめとして植栽樹のイロハモミジ、ケヤキ、ソメイヨシノ、アオキなどからなる樹林が茂っている。これらの樹々はしっかりしたコンクリートの囲いの中で確実に保護されている。どの樹木も樹勢がよく、この一角に美しい緑地帯をつくっている。

スダジイ林は社殿の背後にまとまった形で生育している。高木層を占めるスダジイはいずれも樹高が15m以上で推定樹令は70年をこす高木である。アカガシの高木も数本生育している。これらの常緑広葉樹を中心としてヤマザクラ、モチノキ、エゴノキ、アカガシ、カラスザンショウなどが混生し、ヤブコウジースダジイ群集の林分と判定される。

神社の青銅の屋根とこんもりと盛り上ったスダジイの林冠はかなり遠くからも望むことができ、特徴的な鎮守の森の姿を見せている。相観的にはかなり立派に見えるこのスダジイ林も低木層と草本層は、最近著しく攪乱されている。林床の大部分はアズマネザサで被われ、しかもススキが10%の被度で被っている。また、ヘソクカズラ、サルトリイバラなどの草地性の種も侵入してきている。現在この林内には道が縦横につけられて、子どもたちの遊び場になっているらしい。下草は踏みつけられ、低木は折られて林内へは日光がはいつてきている。林床は踏み固められて一部にはオオバコ、チカラシバなどの踏跡群落の構成種も生育している。すなわち樹冠はよく繁茂している聖域として残されて



Phot. 12 若宮八幡 [5] (横浜市) のヤブコウジースダジイ群集
Ardisio-Castanopsietum sieboldii-Wald am
Wakamiya-Hachiman-Schinto-Shrein (Yokohama).

きたヤブコウジースタジイ群集の林床は最近急速に荒廃させられている。建造物の後背斜面の森林全体の保護が必要である。また若宮八幡宮の様に林床植生が破壊されている林分では、林床植物を守るために林内への自由な立ち入りを止めるべきであろう。そうして、立派な社殿と均整のとれた草本層から低木層、高木層までバランスの整ったヤブコウジースタジイ群集の森林に復元されることが望まれる。その具体的な保護措置の一つとして保護すべき樹林のまわりにヒサカキ、マサキ、ネズミモチなどの常緑広葉樹や陽光の当るところではツツジ類を筋状に密植して、林縁保護のためにもマント群落の形成が望まれる。

6. 神明社 Schrein-Shinmei

所在地 横浜市鶴見区獅子ヶ谷町

下神明社は獅子ヶ谷町二ッ池の池畔の台地斜面にあり約3,300 m²の面積をもっている。樹林は台地の谷に面した急傾斜地であって、基盤の上のロームは比較的うすい。周辺は新開の住宅地だが、耕地もまだ点々と残っている。

樹林は社殿をとりまく急傾斜地に約2,300 m²の面積でひろがっている。高木層にはケヤキとアカガシが生育し、亜高木層にはシロダモ、ケヤキ、シュロ、ヒサカキ、エゴノキ、クマノミズキが生育する。低木層以下にもアオキ、シロダモ、ナンテン、ヒサカキ、テイカカズラ、キツタなどのヤブツバキクラスの種が多い。横浜市北部では、このようにアカガシが優占する林分がまれにみられる。立地は30°の急傾斜地であり、林内にはきざはしがきざまれ、小道がつけられている。

社殿の背後には常緑広葉樹を混生した二次林があってクロマツの大木（推定樹令450年、樹高24m）が生育している。この樹林は現在横浜市の風致地区に指定されている。

7. 総持寺 Tempel Soji-ji

所在地 横浜市鶴見区鶴見町

総持寺は曹洞宗の大本山であり、鶴見町の台地一帯に全面積189,500m²を占める広大な寺院である。その中に各種の建造物が点在し、広い墓地が配置されている。建造物の間にクスノキ、スタジイなどの高木が点々と植えられているが、社寺林としてまとまった林地はわずか500 m²程度である。植栽樹林も樹令100年ほどで著しい古木、大木は無い。

樹林は東北側の墓地のはずれにあり、平坦部の林分はスタジイ、クロマツ、マテバシイ、モチノキなどの混生する林である（Tab. 6）。種組成上からは一応ヤブコウジースタジイ群集とされるが、林床にはアズマネザサ、ススキ、ノガリヤス、スズメノヤリなど草地生の種群が多く混生している。総持寺のヤブコウジースタジイ群集の林内には子どもたちの遊び場として下草が踏まれている。この林分地に続いた斜面部にはミズキ、アカガシ、クロマツ、エゴノキなどの混生する二次林が帯状に配列されている。

総持寺はもと石川県に大本山があったが1907年に現在の鶴見町に新しく建立された。

総面積の広さでは総持寺は横浜市内でも有数の大寺院である。近年、大祖堂をはじめとする建造物が次々と整備されて、大本山としての機能を備えてきた。全国から参集する信徒に対応するための駐車場、宿泊施設あるいは附属する教育施設なども充実されている。しかし、建立からの日が浅いことと寺林の面積が少い理由から、寺院の自然環境はきわめて貧弱である。大本山としての神厳性をさらに深めるためには、潜在自然植生を基礎とした積極的な寺院林の創造が望まれる。

8. 正行寺 Tempel Shogyo-ji

所在地 横浜市鶴見区駒岡町

正行寺は鶴見川に面した下末吉台地の斜面に位置し、約 3,300 m²の面積をもっている。周辺は新しく開けた住宅地であり、耕地がまだ点々と残されている。基盤は下末吉層の泥岩で、ローム層の被覆はうすく、台地の上部はやや乾燥している。

参道左手の基地周辺には常緑広葉樹を主とした樹林がある。植生高は12mでミズキ、スダジイ、ケヤキ、エノキ、ヤブツバキ、シロダモ、ヒサカキ、モウソウチクなどが密生している。低木層は被度50%でアオキ、ヤブツバキ、アカガシが生育している。草本層は50%と被度が低くキツタ、ジャノヒゲ、ヤブニッケイ、さらにアオキの芽生えなどが生育している。やや湿生立地のスダジイ林で樹高の低いことや密生の度合いなどから皆伐後の再生林ともみられる。

寺林の南側はクヌギやコナラなどの密生する二次林となっていて、台地の上部にはクロマツが生育している。

泥岩層には岩上植物群落がみられる。横浜市南部の岩上植物群落と共通のミツデウラボシやコモチシダなどの優占する群落である。

9. 宝蔵院 Tempel Hozo-in

所在地 横浜市鶴見区馬場町

第二京浜道路の北側の台地の縁に位置して総面積約 7,200 m²をもつ寺院である。周辺は密集した住宅地であり、この寺院の一角だけに緑が保たれている。寺の本堂の左右にごく小面積の樹林があり、本堂の裏にある墓地に続いてクヌギ、コナラ、エゴノキなどからなる二次林がある。

本堂南側の常緑樹林の断片は高木層にモチノキ、アカガシ、シュロ、アラカシなどが生育している。面積がせまく、構成種にも草原生のもやマント群落の要素がみられる。また墓地や境内を清掃した際に出される塵芥の捨て場となっているために、林床植物の生育は貧弱である。

文化財指定希望のある五色椿は境内の本堂と庫裏の間の庇陰地に生育している。樹高は約 6 mで根張りが良い。白、桃色、赤、しほり、斑入りなど五通りの花を咲かせるという。このツバキの指定については生育環境を併せて検討することが望まれる。

10. 下神明社 Schrein Shimo-Shinmei

所在地 横浜市鶴見区駒岡町

神明宮は鶴見区の下末吉台地の斜面に面積 3,200 m²を占めている。周辺は住宅地がひろがり、わずかに耕作地が残っている。社殿の西側の 25° の急傾斜面に常緑広葉樹林がある。この樹林は高木層と亜高木層にケヤキ、ミズキ、アカガシ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなどがみられる。また、低木層と草本層にはアオキ、マンリョウ、ベニシダ、キツタ、オオイタチシダ、ヤブコウジなどが生育する。林は南向きのために十分な陽光を受けて、モミジイチゴ、ヤブムラサキ、ハリギリ、ゴンズイなど二次植生の構成種も侵入してきている。林の中にはクロマツの高木も混生し、イチョウも植栽されている。林内には小道がついていて、人の立ち入りもかなり頻繁なまようである。

下神明社の樹林は現在横浜市の風致地区に指定されている。保全については、傾斜が急であるために、林内立ち入りによる林床破壊を防ぐことが必要である。

11. 八幡神社 Schrein Hachiman

所在地 横浜市鶴見区駒岡町

駒岡八幡宮は鶴見川に面した下末吉台地の台地縁に位置している。前面には県道が通り、住宅地が

続いているが、後方にはコナラを主とする二次林が広がっている。

社殿の背後に、エゴノキ、コナラ、イヌシデ、カマツカにクロマツを混生した二次林がある。アカメガシワなどの種組成からオニシバリ-コナラ群集と判定される。横浜市および川崎市南部の下末吉台地では群集標徴種のオニシバリ、カラスザンショウを欠く林分が普通である。群落構成種は43種で比較的単純である。

境内は比較的せまくクロマツ（樹高約25m、胸高直径約60cm）がひととき高くそびえている。そのほかにはスタジイ（樹高22m、胸高直径45cm）が2本、クスノキ（樹高15m）が1本植栽されている。社有林は横浜市の自然山林保存地に指定されている。

八幡神社は比較的古い神社で、かつては境内や所有林も広がったが、現在ではその社叢林の植生には特筆すべきものは見当たらない。

12. 善行寺 Tempel Zengyo-ji

所在地 横浜市中区西之谷町

善行寺は西之谷町の台地の間にある谷頭を約15,000m²を占める広大な寺院である。周辺は住宅地であり、特に裏山には最近開発された住宅地がせまっている。谷間にひっそりと静まりかえった善行寺の寺林は横浜市内でも最も自然度の高いイノデータブ群集を保っている。

墓地の中にはタブノキの大木が数本散生している。樹高およそ22mで胸高直径は0.7mから0.9mになり、タブノキ特有の積乱雲型の樹冠がみごとである。

墓地の北側にはケヤキ、エノキなどを主とする夏緑広葉樹の二次林がひろがっている。この樹林のケヤキは樹高約18mほどでかなり密な林となっている。谷の南側の緩斜面にはタブノキとミズキの優占する自然林が带状にひろがっている。谷頭に近い部分にはタブノキ、シロダモ、ヤブツバキ、ミズキ、エノキが高木層を被っている。低木層には常緑広葉樹種のアオキ、ヤツデ、シュロ、ヒサカキなどが生育し、草本層にはオオベニシダ、ヤマイタチシダ、オオイタチシダ、イノデ、ベニシダなどの常緑シダ類が豊富である（Tab. 8）。

関東地方の臨海域の沖積地および台地斜面の潜在自然植生と考えられるイノデータブ群集の典型的な林分はほとんど姿を消してしまっている。沖積地や台地斜面が長い間の人為影響を受けて、植生が破壊されてしまった現在では県下でもイノデータブ群集の残存林はきわめて稀である。その意味からも善行寺の墓地の周辺のこの樹林は県内屈指のイノデータブ群集の自然林といえよう。

イノデータブ群集に隣接する林分は高木層がミズキ、タブノキ、コナラ、アカマツなどの構成種からなり、二次林的な相観を示している。しかし、亜高木層はシロダモの密閉した樹冠で被われている。シロダモがほぼ85%を占めているために林床は暗く、低木層、草本層の発達は悪く、被度も低く、種数も貧弱である。この林分は三浦半島などにみられるタブ林の皆伐後に再生した萌芽林とみられるイヌビワ-ミズキ群落としてまとめられる（Tab. 17）。このイヌビワ-ミズキ群落の林分では林床の落葉かきが行われている。

樹林とその立地の保全についての提言としては、このイノデータブ群集は県内でも有数のすぐれた自然林であり、厳正保全地区として保護をする価値がある。現在、この群落の中へは、墓掃除の時に出された落葉、枯草、古い卒塔婆などが捨てられている。また、台地上の住宅地からは、ビニールなどの廃棄物が投棄されているところもある。このような林分への投棄を厳重に禁止すると共に林内での落葉かきも中止して、自然度の高い植生への回復がはかられたい。善行寺の樹林は動物群集の生息もきわめて多く、横浜市街地内できわめてすぐれた自然と景観をもつ寺院として評価される。

13. 妙香寺 Schrein Myoko-ji

所在地 横浜市中区妙香寺台

妙香寺は中区の妙香寺台の南端を占める。周辺は住宅や学校があって台地の下は住宅密集地となっている。総面積は11,000㎡とかなり広くその大部分は墓地となっている。樹林は墓地と墓地の間とか急傾斜地に帯状にあるいは点状に残されている。胸高直径約0.7 mのクスノキ、タブノキ、ムクノキなどが数本かたまって生育している。しかし、まとまった群落を形成するにいたっていない。

墓地の周辺部にはマント群落やススキ草原がある。全体として多層構造をなす自然度の高い植生とはいえない。

14. 無量寺 Schrein Muryo-ji

所在地 横浜市南区蒔田町

無量寺は蒔田町の台地斜面に寺院の建造物があり、蒔田小学校のわきに墓地があって、全面積は約2,000㎡とされる。周辺は住宅地であるが台地上はやや緑も多く閑静である。

墓地は台地斜面に階段状に設けられており、タブノキ、ケヤキ、スタジイが樹高18mほどで生育していて、閑静なたたずまいをみせている。

無量寺の寺院内には墓地はないが、現在幼稚園が設置されている。境内には種々の植物が植栽されており、管理もよくゆき届き、美しい庭園となっている。本堂の裏手には幼稚園の遊び場がつけられている。遊び場の周辺の植栽地は台地斜面の樹林へと続いている。この樹林は面積はおよそ500㎡で夏緑広葉樹からなる雑木林である。高木層にはミズキ、ケヤキ、ムクノキが生育する。亜高木層にはタブノキ、ヤブツバキ、アカガシ、シロダモなどの常緑広葉樹が多くなる。低木層、草本層にもアオキ、ベニシダ、ヤツデ、キツタ、シャガ、シュロなどのヤブツバキクラスの種群が多い。



Phot. 13 無量寺〔14〕の本堂裏の急斜面の樹林

Hangwald am Muryo-ji-Tempel mit *Persea thunbergii*, *Zelkova serrata* u. a.

遷移が進んだ二次林、イヌビワ-ミズキ群落としてまとめられる (Tab. 16)。このイヌビワ-ミズキ群落の樹林は平均傾斜 35° の急傾斜地であり、林内への立ち入りもむずかしく、よく保存されている。林内下部には基盤の岩石の間から湧出する泉がある。

樹林の面積としてはせまいが、寺院の静かな環境と相まって庭園と寺林がよく調和している。

15. 白山神社 Schrein Hakusan

所在地 横浜市南区別所町小最戸

白山神社は別所町の台地斜面から台地上にかけて全面積 $1,000 \text{ m}^2$ を占めている。周辺は住宅地に囲まれ、神社の前面は商店街となっている。社殿は台地上の平坦面にあり、その南側の斜面に常緑広葉樹の密生した樹林がある。

この樹林は高木層の高さが 18 m で、被度は 80% あり、スダジイとシラカシがほぼ半ばし、他にアカガシ、ケヤキ、ミズキ、ウラジロガシ、クロマツが生育している。また植栽されたヒノキの被度も大きい。ウラジロガシは樹高 15 m ほどの高木で、横浜市南部では比較的めずらしい。低木層、草本層には常緑広葉樹種がきわめて多く、タブノキ、シラカシの芽生えもみられる。種組成の上からはいずれの群落にもまとめられず、寺院や神社に特有の植栽樹を中心に発達したものとみられる。白山神社域の潜在自然植生はヤブコウジ-スダジイ群集とされている。このような潜在自然植生域においても、土壌が黒ボクで富栄養なためにカシ類のドングリの発芽とその後の生育が良好なものと考えられる。

現在、隣接域は宅地化が急速に進んでいるので、この多彩なヤブコウジ-スダジイ群集の樹林の保全は、周辺部のマント群落の復元、発達も含めて積極的に行われなければならない。

16. 中村八幡宮 Schrein Nakamura-Hachiman

所在地 横浜市南区八幡町

中村八幡宮は台地の急傾斜地から下部の崖錐地にかけて位置している。周辺部は商業住宅地区で人家が密集していて、緑はこの台地の斜面部に帯状に残されているだけである。

神社域の全面積は約 $3,600 \text{ m}^2$ で、林の面積は約 $3,000 \text{ m}^2$ である。本殿の背後には北向き約 50° の急な斜面となっていて夏緑広葉樹がまばらに生育している。斜面にはロームが厚く堆積し、一部土地崩壊をおこしている。ケヤキ、ミズキ、エノキ、イヌビワなどを主とした横浜市内の台地斜面に一般的な落葉広葉樹林である。低木層や草本層には崩壊地に多いマルバウツギが生育し、またマント群落構成種のアカメガシワ、モミジイチゴなどが混生している。この斜面林は相観的には自然林にみえるかもしれないが、種組成からみると二次林であり、アカガシ群落ではない。この林分のさらに上部にはススキ草原、低木類やクズを主としたマント群落が生育している。

17. 万福寺 Schrein Manpuku-ji

所在地 横浜市南区大岡町

万福寺は上大岡駅の北西約 800 m の台地斜面にある。周辺は密集した住宅地となっている。

墓地の周辺には森林を伐採した後に萌芽がでてきた二次林がある。本堂から墓地にかけての斜面にはケヤキ、カキノキ、サクラ、エノキ、ヌルデ、イヌビワなどから構成されている、密生した混交林がある。常緑広葉樹はシロダモ、ヤブツバキなどで被度も低く、特に自然度の高い森林とはいいがたい。

本堂と墓地をへだてる斜面にはモウソウチクが植えられてのる。高さは $4 \sim 5 \text{ m}$ で生育はあまりよくない。墓地の背面の二次林は伐採された跡で、樹高 $2 \sim 3 \text{ m}$ のコナラなどが 10 数本生育している。樹林の面積もせまく、また質的にもきわめて一般的であり、特別の保全措置は現状では考えられな

い。

18. 吉祥寺 Tempel Kichijo-ji

所在地 横浜市南区大岡町

吉祥寺は大岡町の横浜国立大学わきの台地の下部に位置する全面積約4,000 m²の寺院である。周辺はやゝ密な住宅地である。寺院は趣の深い草ぶきの本堂があって、それを取りまく樹林が帯状に配列されているが面積はせまい。樹林は20mほどの高さのケヤキをはじめとしてミズキ、ハリギリ、イロハモミジなど夏緑広葉樹の混生林である。本堂の裏手の林はモウソウチクを主として、それにケヤキ、モチノキ、イロハモミジなどを混生している。

なお吉祥寺にはカキノキが多数植栽されていて生育も良い。柿の寺といった特徴をもっている。

19. 西光寺 Tempel Saiko-ji

所在地 横浜市南区中里町

西光寺は南区中里町の台地をさぎむ小さな谷戸に在り、本堂の東側に寺所有の林がある。周辺は新しく開かれた住宅地で民家が密集し、宅地造成は社有林の境界線までせまってきた。

寺の総面積は約4,000 m²あり、本堂の北西側の台地斜面にはコナラを主とした雑木林がある。また谷の南西側には立木の多い墓地がある。本堂の北西の雑木林は高木層にクヌギ、コナラ、イヌシデ、ヤブツバキ、エゴノキ、アカガシなどが混生し、低木層から草本層にかけてはアズマネザサが密生している。林内には常緑広葉樹の種数と被度が比較的高い。種組成の上からはシラカシ群集に近いクヌギコナラ群集と判定される。このクヌギコナラ群集の二次林は昭和24年ごろまで皆伐してまきとして使われてきた。以来30年近く伐採は行なわれていないという。自然林への回復が次第にすすんでいる。樹林は現在有刺鉄線で囲まれて、林内への人の立ち入りはほとんど無い。

20. 普門院 Tempel Fumon-in

所在地 横浜市南区别所町

普門院は別所町の住宅街にあり、周囲は次第に宅地化がすすんでいる。

本堂および庫裏をとりかこむ境内には種々の植栽がされている。墓地周辺の斜面にはコナラの二次林がある。樹高が約4 mほどの若令林であって特筆すべきほどではない。

21. 貞昌院 Tempel Teisho-in

所在地 横浜市南区上永谷町

貞昌院は上永谷町で柏尾川上流の台地斜面上に在る。隣接して天満宮があり、一帯に緑地が形成されている。貞昌院の総面積は5,500 m²で社寺林面積は3,300 m²と記録されている。

本堂の背後にはスギ植林やモウソウチク林があり、本堂の側から墓地にかけてはクヌギ、コナラ、エゴノキなどの混生した雑木林がある。

スギ植林はスギの樹令およそ30年で林床にはクマザサ、アオキ、ツルグミ、シラカシ、コナラ、ハリギリ、キランソウ、ドクダミ、ウラシマソウ、イヌショウマ、フユノハナワラビ、ホウヤチクソウ、ツルカノコソウ、ベニシダ、ヤブラン、キブシ、ウド、アカショウマ、タチツボスミレなどが生育している。

クヌギ、コナラ、エゴノキなどからなる二次林は林床にアズマネザサが多く、林内には人の立ち入りのあとがみられる。この二次林の中に樹高18mほどのタブノキの大木が生育している。

貞昌院の樹林は自然度も低く、現状では高い評価が与えられない。



Poht. 14 吉祥寺の樹叢 (Nr. 18)

Buddistischer Kichijoji-Tempelwald mit *Zelkova serrata*.

22. 神明社 Schrein Shinmei-sha

所在地 横浜市南区下永谷町

神明社は柏尾川に沿って県道から200mほどへだたった丘陵の上に位置する。周辺は畑地であり、その中に新しい住宅が点在している。神社の全面積は1,860㎡あり、そのうち社寺林面積は590㎡である。神社林は丘陵の小丘上にある。基盤地質は砂岩でその上をロームがかなり厚く被っている。

高木層は萌芽再生をしたとみられるアカガシが優占して密閉した樹冠を形づくっている。ヤマザクラ、イヌシデ、ミズキがこのアカガシの樹林を縁どるように生育している。低木層は植被率が低く、アカガシ、イヌツゲ、ヤブツバキ、ヒサカキ、アオキ、シロダモが生育している。草本層の植被率も低くヤブラン、テイカカズラ、ジャノヒゲ、ヤブコウジなどが散生している。

この樹林は丘陵上の高い土地にあるために遠方からもよく目立つが常緑広葉樹の自然林とは言えない。過去に伐採された再生林であり、たまたま厚いローム層の上につくられた堅い土壌層の上で良好な生育を示している。林内へは人の立ち入りが著しく、林床の荒廃を招く原因となっている。また、付近の人家から出る塵芥の捨て場ともなっている。

県の天然記念物として指定希望が出されているが、植物社会学的にみて、現状では、この林は高い評価は与えられなかった。

23. 春日神社 Schrein Kasuga

所在地 横浜市南区日野町

春日神社は日野川の支流に面し、鎌倉街道から約50m離れた丘陵の斜面下部に6,600㎡を占めている。神社の歴史は古く、遠く11世紀の記録が残っているという。周辺は鎌倉街道の交通量も多く、洋光台を中心とした宅地開発が進められている。

境内には植栽樹とみられるスダジイの大木を中心とした樹林がある。スダジイは樹高およそ18mで推定樹令約200年ほどであり、他にケヤキ、ウラジロガシ、イロハモミジが高木層を占める。亜高木層を構成しているのはヤブツバキ、モチノキ、ヤブニッケイ、イロハモミジで、低木層にはヒサカキ、ガマズミ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、ヒイラギ、アオキなどが生育する。春日神社林は下刈りが、しばしばされるようで草本層の種類数は少なく、踏跡群落の構成種などもみられる。市内から姿を消しつつあるカンアオイが点々と生育している。

鎌倉街道からもこんもりと繁った鎮守の森としてよくみられるが、林内は荒らされていて、自然林としては高く評価はされない。林縁にマント群落を設定して、人の立ち入りを抑えて時間をかけて林床植生の回復が望まれる。

24. 福聚院 Tempel Fukuju-in

所在地 横浜市港南区港南

福聚院は港南中学校のわきにあり、前面を日野川が流れている。周辺は比較的閑静な住宅地である。総面積5,300㎡で、社寺林面積はおよそ4,000㎡とされている。墓地のまわりには、コナラ、ケヤキ、エノキなどの夏緑広葉樹からなる雑木林がある。庫裏にはヤブツバキ、ケヤキ、シロダモなどの常緑広葉樹が群生しているところもある。これらはいずれも断片的あるいは帯状になっていて、まとまった林分となっていない。

山門を入るとすぐにタブノキの大木がある。胸高直径1.1m、高さ13mで、樹高は低い形はよく整っている。横浜市の古木名木(No.63)に指定されている。

樹林については特に高い評価はされなかった。



Phot. 15 福聚院 [Nr. 24] のタブの大木
Ein alter und großer Baum von *Persea thunbergii* am Fukujuin-Tempel.

25. 東福院 Tempel Tofuku-in

所在地 横浜市港南区笹下町

東福寺は笹下町の笹下川沿いの台地上にあり、全面積は3,000 m²である。洋光台の団地にも近く、周辺には宅造地が最近増加してきている。

境内から墓地にかけての台地斜面の林は高木にはスダジイ、タブノキ、アカガシなどの常緑広葉樹の木々が樹高18mにも達している。墓地のせまい斜面を被っている低木のアオキ、モチノキ、ヒサカキ、イヌツゲ、ベニシダ、ジャノヒゲ、キツタ、クマザサなどが配置よく生育している。

神奈川県下では、墓地の需要が増大しているためか、寺院でも墓地の造成や整理が大幅に行なわれ、それと同時に緑のない画一的なコンクリートの墓がふえている。そのような現状にあって、東福寺のこの墓地は実に立地固有の植物との調和がとれた「霊ねむるおくつき」の感を深くする。墓参には多少不自由かもしれないがふるさとの緑にかこまれた静かな墓地の好例とされる。

本堂の前にはスダジイの古木がある。胸高直径1.2 mで樹高は約8 m、横浜市の古木名木指定(66号)を受けている。樹高は低いとその直径からみて、かなり古い樹木とされている。

26. 天神社 Schrein Tenjin-sha

所在地 横浜市港南区上永谷町

天神社は上永谷町で柏尾川沿いの台地斜面で、面積は5,500 m²である。1493年の建立といわれ、菅原道真ゆかりの古い由緒をもつ神社として知られている。前面の柏尾川沿いの低地は新開の住宅地で農地は点々と残っている程度である。台地の一角には貞昌院があり、一帯に緑地が続いている。

社殿脇のスギ林は樹高22mで70%の植被率をもつ。平均傾斜25°と急傾斜ではあるが落葉層の厚い



Phot. 16 台地斜面の常緑樹を混生する二次林(横浜市天神社 [Nr. 26])。

Tenjinja-Shinto-Schreinwald in einem aus immergrünen und sommergrünen Laubbäumen gemischten Sekundäre-Wälder.

黒ボク土壌で、スギの生育はきわめて良好である。亜高木層以下にはシロダモ、ヤブツバキ、アカガシ、アオキ、ヒサカキ、ベニシダ、ジャノヒゲ、オオバジャノヒゲ、キツタ、ヤブコウジなどの常緑樹種が数多くみられる。

この樹林は現在児童の遊び場となっていて崖登りの跡があり、林床の植被ははがされて土壌の侵食がはじまっている。社有林内とそれに続く湧水池「菅公の池」周辺を整理して立ち入り禁止の保全策をとることが望ましい。

社殿の裏側にはスタジイ、シロダモ、ミズキ、ケヤキ、エノキなどの混生林がある。

27 八幡神社 Schrein Hachiman

所在地 横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町

八幡神社は保土ヶ谷駅の南西にあたり国道から約300m南にはいった谷戸の奥にある。周囲には住宅が密集している。社殿の背後は幼稚園の庭となっていて、その上部の急傾斜地に社林が発達している。

社叢の林は高木第1層は夏緑広葉樹林であるが、高木第2層以下にはシロダモ、シラカシ、イヌガヤ、ジャノヒゲ、ベニシダ、シュロなどが比較的高い常在度で生育している。これらの種組成から、シラカシ群集と判定される。二次植生から遷移が進行して、自然植生に近い群落になってまだ年数が浅いものとみられる。

林内には小道が設けられてあり、園児など子どもの遊び場もつくられている。

周辺部を利用して、林内への立入りをできる限り規制して、常緑広葉樹林への回復を計ることが期待される。

28. 大仙寺 Tempel Daisen-ji

所在地 横浜市保土ヶ谷区霞台

大仙寺は保土ヶ谷駅の西方約500mの台地斜面に位置し、面積は15,000m²とされる。寺の前面には東海道本線が通り、寺院との間は密集した住宅地となっている。本堂の裏側は駐車場となっていて、樹林は墓地のまわりにシラカシを主とした常緑広葉樹林がみられる。シラカシの樹高は18mほどで30%の被度をもつ。そのほかにもヤブツバキ、イヌツゲなどが密生している。しかし、墓地となっているため低木層や草本層は貧弱である。面積もせまく自然度も高いとはいえない。

境内には数本の大木がある。クスノキ（樹高18m、胸高直径1.2m以下同じ）、ケヤキ（22m、0.8m）、イチョウ（22m、0.8m）などである。

29. 正福院 Tempel Seifuku-in

所在地 横浜市保土ヶ谷区仏向町

正福院は帷子川沿いの仏向町台地の下にあり、全面積はおおよそ6,000m²とされる。寺林は北東向きの急な崖地になっていて3,000m²と測定されている。周辺には住宅がかなり密集している。

本堂裏手の崖地の樹林はヒノキ、シラカシ、アオキ、シロダモなどでいずれも散生した疎林となっている。樹高も7～8mで低く、まとまった樹林とはいえない。

朱ぬりの山門の前にはイチョウの大木が2本そびえ立っている。いずれも樹高15mに達し、胸高直径も1mをこえている。このイチョウの大木は国道16号線からもよく目だつ。

30. 樹源寺 Tempel Jugen-ji

所在地 横浜市保土ヶ谷区保土ヶ谷町

保土ヶ谷町の東海道本線沿いにある樹源寺の墓地の上部には樹林がある。寺の境内と墓地は線路に

よって二分されている。丘陵の南むき斜面には墓地が開かれていて、その周辺にシラカシやタブノキの優占する常緑広葉樹林が带状に分布している。Tab. 10 に示されるようにシラカシ、ミズキ、タブノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、ケヤキなどが高木層を占めている。

低木層と草本層にはヤブツバキクラスの種であるアオキ、シロダモ、ネズミモチ、ヒサカキ、ジャノヒゲ、ベニシダ、ピナンカズラなどの生育しているのがみられる。また、林冠がすいており、日光の透射があるためにアズマネザサ、モミジイチゴ、ヘクソカズラ、サルトリイバラなどの草原生の植物も生育している。

林内では下草刈りなどの管理がされないで、倒木がそのままに放置されている。

群落の構成種群からシラカシ群集と判定されるが面積がせまくて、高い評価は与えられない。

31. 遍照寺 Tempel Hensho-ji

所在地 横浜市保土ヶ谷区月見台

遍照寺は保土ヶ谷駅から北へ約 400 m の場所にあり、周辺は住宅地と小学校に囲まれている。参道には10数株のボタンが植えられていて特徴のある石組みと共に趣のある参道を形づくっている。

林は本堂の南および西側に広がっている。常緑広葉樹と落葉広葉樹の混生林を形成している。墓地をめぐる常緑樹広葉樹林にはクスノキ、ケヤキ、ヤブツバキなどが生育する。クスノキは植栽されたもので小学校と墓地との境界部に一列に生育している。墓地の間の崖地にはムクノキ、ケヤキなどの高木とシロダモ、ヤブツバキ、イヌツゲなどの常緑の亜高木がみられる。斜面部も墓掃除のときによく草刈りがされていて、特に草本植物類は貧弱である。

32. 神明社 Schrein Shinmei-sha

所在地 横浜市旭区上川井町

国道16号線沿いの台地の縁にあり社殿のある台地平坦面には植栽されたイヌシデの単木が生育している。社殿から道路に接する傾斜地にややまとまった樹叢がみられるが特に森林といえるほどの規模ではない。

高木層は植栽されたイヌシデを中心にしてアカガシ、ヤブツバキ、シラカシからなり、その他にもイチョウ、トチノキ、ソメイヨシノ、カヤが生育している (Tab. 18)。斜面は人の立ちいりのために表層土が剝離してこれらの高木の根が露出している。また林床はほとんどがアズマネザサで、その他にも草原生の種類が多い。樹林としての面積も少なく、また現在は子どもの遊び場として使われている。

横浜市の古木名木指定をされているヤブツバキは樹高10mから13mのものが数本ある。現在のところ根張りがよくないために樹勢は盛んではない。このヤブツバキの大木を保護しまた緑の保全をはかるためには、樹叢のある一画を立ち入り禁止とする方がよいと考えられる。

33. 稲荷社 Schrein Inari-sha

所在地 横浜市旭区上白根町

稲荷社は上白根町の多摩丘陵台地上から谷にかけての斜面に 5,400 m² の広い面積で神社林をもっている。鳥居から社殿までの約 150 m にわたる参道の両側にはスギ、ヒノキ、サワラなどの常緑針葉樹の植林がひろがっている。これらの植樹は種々の樹令にわたって生育も良好である。

社殿の西側のヒノキ植林は樹高も高く、シラカシなどの常緑広葉樹を混生している。ヒノキは60%の被度を占めているが高木第2層にはシラカシ、シロダモ、タブノキなど立地本来の潜在自然植生を示す種群が生育している。林床植生の植被率は高く、また種数も40種以上と豊富である。

これらの林分に続く北向きの急斜面にはシラカシの優占する常緑樹林が残存している (Tab. 10)。高木層にはシラカシのほかにミズキ、エゴノキ、シロダモが生育していて、立地がかなり湿潤なことを示している。林床の植物にも常緑の種群が多くバランスのとれた林相といえる。

このように広い神社の所有地が有用材の植林地としてフルに利用される一方、急傾斜地などで植林に適さない場所は自然林として残すという利用形態は社寺林として最も好ましい一例である。

34. 白根神社 (白根不動) Schrein Shirane

所在地 横浜市旭区白根町

白根神社は白根町の国道16号線から北へ約700mの地点で帷子川の支流の小河川沿いにある。白根不動の本堂は右岸の沖積地上にあり白根神社は橋を渡った左岸の台地上にある。基盤をなしている泥岩は小河川によって浸食され小さな滝となっている。また沖積地と台地との境は標高差10-25mの急峻な崖となっている。全面積は約20,000m²とされる。

小河川沿いにはイロハモミジを主とした落葉広葉樹林がみられる。これらは植栽されたものが多いようである。侵食によってできた崖の上部には常緑広葉樹が生育している部分もある。高木層にシラカシとモミノキがみられるがシラカシは一列に並んでいて、かつての植栽樹とみなされる。モミノキは20mをこす大木となっているが、枝先がほとんど枯れていて、大気汚染の為に生育状況は、きわめて悪い。台地上の社殿の周辺は主として針葉樹の植林である。スギを主として他にサワラ、ヒノキなどが混生している。またモウソウチクの林分も小面積ながらみられる。

境内の大木には次のものがある。イロハモミジ (横浜市古木名木指定89 樹高12m)、カヤ (同指定89 樹高20m)、イチョウ (同指定88)、ヤマザクラ (同指定90 推定樹令150年)。

白根神社の神社林は広い面積をもち、その中には小河川を含み崖地や台地平坦部、沖積低地があって地形的には変化に富んでいる。しかし、植生上は特筆すべき群落がほとんど無い。河川沿いにはイロハモミジ-ケヤキ群集の主な種を補植し、さらに崖地にはシラカシ群集の自然植生へ回復をはかることが望まれる。現在のところ境内には遊歩道 (参道) が設けられており、林内への立ち入りはほとんど無いもようである。

35. 長源寺 Tempel Chogen-ji

所在地 横浜市旭区上川井町

長源寺は上川井町の国道16号線沿いに位置している。丘陵のゆるい斜面に南向きにスギ植林とモウソウチク林が寺林の群落としてみられる。他にシラカシなどが単木的に生育している。台地上には関東ロームの被覆が厚く肥沃な黒ボク土壌である。

モウソウチク林の組成は Tab. 24 に示されている。管理はあまりされていないが林床の植物の種類がきわめて多いことが特徴としてあげられる。

このほか、境内の本堂前にトチノキがあるが樹令およそ130年ほどとされ、特に古木とはいえない。

36. 浄性院 Tempel Josei-in

所在地 横浜市旭区本宿町

浄性院は本宿町の帷子川支流に面した丘陵の斜面に位置している。周辺には新しい住宅の目だちはじめた農業地帯である。寺院のすぐ南側を新幹線が通り寺林内にもその騒音がとどろいている。沖積低地から参道を通して本堂にのぼる左手の斜面と台地上にシラカシを主とする常緑広葉樹林がみられる。

斜面の植生は Tab. 10 に示される。ここは約 35° の北向きの斜面であるが密閉した樹冠がめだつ。高木層を占めるのはシラカシ、ケヤキ、ムクノキ、カヤ、ミズキ、ヤブツバキ、イロハモミジなどである。低木層と草本層はやゝ 植被率が低いジャノヒゲ、チヂミザサ、ベニシダ、オクマワラビなどヤブツバキクラスの常緑の種群が多く生育している。この林分はシラカシ群集のケヤキ亜群集と判定される。土壌は褐色森林土壌である。

台地上の植生は Tab. 10 に示される。

シラカシ、ムクノキ、ケヤキなど自然に生える樹種の中に植栽されたスギとヒノキが生育している。樹高は 20m と高く、良好な生育を示している。低木層と草本層の構成種はやや二次林的ではあるがシュロ、ヤブラン、ジャノヒゲ、アオキ、キツタ、ヤマイタチシダなどのヤブツバキクラスの構成種も多い。

周辺が次第に開発されていく中で、この一角はまだ静かな緑地帯をなしており、シラカシ群集ケヤキ亜群集を中心とし、周辺部と共に、十分に保全する価値がある。

37. 清来寺 Tempel Seirai-ji

所在地 横浜市旭区今宿南町

国道 15 号線沿いの今宿の丘陵上から北向きの斜面にかけてひろがっている寺林で面積も 3,000 m² とかなりまとまっている。関東ローム層の上に褐色森林土壌が厚く適湿地である。周辺は新しい住宅地として開けてきているが寺の周囲にはケヤキの高木が密生して緑地帯をつくっている。

本堂から墓地にかけての北側斜面は沖積地と接する傾斜 30° ほどの斜面となっている。ここにはケヤキやアラカシが優占する林分がみられる。墓地の南側にはクヌギーコナラ林があり、さらにそれに続く部分には二次林から常緑広葉樹林へと遷移する途上の林分がみられる。

墓地の北側の斜面にはケヤキを優占する夏緑、常緑混生樹林がある (Tab. 9)。樹高 20m ほどのケヤキにアラカシ、イヌガヤ、イイギリなどが高木層を占める。亜高木層、他の階層にも常緑広葉樹の種群が多くみられる。墓地や人道が林内にあるがこれらの影響を最少限にいとめて比較的林相の整った樹林となっている。

墓地の南側の遷移途上の林分は Tab. 16 に示されているように、クヌギーコナラ群集である。アラカシ、クマノミズキ、ヤマザクラ、ウワミズザクラなどが高木層を占めている。林床には横浜市内にはあまりみかけられないシュロソウをはじめとして、ヤブレガサ、アカショウマ、フタリスズカなど風情のある草本植物が生育している。

なお境内には横浜市の古木名木指定 (104 号) のカヤが生育している。胸高直径 1.1m 樹高約 24m 推定樹令は 650 年とされる。

38. 福泉寺 Tempel Fukusen-ji

所在地 横浜市旭区川井本町

川井本町で国道 16 号線から南に 200 m の台地上にある。寺の周辺にはケヤキなどの高木が境界木のはたらきをしている。しかしまとまった面積をもった樹林となっていない。本堂の背後のモウソウチクとケヤキからなる林が調査された。境界木として植えられたケヤキを中心としてウワミズザクラ、ムクノキ、シュロが生育している。また、市内では最近減少しているクマガエソウもみられた。

なお境内には横浜市の古木名木に指定された樹木が 2 本ある。その一つは山門に入るとすぐのイチョウ (79 番) で胸高直径は約 1.3 m 樹高 25m でイチョウに特有の気根が垂れさがっている。また指定番号 78 番のカヤは胸高直径約 1.5 m 樹高 30m で市内でも有数の大木とみられる。

39. 妙蓮寺 Tempel Myoren-ji

所在地 横浜市旭区善部町

妙蓮寺は善部町の西部の丘陵の緩やかな斜面に位置している。道をへだてた南側には新幹線が通り、周囲は古くからの集落がひろがっている。寺院の全面積は約 6,000 m²あり、境内はよく整備されている。境内の南西に約 900 m²の広さの社寺林がある。

ヤブツバキ、シロダモ、シラカシ、ケヤキ、サクラ類などが混生している寺林は面積がせまく、まとまった林相をなしていない。また下枝刈りなどの管理がよくされていて、自然の構成種の生育は妨げられている。

参道の石段の両側には火山熔岩が積まれて低木の植栽樹が多数生育している。

鐘楼わきにはイヌマキの大木がそびえている。樹高約15m、胸高直径0.8 mで推定樹令は150~200年とされている。根張りもよく樹勢さかんで樹姿も整っている。このイヌマキは横浜市の古木名木指定 110 号となっている。また、本堂前のイトヒバはイヌマキよりも小さいが樹高12m、胸高直径はおよそ 0.5m で樹形がよく整っている。横浜市の古木名木 111 号に指定されている。

県文化財指定希望のイヌマキは境内の庭に単木として植栽されたもので、付近には建造物があって樹木の保護のためにはよい環境とはいえない。周辺の森林などを含めた環境創造の中で再検討されるべきであろう。

40. 熊野神社 Schrein Kumano

所在地 横浜市磯子区中原町

熊野神社は新杉田駅から西へ約 800 m、台地の斜面に建てられている。神社林としては社殿の西側にややまとまった常緑広葉樹林がみられる。

中原町の住宅地から長い石段の参道をのぼっていったところにイチョウとカヤの大木が生育している。社殿に向かって右手のイチョウは胸高直径が 0.7 m、高さ 20m で左手のカヤは 0.9 m の樹高である。いずれも生育は良く樹形も整っている。

境内一帯はかなり急な斜面で、そのところどころを平らにして社殿とか祠などが建てられている。建造物のあいだには低木のヒサカキなどが植えられた所もあり、シバ草地の斜面になっている部分もある。

社殿の西側の樹林は Tab. 5 に示される。スダジイが優占して、それにアラカシ、タブノキ、ヤブツバキ、アカガシ、ヒサカキなどが密生した高木層を形成している。また低木層と草本層では被度は低い種数は豊富である。立地は急な斜面であり、褐色森林土壌がところどころに堆積して、その場所にだけ草本植物が生育している。

林内には人が立ちいったあとが多くみられる。必要なら小さな道をつけることにして、いたずらに林床がふみ荒されないよう、十分な配慮が望ましい。

41. 浅間神社 Schrein Sengen

所在地 横浜市磯子区森町

浅間神社は磯子の屏風浦で東京湾に面した台地上にある。社殿は現在台地中腹の住宅地はずれにあるが、そこから山頂に向かって長い石段がある。山頂には社殿の跡があり石碑などが建っている。樹林は石段の左右にみられる。

社殿に向かって右側にはスダジイを主とした常緑広葉樹林がひろがり、その植生調査結果は Tab. 5 に示されている。優占するスダジイは胸高直径 1 m に達しているものもあり樹高も高い。常緑広葉



Phot. 17 熊野神社のヤブコウジースダジイ群集には神事に使うヒサカキが多い。
Kumano-Shinto-Schreinwald des *Ardisio-Castanopsietum*
sieboldii mit *Eurya japonica*, *Aucuca japonica*, *Fatsia japonica* u. a.

樹としてはスダジイのほかにヤブツバキ、モチノキ、シラカシなどが育っている。特に低木層にこれらの幼樹が多いのもこの樹林の特色といえる。現在のところ、優占種のスダジイはかなり老木化しているが、亜高木層や低木層にスダジイの被度が高いので、常緑広葉樹林として存続していくと考えられる。この植分はヤブコウジースダジイ群集と判定される。

石段の参道の左側にはクヌギ林がある。植生調査結果は Tab. 6 に示されている。関東地方の多くのクヌギコナラ林は、定期的伐採に対応した再生萌芽林であるが熊野神社のクヌギ林は、植林されて以来、1度も皆伐されなかったと推定される。優占するクヌギは樹高およそ18m、直立した樹形を保っている。またこのクヌギ林内の低木層にはトベラが比較的多い。磯子海岸が埋め立てられる前にこの台地斜面が海に臨んでいた事を示している。

クヌギ林は夏緑広葉樹林であり、林内には、早春時に陽光が多くはいる。したがって低木層や草本層の被度がスダジイ林と比較すると著しく高くなっている。また両林分の林内構成種を比較してみると、日陰植物と陽生植物の対比をみることもできる。

国道16号線から浅間神社の台地を見るとかなりまとまった面積で常緑広葉樹林が残されている。市街地では崖をよじのぼって宅地が開かれる傾向にあるが、この台地斜面でも例外ではない。付近一帯は急傾斜地崩壊危険地域に指定されているにもかかわらず無謀にも樹木を伐採して石垣がつくられている場所もある。

浅間神社の樹林中のスダジイの大木は横浜市の古木名木指定の No. 124, 125, 126, 127, 128 の5本がある。いずれも推定樹令 200 年ほどであり、しかも独立木ではない。これらの指定木を保存するためには、樹林全体とその立地の総合的な保全が考えられなくてはならない。必要にして最小限の小道だけを残して、他は林内に侵入できないような策を施すべきであろう。

42. 八幡神社 Schrein Hachiman

所在地 横浜市磯子区西町

前面には根岸の埋立地をひかえ、背後は根岸台に連なる台地の下部に八幡神社がある。神社林は根岸台の急な崖上に発達している。

基盤は三浦層群の屏風ガ浦層のシルト質砂岩である。斜面の傾斜は平均 40° ほどで、土地の½以上は母岩が露出している。保安のために、数段の石垣が築かれていて、石垣の下面および崖錐地など緩斜面や微凸地には土壌の堆積がみられる。

本殿の後部には3段ほどの石垣が築かれていてやや緩やかな斜面をもつ立地である。ケヤキ、ミズキ、ハンノキなどの落葉広葉樹のほかにスダジイ、タブノキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹種が生育している。低木層も種数が豊かで19種を記録している。林内のシダ植物はベニシダ、ヤブソテツ、ヤマイトチシダ、オオバキノモトソウ、イノデなどと豊富である。これら構成種群の組み合わせからみて、この林はイノデータブ群集と判定される。

また Tab. 8 に示される林分はシルトの露岩の多い幼稚園の上の崖地で記録された。

スダジイ、タブノキ、カクレミノ、ヤブツバキ、シロダモ、モチノキなどの常緑広葉樹が高木層を占めている。イノデータブ群集の樹林に比較して低木層の種類も少なく、また草本層の被度が著しく低いことが特徴としてあげられる。この林分は海拔高度としては植生調査番号[42]-1の林とほぼ同じであり、台地南斜面でほぼ同じ位置を占めているにもかかわらず、土壌のちがいでヤブコウジースダジイ群集と判定される。なお、この林内のカクレミノは胸高直径0.6m、高さ18mの大木である。

八幡宮の神社林は根岸一帯の斜面の森林と共に神奈川県によって土砂崩壊防備保安林とされてい

る。現在神社林にはかなり嚴重に有刺鉄線がめぐらされているので林内への人の立ち入りはほとんどない。また崖崩れ危険地域にもなっている。県内各地の崩壊危険地域の崖で、いわゆる非生物的材料を使った補強工事のために、立地本来の自然植生までが変えられている例があるが、長い間斜面保全も含めた多様な機能を果たしてきた斜面林を上下の十分なマント群落と共に保護することの重要性の認識が望まれる。八幡神社では幸に現在では、石垣による植生の破損も少なく、スダジイ、タブノキなどの高木の樹勢もさかんである。神社の銅の屋根と背後の常緑樹林の調和がよく保たれて美しい社寺林となっている。

43. 宝勝寺 Tempel Hoshō-ji

所在地 横浜市磯子区氷取沢

氷取沢地区は日野川の小支谷で宝勝寺はその支谷に面した丘陵脚部の谷間に位置する。周辺部には大規模な宅地造成が進行中で、この寺院の位置する一角だけが宅地化から取り残されている。寺院の周囲はコナラの二次林で林床にはアズマネザサが多く生育している。本堂裏の斜面にはクロマツを混生するスダジイ林がみられる。高木層にはスダジイが優占し、他にハリギリ、コナラ、クロマツが、また亜高木層にはヤブツバキ、スダジイ、コナラなどが生育している。この樹林は低木層にアズマネザサが比較的高い被度で生育している。林床にはベニシダ、アオキ、ヤツデ、モチノキ、キツタ、シユンラン、ジャノヒゲなどのヤブツバキクラスの種群が多数生育しており、ヤブコウジースダジイ群落と判定された (Tab. 6)。

さらに本堂の西側斜面にかけては林冠の密閉したスダジイ林が続いている。この林分は面積がややせまい。宝勝寺の寺林の特徴として林内にほとんど無理な手入れをせず、倒木などもそのままに放置されていることである。前庭は植栽樹が美しく手入れをされており、裏山の自然の遷移に任されている状態との対比される景観を形づくっている。現存の植物群落そのものとしてはBランクであるが開発されていく地域にあって、将来自然林に回復するにしがたい自然の少ない地域での僅かに残されている樹林として貴重な存在になる。

44. 熊野神社 Schrein Kumano

所在地 横浜市金沢区柴町

熊野神社は金沢区の柴港に面した台地斜面にある。神社林は鳥居から社殿にむかう参道の両側にひろがっている。周辺は人家が点在していて、まだ比較的静かな環境である。

神社林はタブノキおよびケヤキが優占している (Tab. 8)。この林分はイノデータブ群落にまとめられる。群落の標徴種および区分種であるタブノキ、エノキ、イノデのほかにはヤブツバキクラスの種群が高い被度で出現している。低木層や草本層は被度が高い林床をつくっている (宮脇他 1672)。

神社林の上部に続いて社殿があるが、林内は密生する植物のためあって人の立ち入りはほとんどみられない。保全がよく保たれている林分といえる。

なお社殿の周辺部にはスダジイも高木となって生育している。これらは植栽されたものとみられる。また、社殿の東側にはヒノキの植林地があって良好な生育を示している。

横浜市の海岸沿いには社寺林はほとんど残っていないが、港から船で出入する際にみてもいかにも鎮守の森としての整った景観を示している。

45. 富岡八幡宮 Schrein Tomioka-Hachiman

所在地 横浜市金沢区富岡町

金沢海岸に面した台地端にあって周辺は住宅が散在している。社殿は台地端の小丘の南西側にあり海に面した北東一带に社林がみられる。社殿の北東の斜面は段丘状になって土壌のやや厚い立地で、ここにはシダ植物が林床に豊富に生育する ホソバカナワラビースダジイ 群集がみられる (Tab. 7)。ホソバカナワラビースダジイ 群集は房総半島以南にみられる暖帯林であり神奈川県では生育地域はきわめてかぎられている。また林内への人為的な干渉もあるために典型的な植分とはいえない。

海に面している東側には高木層にクロマツが生育したトベラマサキ群集がみられる。これらの林内にはメダケが密生している部分もある。

ホソバカナワラビースダジイ 群集は県内での生育地が数か所に限られている。したがって常緑広葉樹林の一つのタイプとして厳正に保存することが望まれる。現在この小丘の外周では埋立て工事が進められている。その結果としてホソバカナワラビースダジイ 群集およびマサキトベラ群集の生育環境は大きな変化を受けると予想される。天然記念物に指定して周辺域と共に将来にわたって保護されるように提案した。

46. 金竜院 Tempel Kinryu-ji

所在地 横浜市金沢区六浦町

平潟湾に面した台地斜面にあり海岸線より約 100 m の位置にある。周辺には住宅が多く、寺院は野鳥層の砂岩からなる崖に向かって建てられている。寺の北東側に小面積の常緑広葉樹林がある。また墓の上面にもコナラやクスギを主とする夏緑広葉樹林がみられる。

常緑広葉樹林の高木層にはタブノキの他に夏緑広葉樹のケヤキ、ミズキ、イロハモミジなどが見られる。しかし、亜高木層から低木層には、カクレミノ、ヤブツバキ、モチノキ、ヤツデ、アオキ、シユロなどのヤブツバキクラスの種で占められている。

草本層の植被率は低く、シャガ、イヌビワ、キツタ、オクマワラビ、ジャノヒゲ、アオキなどがみられる。面積は20m×30mほどの小面積であるが林冠は密閉している。

野鳥層の砂岩をけずって墓地がつくられているが、その崖地には横浜南部に一般にみられる岩隙植生がみられる。崖がつくられた年代の古さによって種々の植物が生育するがその主なものはコモチシダ、ホウライシダ、ヤマカモジグサなどである。

住宅が次第に密集してきはじめている地域なので樹林の周辺部も含めた地域の保全が重要と考えられる。

47. 称名寺 Tempel Shomyo-ji

所在地 横浜市金沢区金沢町

金沢町の台地、浅間山にかこまれて、広い山林と境内をもつ由緒ある古刹である。社殿の前面には広い庭園があり、池がひろがっている。また、左手には金沢文庫の図書館が建てられている。寺院の後方には台地がめぐっているが、ここにはクロマツ林、クスギ、サクラなどの落葉広葉樹林が点在している。寺院をめぐる周辺の台地上部では宅地造成のために大がかりな土地変容が行なわれている。

山林内のクロマツ林下には常緑広葉樹が比較的多くみられるが、いわゆる常緑広葉樹林としては金沢文庫の前面、北条顕時の墓所あたりにわずかな残存林分がある (Tab. 7)。この林分は台地の下部から崖錐部にかけてみられ、タブノキの高木とクロガネモチの亜高木が特徴的である。草本層にはイ



Phot. 18 金沢文庫をとりかこむ斜面に生育するイノデータブ群集の林床 (Nr. 47 称名寺)
 Dichte Krautschicht des *Polysticho*-*Machiletum thunbergii* mit
Aucuba japonica, *Polystichum polyblepharum* u. a. (Buddistische Tempel Shomyoji Yokohama).

ノデの被度が大きく、また崖錐部にかけて種数が多くなっている。この林の上部にあるクロマツは樹勢がきわめて悪く枯死寸前である。

寺院の左手には自然に生育したとみられるクロマツ林があり、樹下には常緑広葉樹が多くみられる。しかし、これらのクロマツの樹勢は必ずしも活力に富んでいるとはいえない。

県下の社寺には、庭園に小面積の池のあるところは多いが植生の成立が可能なほどの面積をもつ池は比較的少ない。称名寺の池は1,000 m²以上の面積を占めていてヒシが群落をつくっている。ヒシは根が水底にあって葉を水面に浮かしている浮葉植物である。

広い境内には種々の大木の生育がみられるが特に横浜市の古木名木に指定されたイチョウ (No.141, 142, 143, 144) が水辺にみられ美しい樹形を示している。また山林は県の自然山林保存地区に指定されている。

称名寺の山林はかつて宅地造成の可否で幾多の論議をよんだ地域である。現在、一応、環境庁および横浜市で買いあげて山林保存地区として残されることに決定している。大がかりな造成が周辺で行われてから数年を経ている現在、境内の樹木などにかなりの枯死および衰退がみられる。

樹高10m以上の樹木では、クロマツ、イヌマキ、ヒマヤラスギの枯死木が目立っている。また、枝先が枯れて衰勢にある樹木としては、イチョウ、サクラ類があげられる。これらの大木の衰退は周辺の大規模な開発と何らかの関係があるものと考えられる。

歴史的にもきわめて由緒のある寺院であり、そこにみられる植物にもそれぞれ歴史の重さを感じさせる寺院である。特にゆったりとした境内に配置された山門、墓地、本堂、池などと調和のとれた形で植生の総合的な保全が望まれる。

48. 伊勢山皇大神宮 Schrein Iseyama-Kotaijingu

所在地 横浜市西区宮崎町

紅葉ヶ丘の台地にあり境内は12,000m²の広い敷地をもっている。その中に本殿、拝殿、社務所などの建物が配置されている。これらの建物の前面には整った植栽樹が生育し管理もよく美しい庭園となっている。本殿の背面の崖地にはミズキなどの夏緑広葉樹を主とした二次林、雑木林が広く残されている。

拝殿の後背地には植栽されたとおもわれるスダジイやクスノキ、モチノキがかなりまとまって生育している。また斜面の下部にかけては、ミズキ、エノキ、ケヤキ、ハリギリなどの湿生地に生育する夏緑広葉樹が被度30~40%で生育している。崖の下部へいくほど二次林的な夏緑広葉樹が多くなっている。低木層にはスダジイ、アオキ、マサキ、モッコクなどの広葉常緑樹がかなり生育している。草本層の被度は50%と特に高くはないがヤブツバキクラスの種とともに草原生の植物も生育し種類が豊富である。

現在はこの林内には人の立ち入りがほとんどないようで、神社からの塵芥の投棄がいくらか見られるだけである。枝打ちや下草刈りもほとんどされていない。このように神社によって無意識的に保護されているので、この斜面一帯の植生は次第に自然植生に遷移するものと期待される。

49. 東福寺 Tempel Tofuku-ji

所在地 横浜市西区赤門町

京浜急行の黄金町駅の西側の台地上から斜面にかけて広い面積を占めている寺院である。周辺は住宅および商店街の密集地であり緑の樹林が残っているのはこの寺院の付近だけである。赤門町のほとんどがこの寺領であるというが、境内には植栽樹が多くクスノキ、スダジイなどが多く植えられている。

寺林は本堂の裏側から墓地にかけてみられる。斜面に階段上に設定されている墓地の中にタブノキ、ミズキ、エノキ、クスノキ、コナラ、ケヤキなどの高木が生育している。したがって本堂から墓地の斜面をみると高木層が密閉した自然林の様に見える。しかし植物群落としては Tab. 8 に示されるようにまとまった植生を形づくっていない。高木層のクスノキは樹高20mと良好な生育を示しているが植栽されたものとみられる。タブノキも枝張りが良好で樹高も18mほどに達しているが単木的に生育している。草本層の被度は低く貧弱な林床となっている。

東福寺の寺林の保全については、寺林のまわりにはすべて柵が設けられていて墓地に通じる門にも錠が施されている。このように厳重な立入禁止は市内でもあまり例がないように思われる。したがって墓地へはもとより林内に勝手に立ち入ることは固く禁止されている。このような地域保護の対策も一つの例として今後の参考とされる。

50. 勤行寺 Tempel Kangyo-ji

所在地 横浜市西区南軽井沢

三ツ沢公園のある台地の南斜面にあって比較的常緑広葉樹の多い樹林である。この崖地は墓の周辺部では平均傾斜は50°あり、基盤の第三紀シルト層の露出がみられる。樹木はうすい土壌の上に生育するが被度は低くない。ケヤキ、モチノキ、エノキ、タブノキ、シラカシ、ヤブニッケイ、エゴノキ、ヤブツバキなどが混生している。低木層や草本層の種類は少ない。草本層の出現種数は19種である。

このほかに本堂の西側にもやや密な樹林があってケヤキ、エノキなどが生育している。傾斜が急な

こともあって林内へはほとんど人の立ち入りが無いようである。

横浜市内の台地縁の崖の植生は保安林としての機能をもっている。

51. 熊野神社 Schrein Kumano

所在地 横浜市港北区師岡町

熊野神社は下末吉台地上で大倉山トンネル上にあり小支谷から台地上の緩斜面にかけてひろがっている。周辺は静かな住宅地であり、耕地もわずかに残っている。神社は古い歴史をもち樹林もよく保存されている。

社殿の前面の樹叢にはアカガシ、ケヤキ、カヤ、ヒノキが生育している (Tab. 6)。カヤは植栽されたもののようであるが樹高20mに達して樹形もよく、根張り良好である。

社殿の背後にひろがる樹林はアカガシを中心とした常緑広葉樹林である。アカガシ、スダジイ、ケヤキ、コナラ、ヤブツバキ、モチノキ、ヤブニッケイ、イロハモミジ、シログモなどが高木層と亜高木層に生育している。アカガシは胸高直径は1.2 mにおよぶ生育のよい大木である。低木層と草本層は種数は少ないがアカガシ、アオキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ヤブニッケイ、オオイタチシダ、テイカカズラ、ジャノヒゲ、ヒサカキ、オモト、ヤブラン、ヤブコウジ、マンリョウなどのヤブツバキクラスの種群がほとんどを占めている。針葉樹の植栽もみられず、各階層に常緑広葉樹の種群がバランスのとれたかたちで生育している。全出現種数は少ないが二次林の構成種や草原構成種群の侵入はあまり見られない。土壌は黒ボクで厚く肥沃でありまた落葉層も厚い。

樹林の保全について見れば現在、林内のヒサカキは祭祀用に枝が切りとられている。できれば、さかき用の木は別の場所で栽培されることが望ましい。社殿裏には“のの池”があり、参拝者も多いようであるが林内への立ち入りは厳に抑えることが望ましい。

52. 杉山神社 Schrein Sugiyama

所在地 横浜市港北区新吉田町

港北区の台地上で周辺はまだ閑静な農村地帯に杉山神社がある。社殿は台地上に在って北側と南側から石段の参道が通じ、その一角が神社林となっている。

北側の参道の周辺にはモウソウチク林があり社殿まで続いている。その他の部分は落葉樹林のクヌギコナラ林であるが、下草刈りが行なわれていないため林床には常緑広葉樹種の被度が高くなっている。ところどころにケヤキやシラカシの高木が散見される。また南側の参道の両側にはモミの高木が数本生育するが枝先が枯れていて生活力は低下している。一部にはヒノキの植林があり、下刈りや枝打ちがされないで放置されている。

神社林としてはきわめて一般的で特に自然林としてのみるべきものはない。しかし、かなり広い面積を保有しているので緑地帯としての機能はもっている。

53. 金蔵寺 Tempel Kinzo-ji

所在地 横浜市港北区日吉本町

金蔵寺は東横線日吉駅から500 m西側の下末吉台地の山足にある。付近は住宅がかなり密に建てこんでいるが寺院のある斜面一帯にはまだ雑木林が残っている。金蔵寺は寿老神をまつた寺で、本堂や庫裏のほか小さな祠なども多い。

本堂の裏側から台地上までが斜面になっていて落葉広葉樹と常緑広葉樹の混交林になっている。墓地の北側には比較的常緑広葉樹の密な林分がある。アカガシやコナラなどは萌芽再生したものとみられ、一株から数本が出ている。常緑広葉樹のヤブツバキやスダジイ、アカガシ以外には落葉広葉樹の

ヤマザクラ、コナラ、イヌシデ、エゴノキなどが生育している。本堂の裏手から台地上まで続いている樹林も常緑広葉樹の少ない二次林である。スダジイは本堂の背後に列植されたものとみられるがヤブコウジースダジイ群集の種組成を示している。歴史的にも由緒ある寺院の寺林として今後、自然林への回復をまつことが望ましい。

54. 三会寺 Tempel San-e-ji

所在地 横浜市港北区烏山町

鶴見川に面した沖積地に寺院があり、9,240 m²の境内の諸所に植栽木がある。これらの樹種はケヤキ、シラカシ、アカガシ、モチノキ、シロダモなどの大木で樹高は20mから25mにもなっている。しかし、まとまった樹林を形成していない。きわめて単木的に植えられており、下草などもほとんど見られない。境内の外に寺院の所有する樹林はクスギコナラ林である。周辺は住宅が密になってきている新開地であり、樹木はこの寺院にだけ残された状態である。

55. 泉谷寺 Tempel Senkoku-ji

所在地 横浜市港北区小机町

泉谷寺は小机町の台地の斜面下部で北東向きの小谷の一角を占めている。周辺には新しく開かれた住宅地がある。寺の全面積は約20,000m²とされている。寺院の周辺には竹林があり、その奥のスギ植林が建造物を取り囲んでいる。常緑広葉樹林の断片が山門のわきにみられる。

モウソウチク林は除草がゆき届いて低木層や草本層の植物の種類は少ない。スギの植林地は本堂から庫裏にかけての裏山にみられる。樹高15mから20mのスギで樹冠が枯れはじめていて衰退がめだっている。

山門わきの常緑広葉樹林の断片は植栽されたスギと、イロハモミジ、ヤブツバキなどの庭木から続いている。高木層には樹高約25mのケヤキ、モミのほかアカガシ、ヤブツバキ、シラカシなどが生育している。また草本層にはヒサカキ、アオキ、ヤブツバキ、シュロ、ネズミモチなどが密生している。低木層にはベニシダが特に多い。他の草本植物は被度が低く種類も比較的少ない。

樹林としては面積もせまく特に高い評価は与えられなかった。

56. 真福寺 Tempel Shinpuku-ji

所在地 横浜市港北区下田町

真福寺は下田町の沖積低地から台地斜面部にかけて約3,000 m²の面積をもっている。周辺部は住宅地だがこの一帯には他にも神社林や屋敷林などがあって緑地帯となっている。境内には植栽された大木が散生し、墓地の周辺にも小さな樹林がある。

墓地の西側にはややまとまった常緑広葉樹林がある。シラカシ、アカガシなどを中心とし、ヒサカキ、シロダモなどがかなり密に生育している。林床へは墓地を掃除した時の塵芥が捨てられるので荒れている。

墓地の植栽樹はアカガシ、シラカシ、シロダモなどである。境内にはクスノキとイチョウの大木がある。クスノキは胸高直径1.1 m、樹高22mで推定樹令は300年とされる。またイチョウは胸高直径は1.2 mで樹高20m、推定樹令は20年とされる。他にシラカシ、カヤ、ケヤキ、アカガシなどが疎に植えてある。

57. 西方寺 Tempel Saihō-ji

所在地 横浜市港北区新羽町

西方寺は新羽町の新開住宅地にあり、周辺は農地と住宅地が半々に散在している景観である。寺院

は広い寺領をもち境内と墓地が12,000㎡の面積を占めて閑静な一角をなしている。

参道を上ったところの両側にはイチョウの大木が植えられている。樹高約20mで樹形が整っている。

境内を取り囲んでいるのはクスギーコナラ林で現在では伐採も行われず次第に自然林へと遷移がすすんでいる。

墓地の西側にはシラカシを主とする自然林が在る (Tab. 10)。構成種はシラカシ、ケヤキ、スギ、ミズキ、ヤブツバキなどで、かなり密生したシラカシ群集の林分となっている。墓地の周辺にあるために林縁部は草刈りがしばしば行われている。したがって林縁部にはいわゆるマント群落の構成種が多くみられる。墓地をめぐる周辺のところどころにケヤキの高木が植えられているが墓地内には樹木は少なく陽当りも良好である。

周辺には次第に宅地化の波が押しよせているので、今後はこのような広大な寺領は、住宅街の中の樹林保全の中核としての機能を果たさせることが必要であろう。

58. 鉄 神 社 Schrein Kurogane

所在地 横浜市緑区鉄町

鉄神社は鶴見川にのぞむ台地の緩傾斜地にあり2,400㎡の面積をもつ神社である。基盤地質は砂層で、その上を下末吉ローム層が厚く覆い土壌は黒ボクである。神社をとりまいて桐蔭学園の校地がひろがっている。社殿の前面と後側に合わせて1,500㎡の樹林がある。

社殿の前面の樹林はアカガシとクロマツを中心としている。アカガシは樹令およそ350年で、樹高は22mあり、市内でも大木に数えられる。この樹叢はアカガシの外にクロマツ、クスノキ、モミ、ヒノキ、ヒイラギ、ヤブツバキなどが高木、亜高木層に生育し、それ以下にもヒサカキ、ヤブツバキ、ジャノヒゲ、アラカシ、キツタなどの常緑広葉樹種が多数みられる。種組成上からはまとまっているが面積がせまく、幅わずかに8mにすぎない。したがって林内へ風や光が直接には入りこみ、また林縁を歩く人が多いので人為的影響も見逃せない。

社殿の裏側にはアカガシの単木(樹高20m)があり、それに続いて植林地がある。植林はスギ、ヒノキ、クロマツがかなり密植されていて、低木層は貧弱である。林内への立ち入りも多踏跡群落の構成種であるオオバコなども侵入している。

社叢の保全については社殿の前面の常緑広葉樹林と後部の植林地とを連続させるように補植することが望ましい。また、林内には小径を作って、歩道を歩き、それ以外の林地内には立入禁止にした方がよい。黒ボク土壌の肥沃な土地条件である。アカガシは樹令も古く、現在の樹勢もさかんで四方に枝を張りよく整っている。このアカガシが周囲の亜高木、低木と共に生きていける環境づくりをした上で天然記念物の指定を考慮されるべきであろう。

59. 王子 神 社 Schrein Oji

所在地 横浜市緑区長津田町

多摩丘陵内の恩田川の支谷南斜面に位置している。社叢の前面は交通量の多い国道246号線が通っている。付近は住宅地が多く宅地が新しく造成されている。

参道の前面に30mにおよぶモミの高木が生育するが樹勢は衰えている。社殿の北側に常緑広葉樹林があり、西側にサワラ、ヒノキの植林がある。

常緑広葉樹林ではシラカシ、カヤ、モミ、ウラジロガシが高木層を占め、亜高木層にはシラカシ、ウラジロガシ、アラカシ、ヒサカキなどが生育している。草本層にはヒメカンスゲが多く、ヤマイト

チシダ、キツタ、ベニシダ、ヤブラン、テイカカズラなどが生育している。これらの構成種からシラカシ群集モミ亜群集の林分と規定される (Tab. 10)。

社殿の西側にはサワラ、ヒノキなどの植林がある。サワラは樹高 12 m で樹令 30 年内外と推定される。サワラやヒノキは密に植栽されて良好な生育を示している。林床にはアズマネザサ、ヒメカンソゲ、キツタ、ヤマイタチシダなどが生育している (Tab. 10)。

常緑広葉樹林の生育地は基盤の第 3 紀層の上を被っているロームが比較的うすい。部分的には基盤の砂層が露出している。しかし、スギ、ヒノキ植林地になっている場所はローム層がかなり厚く適湿地である。

王子神社林は国道 246 号線に面していて道路からの排気ガスなどの影響を強く受けていると考えられる。参道前面のモミのように他の樹木の衰退も考えられる。上部ローム層の流失を防ぐために林内への自由な立ち入りは厳に禁止されるべきである。また社殿の背後は崖となっているが、斜面の侵食を防ぐために、粗朶積み、表土の客土、ポット苗による直根性のシラカシ、アラカシなどの幼苗の密植による斜面保全林形成などの手段を講じることが切望される。

60. 旧 城 寺 Tempel Kyujo-ji

所在地 横浜市緑区三保町

中山駅の西方で恩田川にのぞむ合地上に位置している。周辺は水田と畑が多く、住宅が点在する古くからの集落地である。旧城寺はかつての榎下城跡につくられたといわれ、とりでの土塁が残っている。山門の両側の土塁上にはカヤの大木を中心とした常緑広葉樹林が見られる。また寺院の北側の斜面にはシラカシを主とした樹林がかなりの面積を占めている (Tab. 10)。

山門両わきの樹叢には樹高 25 m のカヤが列生している。カヤの大木を中心にアラカシ、シラカシ、タブノキ、ヤブツバキ、ケヤキなどが密閉した林冠を形づくっている。低木層にもアオキ、ヒサカキ、モチノキ、ヤブツバキなどのヤブツバキクラスの種群が数多く生育している。境内側は下草刈りや除草が行われている。この樹叢は带状で面積は比較的せまいが、高木層から低木層、草本層まで常緑の植物が多く、各階層が整った群落を形成している。特にカヤの実生の幼苗をはじめとして、常緑広葉樹種の幼樹が多くみられ群落は安定している。

寺院の後方の斜面の林分は高木層にはケヤキ、ミズキ、シラカシが生育し、亜高木層には、シロダモ、モウソウチク、イヌツゲの樹種がみられる。またスギやヒノキが植栽されている。低木層から草本層にかけてはアオキ、シラカシ、ヒサカキ、シロダモ、ナンテン、ジャノヒゲ、ヤブラン、ヤマイタチシダ、オオイタチシダ、ヒサカキなどが生育している。土壌は黒ボクで落葉層が厚く、高木層から草本層にいたるまで安定した林相をみせている。種組成の構成からみて、この林分はシラカシ群集のケヤキ亜群集と判定される。

寺院の前面は古く植栽された樹木を中心にした群落であり、背面は自然に近い樹林で囲まれている。また、城跡として歴史的な記念物の指定を受けている。

保全については前面の山門わきのカヤは現在生育良好で樹形も整っているが根元は表土から露出している。土塁付近は清掃がゆき届いているために表土の流失がはげしく、カヤの生育のためには条件が悪くなっている。根元のまわりにヒサカキなどの低木をリング状に植えてたり、そで群落を形成して、土塁付近の清掃と下草刈りはできるだけ控えた方がよいと考えられる。後方から西側にかけての自然林は現在下草も刈られず、枝打ちも行われず人為的影響が少ないので、現状のまま放置されているのが樹林保全の最も良策と考えられる。

旧城寺の社寺林は歴史的記念物と調和がとれ、県下の寺林中で最も高く評価される。高木のキャだげにとどまらず、寺林全体とその立地を含めた地域としての天然記念物指定が切望される。

61. 真福寺 Tempel Shinpuku-ji

所在地 横浜市緑区荏田町

真福寺は多摩丘陵の早淵川に面した台地斜面に在る。周辺部は丘陵帯の新興住宅地として開けてきて、農村景観は失われてきている。全面積は1,400 m²、わずかなクヌギーコナラ林がある。

以前この寺院境内に生育していたイロハモミジは県の指定天然記念物であったが、枯死したので伐採され、現在ではその株跡に若木が植えられている。

天然記念物指定を希望されているカヤは境内の山門わきにある。樹高約30mで推定樹令400年とされる。樹勢もさかんで根張り状況も良好である。独立木として樹木の形も整っている。市内でも有数のカヤの大木といえるが、イロハモミジと同様に単木の指定にとどまらず、林として面的な指定、保護が必要である。

62. 神明社 Schrein Sinmei

所在地 横浜市瀬谷区宮沢町

神明社は宮沢町の和泉川に面した台地の縁に位置している。周辺は農村地帯で神社をとり囲んで農家が点在している。台地上には畑地もあるが宅地の開発が進んでいる。

神社への石段の右手には常緑広葉樹の多い樹林があり、台地のテラス状になった平坦地はスギなどの植林地となっている。この植林地の針葉樹はスギ、クロマツ、サワラ、ヒノキが混植されており、樹高は5mから7mの若令樹である。下草刈りが十分にされており、林床にはアズマネザサが優占している。

常緑広葉樹の優占する林分の種組成はTab. 10に示される。樹高25m、胸高直径1.3mのシラカシの大木を中心としてスギやヒノキが植えられ、ヤブツバキ、ヒサカキ、イヌツゲ、シュロなどが自生している。また低木層にはシラカシ、アオキ、ヤブツバキ、ネズミモチ、モチノキ、シキミなどの常緑広葉樹がみられる。林床は刈られているので草本層の高さが低く、被度も低い。しかし種数は冬季にも30種は出現しており、シラカシ群集と判定される。

独立木としてはタブノキ（樹高25m、胸高直径1.2m）やケヤキ（樹高30m、胸高直径0.9m）などがある。

この神社林は相模原面上位段丘面にあり、ローム層の厚い基盤の上に黒ボク土壌が被っている。針葉樹の植林と常緑広葉樹とでは管理の仕方もちがえるべきで、常緑広葉樹の林床は下草刈りをしないで多層群落として安定した自然林への復元がはかられるべきであろう。

63. 白旗神社 Schrein Shirahata

所在地 横浜市戸塚区品濃町

白旗神社は舞岡町の白旗山と呼ばれる丘陵の斜面上にある。前面は柏尾川の支流に開析された谷部に面している。周辺は耕地整理が行われた農耕地帯で比較的閑静ではあるが、西側を東海道線が通っている。

神社の鳥居の東側に樹高の高いシラカシを中心にして常緑広葉樹の樹叢がみられる (Tab. 10)。シラカシ、イロハモミジ、アカガシ、モチノキ、ヤブツバキ、イヌシデ、ヒイラギなどを高木層にもち、低木層にはカマツカ、イヌツゲ、アオキ、チャノキ、ガマズミなどを加えている。また古い常緑広葉樹林の常として草本層にテイカカズラの被度がきわめて高く、ジャノヒゲ、ベニシダ、ネズミモ



Phot. 19 舞岡八幡 [Nr. 64] のスギ林は樹高が30mで生育が良好である。

Fast 30 m hoher *Cryptomeria japonica*-Bestand am Maioka-hachiman Shinto-Schrein.

チ、ヤマイタチシダ、キツタ、ヤブコウジなどのヤブツバキクラスの種群を多数伴っている。この樹林は樹冠が密閉されていてうっそうとした鎮守の森の形態を示しているが、樹林の面積はせまい。

白旗山付近は神奈川県におけるスダジイ林域とシラカシ林域の境界域でもあり、この白旗神社林は潜在自然植生の検討の上でも重要な意味をもっている。

64. 舞岡八幡宮 Schrein Maioka-Hachiman

所在地 横浜市戸塚区舞岡町

舞岡八幡宮は柏尾川支流の田園地域の台地斜面に在る。神社の前面には水田がひらけており、台地の後方平坦地には雑木林が連なる閑静な環境である。沖積低地の水田の間から参道が通じており、石段をあがった上に社殿が建てられている。全面積2,635 m²のうち神社林の面積は788 m²でそのほとんどがスギ植林である。

スギ植林は高木層の高さが約20mで生長は良いが枝先が枯れているものがある。比較的疎植されており、下草刈りが行われ、枝打ちも行き届いている。低木層の被度は低く林床にはクマザサが優占しているが、その他の草本植物も多い。植林としては良好であるがスギの枝枯れが気かりである。

65. 八幡神社 Schrein Hachiman

所在地 横浜市戸塚区吉田町

横須賀線戸塚駅から南に500 mの台地斜面に在る。周囲は住宅地が密集しており、この神社の一角だけがスダジイの濃い緑の陰をつくっている。戸塚駅前の市街地から望むとこの八幡神社のスダジイ林はみごとな鎮守の森となっている。

スダジイは南向きの斜面に植ええられたものであるが年を経て大木となっている。特に石段へ向かって左手の大木には胸高直径が2.1 mのスダジイがあり、天然記念物指定申請の希望がある。



Phot. 20 八幡神社 [Nr. 65]

東海道線からもこんもりと茂って見えるスダジイ林。

Hachiman-Shinto Schreinwald mit *Ardisio-Castanopsietum sieboldii*

スダジイの林床は児童の遊び場などとしてかなり荒されているので林内の立入りを禁止して林床植生の回復、保全をはかりたい。現在高木層を形づくっているスダジイの立派さに比べて低木層以下がきわめて貧弱である。さらにこの植分の保全をはかるためには、マント群落を形成するために林縁への補植が行われるべきである。

66. 御 霊 社 Schrein Gorei

所在地 横浜市戸塚区田谷町

御霊社は田谷町の水田地帯を前面にした台地の斜面に在る。周辺は新しい住宅の建築も始まっているが、まだ農村地帯のおもかげを残している。全面積は1,386 m²である。

神社の境内をとりかこんだ土塁の上にスダジイを中心とした常緑広葉樹の残片がわずかに残されている。高木層にスダジイ、ケヤキ、アカガシ、タブノキ、ヤブツバキ、モチノキなどが密な樹冠をつくっている。最近、低木や周辺の樹木が伐採されてしまったために陽光が林内にはいって樹林の様相が変化してきている。スダジイ林としては面積もせまく、特に高くは評価されない。

67. 定 泉 寺 Tempel Josen-ji

所在地 横浜市戸塚区田谷町

定泉寺は田谷町の水田地帯に面した台地のふもとにあり、田谷の洞窟として知られた寺院である。周辺はまだ農村のおもかげを残しているが、新しい住宅や工場の進出もみられる。寺院の南側には定泉閣ヘルスセンターがある。寺領の総面積は約3,700 m²である。

境内の北側の洞窟の上部にモチノキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹を混生した樹林がある。これらの中でクロマツ、サクラ類などが高木として生育し観光用に十分に手入れがされてある。社寺林として生態学的観点からは、高い評価が与えられない。境内は比較的せまくて、めだつ植栽木もない。

68. 正 法 寺 Tempel Shoiho-ji

所在地 横浜市戸塚区和泉町

正法寺の寺領は和泉川に面した段丘斜面から台地上にかけてひろがっている。全面積は4,000 m²で、それほど広くはないが沖積面からみあげるとこんもりとした美しい常緑広葉樹林の相観を示している。段丘の下部は耕作が放棄された水田でヨシやヒメガマが生育しサギが舞っている。東側と南側には民家が点在し全体としては静かな農村地帯である。

台地の平坦面にお堂があるが現在は無住寺になっている。墓地は堂を囲んで点々とたてられているが石塔なども古びていて野仏の感じがするものがある。墓地のまわりには特に常緑広葉樹が多いがその組成がTab. 10に示される。植栽されたとみられるシラカシにスギを混じえたこの樹林の林床には常緑広葉樹の芽生えが多い。地面にシラカシの実が多数落ちている。またシラカシやタブノキの実生が多数みられる。

堂の周辺部の境内にも数本のタブノキの大木が生育している。そのうちの最大の樹木は胸高直径1.2 m、樹高は20mを越える。タブノキ独特の大形樹冠を呈して、和泉川沖積地からの遠望でもそれとわかる。他にスダジイ、イチョウなどの高木もある。

県内199の第二次調査対象の社寺の中では、無住の寺はきわめて少なかった。寺院のすべてが境内から、時には寺林にいたるまで実によく管理されて手入れがゆき届いているのが普通である。しかし正方寺ではよく自然度が保たれており、それなりにすぐれた景観と自然林としての価値を示していると言える。墓地は適度に管理されており、周囲の自然環境に対応して竹垣などで囲われている。また石塔にしても年代のついたものがそのままに使われていて墓石の上に季節によっては、ヤブツバキの

花が散りかかっている。

常緑広葉樹には結実の良いものとそうでないものがあり、神奈川県内ではスダジイは比較的悪い方である。またタブノキも結実してそれから芽生えるのは比較的限られた地域においてである。その点から正法寺の寺林ではタブノキもシラカシもよく結実して林床には多くの実生が出ているといえる。その土地本来の潜在自然植生の主要木を使つての郷土林や環境保全林を形成するためのタブノキ、シラカシの種子がこの林では多数得られそうである。

潜在自然植生の考察の上からみると正法寺はシラカシ林域とシイ林域の境界に近い。現在 Tab. 10 に示された林分は相観的にはシラカシが優占しているが林内にはタブノキがきわめて多い。今後、遷移がどどのように進行していくのかも興味をもたれるところである。

69. 東 泉 寺 Tempel Tosen-ji

所在地 横浜市戸塚区下飯田町743

東泉寺は下飯田町で境川に面した舌状台地の台地縁に位置している。周辺は古くからの集落域で後方の台地上はクスギコナラ林に隣接している。境内の北側には琴平社（面積約 700 m²）があり、さらにその北側に墓地が続いている。

山門の前面にイチョウの大木が二本ある。山門にむかって右側が雄木で胸高直径 1.4 m、高さおよそ 25 m（横浜市名木古木指定 220 号）である。左側は雌木で胸高直径 1.3 m、樹高およそ 25 m（市指定 221 号）でよく結実をする。推定樹令は 350～360 年とされ、両木ともに生育がよい。

墓地のまわりにはスギやヒノキが植えられてよく育っている。また本堂の裏側にはクスギ、コナラ、ミズキ、エゴノキ、ケヤキなどの生育している落葉樹を主とする二次林がみられる。琴平社



Phot. 21 寺院に神社が合祀され植栽樹がとり囲む (Nr. 69 東泉寺)。

Buddhistischer Tosenji-Tempel mit einem Shinto-Schrein vereinigt, der unter großen *Quercus myrsinaefolia*-Bäumen steht.

の裏側のスギ林の組成が Tab. 19 に示されている。高木層には植栽されたヒノキやスギのほかにミズキ、ヤブツバキ、シロダモ、シラカシ、ゴンズイなどが生育している。ヤブツバキの植被率が高いので密生した感じがしている。寺林内では、この林分に最も常緑広葉樹がめだつ。しかし面積が限られており、特記すべき植生は他にみられない。

70. 盛徳寺 Tempel Seitoku-ji

所在地 横浜市戸塚区上倉田町

盛徳寺は横須賀線戸塚駅から南へ約 1 km の線路沿いの台地斜面に位置している。周辺部はかなり密集した住宅地となり、寺領の一角だけに樹木が残っている。寺院の全面積は 5,000 m²で、社寺林の面積は約 2,000 m²となっている。

庫裏はコンクリート建築となっているが、その背後から墓地にかけてスタジイとカシ類の混生した林がある。この樹林は自然のスタジイ林の中にシラカシを植樹したものとみられる。モチノキ、アラカシ、スギ、ヤブツバキ、タブノキ、シロダモなどが生育している。墓地の背後で面積も少なく特に生態学的な価値が高い林とはいえない。

山門の前には胸高直径 0.7 m、樹高 23m の樹形の整ったイチョウの高木が生育している。

71. 妙秀寺 Tempel Myoshu-ji

所在地 横浜市戸塚区吉田町

妙秀寺は戸塚駅の北東約 500 m の位置に在り、周辺は密集した住宅地にとりかこまれている。寺領は南向きの緩斜面に広くとられケヤキなどの大木が植えられている。寺の歴史は約 500 年と古く、それを物語るようなケヤキの大木が生育している。ケヤキの高木の胸高直径は 1.8 m もあり、樹高約 25 m となって樹勢もさかんである。地上約 1.2 m のところで、2 つに幹が分かれている。

妙秀寺の樹叢は高木層にケヤキ、エノキ、タブノキ、シロダモ、モチノキ、ヤブツバキ、シュロなどが生育している (Tab. 8)。この樹叢は面積はややせまいが夏緑広葉樹が少ないイノデタブ群集のまとまった樹林である。

このほかにも、カクレミノの高木もある。胸高直径は 0.4 m、高さ 12m ほどである。また、モチノキは胸高直径 0.6 m で幹こそ細いが樹高 18m の大木である。しかし、樹勢は衰えている。

境内や墓地に植えられた樹は枝打ちがされている。

72. 本興寺 Tempel Honko-ji

所在地 横浜市戸塚区上飯田

本興寺は上飯田で境川にのぞむ台地上に位置している。周辺は農村地帯で屋敷林のしげる古くから続いた農家が点在している。寺院の北側には東海道新幹線が通過しその騒音は寺林内にもひびきわたっている。

寺領の全面積は 1 万坪 (33,000m²) といわれるほど広くて境内のまわりに二次林、植林、常緑広葉樹林とがみられる。また境内の植栽独立木にも大木がある。第一次調査時に保存したい参道のスギ並木と報告されたがその後、参道の拡張整備に際してその多くは伐採されてしまった。うっそうとした杉並木のおかげは今や全く残っていない。

本堂の脇にはカヤ、イトヒバ、クスノキの大木が植えられている。

木	胸高直径	樹高	その他
カヤ	1.2m	18m	樹勢はよい
クスノキ	1 m	23m	生育はきわめて良好、樹姿整う

イトヒバ	0.9m	20m	地上約3mのところから10本に分枝してフォーク型の樹形となっている
------	------	-----	-----------------------------------

これらの樹木は樹令500年から600年といわれている。

針葉樹の植林はスギ、ヒノキ、サワラなどが多く植えられていて、何れも生育がきわめて良い。また植林地にはシラカシ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹が混生されている。Tab. 10には墓地の裏側の常緑広葉樹林の種組成が示されている。もともとスギの植林地だった所へシラカシが混生したもので亜高木層にはシラカシの被度が高い。林床はきれいに下刈りをされていてクマザサが目だっている。亜高木層の植被率も高くないので日光はよく透入し、しかも黒ボク土壌が厚く堆積している肥沃な土地で、出現種類数は多い。台地上にはクヌギ、ミズキ、コナラ、エゴノキなどが高木層に達し、スギが林床に生育する二次林もひろがっている。

保全についてみると、現在本興寺内では墓地の拡張工事が行なわれている。もともと寺有地はが台地上のほぼ平坦部であり墓地の造成は地形的にはまったく無理なく行なわれている。この台地一帯が基盤のロームの上に肥沃な黒ボク土壌がおよそ30cmから40cmの厚さに載っている。相模台地の典型的な肥沃土壌であり、林地として利用する以外の利用方法も可能と考えられる。

73. 青蓮寺 Tempel Seiren-ji

所在地 横浜市神奈川区羽沢町

青蓮寺は羽沢町の台地緩斜面にあり鶴見川の小支谷にのぞんでいる。周辺部には新しく開かれた住宅地が点々と建っている。全寺有面積は約10,000㎡のうち社寺林は4,500㎡である。本堂の裏手には墓地があり、その最上部にカシ類の優占する常緑広葉樹林がひろがっている。

高木のアカガシは墓地に隣接していて、樹高およそ13mほどであり、それに続いてヤブツバキ、シラカシ、ヤブニッケイなどが生育している。樹高も低くアカガシが叢生するので、萌芽再生した林とみられる。この樹林では常緑広葉樹が密生してまとまってはいるが、現状では面積も小さく特に価値の高い林分とは言えない。

なお寺院の境内には古木名木に指定されたイチョウがある。胸高直径0.8m、樹高約20mの大木である。

74. 最勝寺 Tempel Saisho-ji

所在地 横浜市神奈川区菅田町

最勝寺は菅田町の台地上で新幹線から約300m西よりに在る。周辺は農村地帯であったが近年新しい住宅やアパートが建ち始めている。全面積は約2,400㎡でそのうち約1,600㎡がスギ植林、モウソウチク林、クヌギコナラ林となっている。

本堂と庫裏の西側にはモウソウチク林があってスギ林と境を接している。針葉樹の植林はスギ、ヒノキ、クロマツなどが植えられている。この植林内は下草刈りや枝打ちなどの管理をあまり行わないので低木層にはシログモ、シラカシ、ハリギリ、タブノキ、ヒサカキなどが生育している。クヌギコナラ林は下草刈りが行われていないので、アズマネザサの被度が高い。

県の天然記念物指定希望がだされていたタブノキは胸高直径1.2mで生育は良好である。しかし、参道側の枝が全木の約半分も伐り払われてしまって、樹形が全く変わってしまっている。すぐ近くに建てられたアパートの日照のためと思われるが、これによってタブノキの天然記念物候補木としての価値は減少したといえる。

75. 薬王院 Tempel Yakuo-in

所在地 横浜市神奈川区七島町

薬王院は七島町の台地にあり、18,000m²の敷地をもっている。周辺は住宅の密集地であるが、この寺院の崖地から墓地にかけては緑が多く、近郊緑地および緑地保存地区となっている。墓地をふくめておよそ5,000m²にわたってケヤキなどの樹木が生育しているが、いずれも単木的に樹林を形づくりに至っていない。

本堂の背後の崖地には高木が2本あり、それを中心にした低木林があるが、群落として、十分に持続できるだけの面積を占めていない。傾斜は約35°で巾8m、長さは40mである。林縁性のマント群落の構成種群が多分に見られる。

境内の独立木はケヤキ（樹高17m。枝先に枯死部分があり、樹勢はよくない）。イチョウ（樹高18m）、タブノキ（樹高12m、墓地内の独立木）、スタジイ（樹高8m、枝ばり不良）などがある。

76. 専称寺 Tempel Sensho-ji

所在地 横浜市神奈川区菅田町

専称寺は第3京浜道路の西側約1kmの菅田町の台地上にある。周辺は農村地帯で、谷部には新しい住宅が建てられている。総面積は約8,000m²あり、そのうちの約半分が社寺林である。近郊緑地に指定されている。

境内の北側には針葉樹の植林がある。スギ、サワラが周辺部に植えられ、中心部にはクロマツが植えられた植林がある。日当たりがよく、樹木の生育はきわめて良好である。また下刈りや枝払いなどの管理はあまり行われていない。低木層や草本層の被度が高く、林内にヤブツバキクラスの種類がかなり多い。

本堂前の参道の左右には対称的にイチョウの大木がある。横浜市古木名木指定30号、31号である。この2本は枝払いが行われてイチョウ本来の樹姿をまったく失っている。二本とも樹高約18m、胸高直径0.7mである。

77. 本覚寺 Temel Honkaku-ji

所在地 横浜市神奈川区高島台

青木橋の西側の台地の斜面にあり、周辺は道路や鉄道および住宅地である。約10,000m²と広い寺領の中に建物と墓地が配置されている。樹叢は墓地の間の約15mの幅をもつ斜面に生育している。ミズキ、タブノキ、シロダモ、ケヤキ、ヤブツバキ、モチノキなどが樹林を形成している（Tab. 8）。低木層、草本層にも常緑の樹種がかなり多く、イノデータブ群集と判定された。樹叢のある斜面は巾もせまく、傾斜は急である。管理としては墓地内のために、下枝打ちや周辺部の草刈りが行われている。

本覚寺は横浜開港当時に領事館にあてられた歴史的な由緒の深い寺院である。周辺は横浜駅にも近く交通の要所にあたっている場所である。市街地内の限られた樹林として独立木を含めての保存が考えられるべきであろう。

78. 浄滝寺 Tempel Joryu-ji

所在地 横浜市神奈川区幸ヶ谷

浄滝寺は神奈川区の京浜急行線沿いで東神奈川駅の北東約500mの位置にある。周辺は密集した住宅地で、寺領は線路の南側に約4,500m²の面積をもち、寺院と墓地が配列されている。

樹林は本堂の裏側の墓地との境に幅およそ12m、長さ50mにわたって帯状に配列されている（Tab. 6）。高木層は植栽されたイチョウとスタジイ、ケヤキ、カキノキ、モチノキ、カヤなどが生育してい

る。イチョウは雌株で結実がよく、草本層にはその芽生えが多数育っている。

高木層の被度が低く、しかも樹林の面積がせまいので林内にはヨウシュヤマゴボウ、ムラサキカタバミのような外来種やヘクソカズラ、イノコズチのような好陽草地性の植物の混生がみられる。

市街地の寺院としては面積も広く独立木も比較的多数植栽されている。また広い寺院内にはススキ草原やマント群落も散見される。樹林については特に指定するほどの価値は認められなかった。

79. 長導寺 Tempel Chodo-ji

所在地 横浜市神奈川区菅田町

長導寺は第三京浜道路沿いで沖積地のやや小高いところにある。全面積は約5,000 m²であり社寺林は3,000 m²である。

本堂の後方は台地上まで、ゆるやかな南向き斜面で、ここに常緑、夏緑広葉樹の混生林がある。常緑広葉樹種はスダジイ、シラカシ、アラカシで、それにクロマツが混生する。常緑広葉樹と共にコナラ、クヌギ、エゴノキなども目だつ。林内の一部に墓地がつくられている。

文化財指定希望のイチョウは境内の夫婦イチョウである。これらは現在横浜市の名木古木に指定されている(32号, 33号)。雄株は樹高20m, 胸高直径1mとやや小さい。雌株は樹高22m, 胸高直径1.1mで両方とも生育良好である。雌株は多数の果実をつけ、その重さで枝も折れるほどである。2株はおよそ1mの距離で並び立っていて、このように雌雄が相寄って大木となる例は県内にも比較的少ない。

天然記念物指定については、イチョウの生育環境を含めての検討が要望される。

80. 豊顕寺 Tempel Bugen-ji

所在地 横浜市神奈川区三ツ沢西町

国道1号線沿いで三ツ沢公園の西側にあり、寺領は広い面積を占めている。自然林は本堂の東側にあり、ケヤキの大木が優占している。墓地の周辺にもケヤキ、シラカシなどの大木がよく生育している(Tab. 10)。

シラカシ優占の林分は本堂と庫裏と滝川との間の北向き斜面にみられる。高木層にはケヤキが優占する。ケヤキは境界木として植栽されたようにも推定できるが、いずれも樹高20m以上できわめて良好な生育ぶりを示している。高木層には他にシラカシ、ムクノキ、ウワミズザクラ、シロダモ、ヤブツバキ、ヒサカキなどが生育している。いずれも被度は高い。また低木層や草本層にも常緑のアオキ、シラカシ、ヤブニッケイ、シュロ、ヒサカキ、ヤブコウジ、ジャノヒゲ、ヤマイタチシダ、ベニシダ、キツタなどの種群が生育している。

以上の構成種群からのこの林分はシラカシ群集のケヤキ亜群集と判定される。土壌はA層が厚く黒ボクの肥沃な土壌である。

この林分のまわりには垣根がめぐらしてあり一般の立ち入りはできない。下草刈りや枝打ちはまったく行われず倒木もそのまま自然の状態が保たれている。ただ一部にプラスチックなどのごみが投棄されている。寺領、寺院林がかなり広い面積をもっているので鳥類をはじめとする野性動物の生息もよくみられる。

墓地およびその周辺にはシラカシ、ケヤキ、エノキ、シロダモなどの高木が繁って豊かな緑地帯を形づくっている。また境内にはイチョウの高木があって横浜市の古木名木に指定されている(47号)。樹高およそ25m, 胸高直径1.4m, 推定樹令は600年とされている。またこの緑地は横浜市の風致地区となっている。

寺林の保全について考察すると、豊顕寺の寺林は国道一号線から約50mへだたっている。シラカシ群集ケヤキ亜群集の林分に生育しているスギは梢の部分が枯れて衰退がめだつ。豊顕寺は古くからの名刹として知られ、その寺林は市街地化した三ツ沢地区に残された最後の自然の緑地帯である。したがって厳正な保護の手をうって、残存シラカシ群集の樹林の保全をはかるべきだと考えられる。

81. 春日神社 Schrein Kasuga

所在地 川崎市中原区宮内

多摩川下流の沖積地に生育している神社林である。周辺はかつては古い集落が発達していたが現在は住宅地となっている。多摩川の古い自然堤防とみられる微高地上に位置している。春日神社の歴史も古く、また付近の民家には屋敷林がよく発達している。

神社の鳥居のわきと社殿の背面に樹林がひろがっている。群落としてのまとまりには欠けるが植生調査は Tab. 10 に示される。これらの林分は高木層には川崎市内の神社によく植栽されるイヌシデが高木として繁茂生育している。またボダイジュも植栽されたものらしいが、生育は良好である。自然植生の樹種としては、タブノキ、スダジイ、シラカシの3種が共にみられる。他にはヤブツバキクラス構成種としてのシロダモ、モチノキ、アオキ、ビナンカズラ、ヤブニッケイ、キツタ、ヤブツバキ、ヤブラン、ベニシダ、ジャノヒゲ、ヤツデ、シュロ、ネズミモチなどである。

林床には帰化植物の侵入もかなり多く、たとえばイヌムギは35%も林床を被う。またヒメオドリコソウ、セイヨウタンポポも生育している。林内への日光がよく入射している。

現在、この樹林の構成種にはスダジイ、シラカシ、タブノキがみられる。様々な種群が混生しており、群落の規定がかなり困難である。また林床への人の立ち入りが原因となって草本植物や低木についても、いろいろな群落の構成種が侵入しており、雑然としている。したがって、ヤブツバキクラスのスダジイ群団に属することは明らかである。主な構成種の組み合わせからシラカシ群集に規定される。しかし、様々な人為的干渉によって代償植生の構成種群が混在している。

このシラカシ群集の樹林は沖積地にかなりまとまった面積をもっている。神奈川東部の沖積地の社寺林にはこれほどの規模の常緑広葉樹林は他に例が少ない。したがって沖積地の潜在自然植生を考察する場合のモデルとしての意味をもっている。シラカシ群集域とヤブコウジースダジイ群集域の境界に近いことが判定される。

樹林とその立地の保全については、現在川崎市文化財として林内への立ち入りが全面的に禁止されている。社寺林形成への植樹はスギ、ヒノキなどの常緑針葉樹に限定しないでヤブツバキクラス林の主要構成種を主にすべきである。神社の境内続きであっても清掃後の塵芥は林内に捨てないような留意がのぞましい。また境内の無立木地と林との間にマントあるいはソデ群落の機能をはたす群落をヒサカキ、アオキ、ネズミモチなど带状に列植して形成する必要がある。

82. 神明社 Schrein Shinmei

所在地 川崎市多摩区高石

多摩丘陵の小田急線読売ランド駅の北西方1kmの丘陵上に位置している。周辺はかつて雑木林にかこまれた丘陵であったが現在では、テラス状の宅地造成が行なわれて、住宅が多くなっている。

神明社の社領はかなり広い面積を占めており、その中心部にあたる丘陵上に社殿と境内がある。周辺部は種々の木立ちとなっているが、その主なものは針葉樹の植林、アカマツの混った落葉広葉樹林およびカシ類の混生している落葉広葉樹林である。

常緑広葉樹のカシ類の混生する落葉広葉樹林は Tab. 18 に示されている。ウラジロガシの大木を中

心としてイヌシデが優占している林分である。ウラジログシは樹高約20mで社叢中では最も古木である。それに植樹されたヒノキが混生している。この神明神社林は、よく下草刈りがされており、低木層はきわめて貧弱である。また草本層の種数は多いが発達は良好とはいえない。神社林の管理として毎年の定期的な全面的下草刈りは、二次遷移の進行を妨げるものである。

なお、神明社の樹林は昭和42年に川崎市の風致保安林としての指定を受けている。

83. 諏訪神社 Schrein Suwa

所在地 川崎市多摩区生田

諏訪神社は小田急線よみうりランド駅から南へ1.5kmの多摩丘陵内にある。周辺は約10年ほど前までは閑静な農村地域であったが近時、学校やアパートが建設され、一般住宅も次々に建てられて昔日のおもかげを失っている。

諏訪神社は丘陵の緩斜面上にあり、社殿にいたるまで約100mにわたって参道がつけられている。この参道は巾が10数メートルで中央に道があり、その両側に樹木が植栽されている。スギ、クロマツ、ケヤキ、シラカシ、モミなどの樹種が約40本ほど植えられている。これらの樹木の中には樹高20mで、推定樹令が200年ほどの大木もある。しかし、植物群落としてみると、これらの樹木は列植されていて、高木、亜高木層を占めるが、低木、草本層はきわめて貧弱であり、面積も小さく、安定した林分とはいいがたい。

社殿の後方には、常緑広葉樹種を混生する二次林があり、コナラ、カマツカ、シログモ、ヒサカキなどが生育している。

天然記念物の指定希望があるが、そのためには、この参道沿い樹林の幅を30m以上に拡張すべきである。そうして、現在ある高木や亜高木にさらに同じようなシラカシ、シログモ、アラカシなどのヤブツバキクラスの主要構成種の低木を補植する方策が考えられる。参道の人の歩く部分は現在2~3mあるがこれも、可能な限度までせまくして、マント状にヒサカキ、アオキなどを補植することが望ましい。参道の樹木のみごとさでは川崎市内でも有数のものであり、樹林形態として復元しながら、立地と共に保護していきたい。また諏訪神社の周辺の二次林にも常緑樹種がかなり多く、遷移も進んで鎮守の森の形を整えてきている。

84. 岡上神社 Schrein Okagami

所在地 川崎市多摩区岡上

川崎市の飛地岡上の丘陵上にあり、東京都の鶴川から子どもの国に通じる都道沿いにある。この道路は自動車の交通量が多く、その影響は神社の植物にも及んでいる。

参道の両側にスギ、サワラ、シラカシなどの植栽樹によって樹林帯が形づくられている。樹林帯面積はきわめてせまく植生調査を行うに十分なほどの群落ではなかった。社殿の裏にも、きわめてわずかな植栽地があるにすぎない。車道近くのスギ、サワラなど針葉樹の枝枯れが目立つ。

社寺林として現在特に保全する価値のあるものとは考えられず、また将来にわたっても社寺林が形成されることも難かしいとみられる。

85. 白山社 Schrein Hakusan

所在地 川崎市多摩区王禅寺

白山社は多摩丘陵内の鶴見川の小支谷に面している。周辺にはクヌギーコナラ群集の二次林や、水田があって典型的な田園景観を呈している。300mほど北側には百合丘の造成地がある。

基盤の地質は柿生泥岩層であり、その上を被う関東ローム層は比較的うすい。土壌は褐色森林土壌で、立地は乾性である。

社殿は丘陵の斜面中腹にあって、その前面に植栽されたスギ、ヒノキなどが生育している。植栽樹にはクスノキのように立地に適合しない種もあって、生育は必ずしもよくない。これらの樹木のあいだにアズマネザサ、ヒサカキ、テイカカズラ、ヤブコウジなどが生育している。低木層となるヒサカキなどは下刈りを頻繁にしているので生育が悪い。

社殿の前面に植栽されていたモミは樹高20mの大木になっているが、現在では樹勢が衰えている。社殿の西側の二次林にはクスギ、コナラ、エゴノキなどの落葉広葉樹が生育している。

現況ではこの植栽地は、まったく森林の形態を呈していない。このまゝでは神社林とは言い難い。立地固有の白山神社林を形成・存続させるためには、まず、林内の下刈りをしないことが前提となる。また、この立地の潜在自然植生はシラカシ群集モミ亜群集と判定されるので、立地に適した主木のシラカシの補植をすることが望ましい。県の文化財指定については、郷土林としての組成、形態、構造が時間をかけて創造された上で改めて、検討されるべきであろう。

86. 月読神社 Schrein Tsukiyomi

所在地 川崎市多摩区上麻生

鶴見川の北側の丘陵上にあり、周辺は新しく開かれた住宅地である。全面積2,945㎡のうち、周辺部にヒノキ、サワラ、アカマツなどの植林地がある。社殿をとりまくこれらの植栽地は帯状に幅がせまくまとまった林相を示していない。その外側にクスギーコナラ林が続いているが、面積もせまく草地生の植物が多い。

天然記念物指定の希望があるが、この林は自然度も低く現状では、高くは評価され難い。

87. 白鳥神社 Schrein Shiratori

所在地 川崎市多摩区片平

川崎市北部の多摩丘陵で、麻生川北側の丘陵上面に位置している。周辺はクスギーコナラ林が点在している。

第1次調査の際にはスギ、ヒノキ、クスノキなどの植栽樹の林床にヒサカキ、シラカシなどが混生した樹林があって動物群集も豊かに生息していた。1973年の二次調査時には小田急新線の建設のために白鳥神社のまわりの樹林は伐採されてしまい、わずかに社殿前にスギ、ヒノキが数10本残されている。

ヒノキは樹令約30年で密植されており、面積はせまい。ヒノキ植林の下草には約30種類の主として草本植物の生育が記録された。周辺は私鉄の開通によって、さらに開発が進められ、住宅地化が進んでいる。現況では、県の文化財に指定するほどの価値は認められない。

88. 御嶽神社 Schrein Mitake

所在地 川崎市多摩区栗木

多摩丘陵内の鶴見川支流の麻生川の谷頭に神社は位置している。基盤は柿生泥岩層で、その上に関東ロームの比較的厚い被覆がみられる。周辺部の低地は水田や畑に、丘陵地の斜面はクスギーコナラ林に利用されていて、新しい住宅もほとんどなく田園景観が残されている。

御嶽神社は全面積1,289㎡で社寺林は無い。隣接した民有の墓地からスグジイの植栽地が境内へと続いている。スグジイは22mと樹高も高く、アカマツ、シラカシ、スギ、ヒノキなどと低木のヒサカキ、シラカシなどが混生している。神社の周辺の常緑広葉樹の植樹帯は幅がせまく、外側の私有地の

クヌギーコナラ林へと続いている。

御嶽神社は現在のところ、神社の森として特に著しい特性はみられないが、川崎市内には静寂な田園環境にある神社が数少なくなっている現状から、周辺の景観をも含めての保全には意義がある。丘陵の小支谷から長い石段をのぼる参道は鎮守の森への道として市内でも数が少ない景観といえる。多摩丘陵の中部以北では、しばしば墓地に植栽されたスグジイの大木をみることがある。御嶽神社に続く墓地のスグジイも樹高15mのこんもりとした樹叢を形づくっていて、多摩丘陵に特徴的な景観の一つとなっている。

保全については社殿の周辺の二次林の伐採を禁止し、ここにシラカシなどの常緑広葉樹の育成をはかる。また参道も現在のままにして、下刈りは最少限にとどめることが望ましい。

89. 汁守神社 Schrein Shirumori

所在地 川崎市多摩区里川

多摩丘陵内の三沢川上流で丘陵の緩傾斜地に位置している。周辺は水田や畑が多く古くから集落域であり、民家が点在する。

汁守神社は小台地上にある。斜面部に常緑広葉樹林があり、シラカシ群集と判定された。高木層にシラカシ、アラカシが生育し、亜高木層にはヤブツバキ、ヒイラギ、シラカシなどが生育する。しかし低木層と草本層は貧弱である (Tab. 10)。

台地上部にはイヌシデ、ヤブツバキ、ヒノキ、スギが生育している。このイヌシデ林は Tab. 18 にイヌシデ群落としてまとめられた。林床は下刈りが行われているので貧弱である。

90. 十二神社 Schrein Juni

所在地 川崎市多摩区万福寺

多摩丘陵内の鶴見川の小支谷に面した傾斜地にある。生育地の基盤は柿生泥岩層といわれる泥岩でロームの被覆は比較的うすい。県道町田街道と小田急線が神社の両側を通っている。

鳥居から社殿にかけて参道の両側に常緑広葉樹林がみられる (Tab. 10)。樹高20mのモミ (植栽されたものとみられる) を中心にイヌシデ、スギ、ヒノキが高木層に生育している。モミは樹勢が悪く、スギは、ほとんど枯れかかっている。亜高木層はアラカシ、ウラジロガシ、ヒサカキなどの常緑広葉樹が優占し、その間にスギが植栽されている。ウラジロガシとアラカシは一度伐採された切株からの萌芽によって再生したものである。種組成的にはシラカシ群集モミ亜群集に所属する林分である。

林床は傾斜が急なために人があまり立ち入らないので、テイカカズラが一面に被っている。また一部では下草刈りが行われており、ヒサカキが生垣に枝をはっている。イヌツゲ、ジャノヒゲ、ヤブコウジ、ヤマイトチシダ、オクマワラビ、ヒサカキなどのヤブツバキクラス林の構成種が多く生育する。またタマノカンアオイが数株みられる。

このシラカシ群集モミ亜群集は、社領の南側の約 50° の急傾斜地に最も典型的な林分がみられる。社殿の東側はクヌギーコナラ林に続いている。

川崎市内の社叢としてはめずらしく、林床が保存されている一例といえる。参道の階段以外を人が歩行しないような配慮を行い、さらに十分な林床植生の保全を行うことがのぞましい。植栽樹のモミ、スギ、ヒノキなどの樹勢の衰退や枯死には町田街道の自動車の排気ガスの影響なども考えられる。シラカシ、アラカシその他の常緑広葉樹の補植が望まれる。

91. 武州柿生琴平神社 Schrein Kotohira

所在地 川崎市多摩区王禅寺

神社は多摩丘陵の鶴見川の小支谷に面した傾斜地に位置している。神社林の東側には市道が通り、その先には大規模な宅地造成が行なわれている。社殿の西側には二次林が点在している。社叢の下部はローム層がかなり厚く堆積しているが、上部には柿生泥岩層の露出がみられる。

社殿の東側の斜面にはアカマツ、エゴノキ、スギ、ハンノキ、ヒノキ、ヤマザクラ、ヤマモミジなどの生育する混生林がある。低木層にはヒサカキやヒイラギ、草本層にはジャノヒゲ、イヌツゲ、タマノカンアオイ、ヒイラギなどが生育している。この神社の樹木の多くは植栽されたものとみられる。そこに裏参道が設けられており、下刈りがたえず行なわれている。また、斜面が急なために境内から土砂が林床に流入している。

管理が行き届き、社寺林として特筆することはない。

92. 日枝神社 Schrein Hieda

所在地 川崎市中原区上丸子山王町

日枝神社は多摩川右岸の沖積地に位置している。周辺は密集した住宅地で商店街も近い。

神社は約1,800㎡の敷地をもつが社叢は全く無い。社殿のまわりにはケヤキをはじめとする高木が列植されている。ケヤキは樹高が20から25mにもなっていて、推定樹令は100~200年とされている。ケヤキの他にはカヤ、スダジイ、シラカシの高木も数本生育している。亜高木層や低木層を占める植物群はきわめて貧弱であり、樹林を形成するに至っていない。

境内は遊び場となっており、高木の根元が踏まれたり傷つけられたりしている。保全の方策としては高木の下層へ低木類の補植を行い、樹木の根元への立ち入りを禁止した方がよい。川崎市の沖積地には樹林帯がきわめて少なく、その意味では保全の必要性がある。

93. 影向寺 Tempel Yogo-ji

所在地 川崎市高津区野川

影向寺は多摩川沖積地をのぞむ、台地上にあり、周辺地は古い農家と新住宅地となっている。

寺は奈良時代の天平年間に時の天皇の命により僧行基によって建立されたと伝えられる川崎市内きっての古刹である。その後、種々の伝説をうみ、寺の入口に置かれた影向石は長い間人々の信仰のまとなっていた。寺の仏像は市の文化財に指定されている。

寺院のまわりにはケヤキなどの大木がそびえてはいるが、森林を形成するにはいたっていない。わずかにモウソウチク林が50㎡の面積を占めている。

境内のイチョウの大木は胸高直径2.4mで推定樹令700年とされている。根張りは良好であるが、台風時に枝が折れ、その後安全のために枝切りされた。そのために樹姿は不整である。

94. 泉福寺 Tempel Senpuku-ji

所在地 川崎市高津区馬絹

寺は多摩丘陵内で鶴見川支流矢上川の上流に面した緩傾斜地にある。前面には県道が通り、東側には国道246号が走っている。かつて「馬絹の枝もの」として有名であった花木栽培の畑の多くは住宅地とかわっている。

泉福寺には寺林はないが境内には多くの植栽樹がみられる。その中ほどにイチョウの大木があって、県道、国道からものぞまれる。イチョウは樹高およそ35m、推定樹令600年とされている。樹勢もよく枝の張りも良好で、紡垂形の樹姿が整い、川崎市内でも有数のイチョウである。

独立木としての選ばれる場合の天然記念指定候補の一つと考えられる。周辺の生育環境を含めた保全が望まれる。

95. 妙楽寺 Tempel Myoraku-ji

所在地 川崎市高津区长尾

溝ノ口の西方2 kmの地点で、多摩川に面した台地上に位置している。

本堂の後方の小道を境として面積はせまいが密生した常緑広葉樹林がみられる。高木層を構成しているケヤキ、タブノキ、ウラジロガシは樹形が整い遠くからでもよく望める。ヤブツバキ、ウワミズザクラ、イロハモミジ、ムクノキなども生育がよい。また林床にはアオキ、テイカカズラ、ヤブラン、タブノキ、ヤブコウジ、ジャノヒゲなどが多い。川崎市内の林床には比較的少ないキツネノカミソリ、ソバナ、カラタチバナの生育もみられる。

妙楽寺の常緑広葉樹林は植物社会学的にみれば特にまとまっているとはいえない。しかし、構成種群の上からはかなり特徴があり興味がもたれる。近くには高東根のシラカシ林もあり、付近一帯がまだ、比較的二次林の多いところであり、地域としての保全が望まれる。

96. 法泉寺 Tempel Hosen-ji

所在地 川崎市多摩区菅

川崎市最北部の多摩丘陵にあり、沖積地にのぞむ緩傾斜地に約3,000 m²の寺林がある。周辺は農村地帯に新しく開けた住宅地である。寺の南側には大規模な団地の造成が予定されている。よく手入れされた境内から墓地に続く道の脇に常緑広葉樹の多い林とその先にモウソウチウ林がある。

高木層がイロハモミジ、ヤブツバキ、ヒサカキ、モウソウチウで占められる樹林にはベニシダ、キツタ、ヤツデ、テイカカズラ、ジャノヒゲなどのヤブツバキクラスの構成種が多い。しかし、マンリョウ、オモト、ナンテン、ウメなどの植栽種もあって、下刈りや枝払いなどの寺領の管理がよく行き届いている。

モウソウチウ林はモウソウチウが高木層に密生して日光の透入が悪いので、低木層や草本層の発達はよくない。ヒサカキ、ヤブツバキ、マンリョウ、キツタ、ベニシダなどが点々と生育している。

寺院の境内から寺林にかけては面積も限られている。寺林の自然度も高いとはいえない。法泉寺の境内は子之神社と続いている。子之神社にはスタジイの樹叢があり、将来の保全はこの両方を含めて考えるべきであろう。

97. 延命寺 Tempel Enmyo-ji

所在地 川崎市幸区都町

寺院は工業都市川崎の住宅街の中にあり、近くには国道1号線が走っている。寺領は面積約4,200 m²の広さをもつが、その大部分は建造物と墓地で占められている。

墓地の前面に植えこみがあり、タブノキとモッコクの高木が生育している。タブノキは樹高18m、胸高直径0.7 mで、主幹の中ほどが枯損しているが樹勢は盛んである。モッコクは樹令300年と推定され、樹高15m、胸高直径0.4 mで、生育は良好である。この2本の太木をとりまいてヤブツバキ、イヌツゲ、シュロが植えられている。

タブノキとモッコクについて県の天然記念物指定の希望が提出されている。2本の高木のみに限らず、その周辺の植生を整備するという条件をつけた上で再検討されるべきであろう。

98. 王 禅 寺 Tempel Ozen-ji

所在地 川崎市多摩区王禅寺

寺領は、多摩丘陵の鶴見川の小支谷の谷頭に位置を占めている。王禅寺は鎌倉時代には真言宗の本山として栄えた寺とされ（大沢 1962）、地名もこの寺に由来する。江戸時代までは格式高い名刹であったようであるが、現在は周辺の各地の大規模な宅造などの開発のあおりを受けている。数年前までは静かな雑木林に囲まれた環境であったが、近くに原子力センターが設置され、さらに大規模な宅地造成がすすめられている。

社寺林としてまとまったものは無いが、しいてあげれば山門付近の植栽樹を含む群落がある。ケヤキ、ヤブツバキ、スギ、イロハモミジが高木層を占め、低木は貧弱で草本層にジャノヒゲ、クマワラビ、キツタ、スイカズラ、ヤブコウジ、ベニシダなどのヤブツバキクラス林の構成種が混生している。この樹林は面積もせまく、また人為的な影響が強くみられる。

境内のカキノキは多摩区の柿生一帯に広く栽培されている禅寺丸という品種の原木といわれる。樹高は12mで高くはないが、根まわりが大きい。山門前には、手入れのされていないウメの列植があつて古寺に趣きをそえている。

王禅寺の植生は現状では十分な面積をもたず、自然度も低い。

99. 長 念 寺 Tempel Chonen-ji

所在地 川崎市多摩区登戸

長念寺は多摩川の沖積低地上にあり、周辺には畑地が多く、古い農家が点在していた。最近では新しい住宅もふえてきている。

イチョウが山門の内側に2本並び立っている。山門に向かって左側の樹木は樹高約16m、胸高直径1.1mである。右側の樹木は樹高約18m、胸高直径1mである。推定樹令はともに300年で樹勢はさかんである。

イチョウの周辺には特に植栽樹はなく、独立木として単立している。一方の樹木には竹垣がめぐらされて、樹幹を傷つけないように配慮されている。

文化財指定については、周辺の生育環境を含めて整備した上で再検討されることが望ましい。

100. 全 竜 寺 Tempel Zenryu-ji

所在地 川崎市中原区下小田中

全竜寺は多摩川から1.5kmほど西側の沖積低地上にあり、周辺は住宅と耕地が相半ばしている。寺院は新設された自動車道路に面して30mほどの参道をもっている。

社寺林はまったく無いが、境内のほぼ全面に若令の樹木が植栽されている。クスノキ、ヒノキ、イチョウ、ケヤキ、ユズリハなどで特にめだつた大木や古木はみあたらない。墓地周辺にもケヤキの若令樹が散見される。

一般の寺院では境内を種々の用途に使うために広い面積の植栽は行われなことが多いが全竜寺では境内の約半分の面積に樹木が植えられている。

今後は寺院の周辺部で住宅化がさらに進み、住宅密集地となると予想される。その頃にはこの全竜寺領内は緑地帯としての多様な機能をもつことになることが期待される。

101. 了 源 寺 Tempel Ryogen-ji

所在地 川崎市北加瀬

了源寺は加瀬山と呼ばれる台地上にある。加瀬山は下末吉台地から浸食によって離れて島状になっ

た台地の末端で、川崎市内では最南端の台地である。この台地には古代の遺蹟があり、また古墳群も知られている。

了源寺はこの台地の上面平坦地にある。寺林としてではないが、本堂に裏側のイチョウの高木を中心とした樹叢がある。イチョウは樹高約25mで加瀬山で最も高い。季節風の方向を示す梢は北側に向き整ったほうき形の樹型を示している。イチョウを中心にして、スダジイ、タブノキ、ケヤキ、サンゴジュなどの樹叢がある。

また境内にはヤブツバキ、ケヤキ、タブノキ、エノキなどの高木が生育している。なお加瀬山全体についてみると上部は公園とされて植栽樹木が多くみられるが北側の斜面にはごく一部分に自然林が残っている。この自然林は川崎市の最南端の自然林であり、ヤブコウジースダジイ群集とされる。その他にも二次林としてのミズキ林も生育している。川崎市有地および了源寺などをはじめとする数社寺の所有地となっているようである。これらの樹木の保全についてはまったく手がつけられない現状にある。

102. 三浦神社正八幡宮 Schrein Miura

所在地 横須賀市大田和

三浦神社正八幡宮は小田和湾から約2km内陸へはいった地点で小田和川に面した緩斜面上に位置している。周辺は大楠山から武山に続く丘陵地で、前面には沖積地の水田がひろがり、いかにも鎮守の森といった景観を示している。長い参道に続く鳥居の上部には小面積の常緑広葉樹がある。モチノキ、マテバシイなどを主としており鳥居や草ぶき屋根の拝殿とよく調和が保たれている。

まとまった面積のある樹林は銅板ぶきの本殿の背後にみられる。樹高18mのスダジイの高木を中心としてアカガシの萌芽で特徴づけられる樹林である。アカガシ、ヤブツバキ、カクレミノ、シロダモなどが高木層を高い被度で被っている。したがって林床にはほとんど陽光がささず、低木層では種数、被度ともに低くなっている。この斜面は、丘陵の崖錐地であり、土壌も黒土で厚く、落葉層も豊富である。

三浦半島の社寺林は海からの影響を大なり、小なり受けるものが多いが、三浦神社では丘陵内の小支谷に典型的な神社林とみられる。樹林は特にすぐれた植物群落とはいえないが周辺の田園景観とともに小じんまりとした社殿と鎮守の森としての樹林との調和がよく保たれている。

103. 宗教法人三島社 Schrein Misima-sha

所在地 横須賀市武

三島社は小田和湾から内陸へ約2kmはいった三浦半島の丘陵部を占める武山の北斜面にある。周辺には古くからの民家が点在しており、まだ静かな農村の田園景観が保もたれている。

神社は低い丘陵の上であり、土壌は黒ボク土壌が厚く堆積している。社殿をとり囲むようにしてスダジイの植栽木がきわめて良好な生育を示している (Tab. 7)。このスダジイに続いて常緑広葉樹林が斜面全体を被っている。常緑樹種はスダジイ、タブノキ、モチノキ、ヤブツバキを主としており、低木層にも、カクレミノの被度がきわめて高い。カクレミノは海岸性の小高木で三浦半島には多くの自生がみられる。しかし、この三島社の林のように高い被度で出現する例は比較的めずらしい。また、林床にはシダ類をはじめとする草本層が多く生育している。これらの種の組み合わせからみると、本社林はソバカナワラビースダジイ群集の林分と判定される。横浜市の富岡八幡宮の社寺林などと同様に、スダジイの林分で、かなり土壌の厚い立地に生育している。

また、この林分に続いて植栽されたとみられるツクバネガシの大木が数本ある。横須賀市および三

浦市ではホソバカナワラビースタジイ群集の群落が比較的少ないようであるが、三島社に現存しているホソバカナワラビースタジイ群集の林分はその意味で重要と考えられる。

104. 十二神社 Schrein Juni-sha

所在地 横須賀市芦名

十二神社は御堂山地区の海岸に面した斜面に位置している。周辺には現在なお漁村のおもかげを残している集落がひろがっている。社殿は海風を受けにくいような微凹地に建造されているが、境内木および北東側の斜面の樹林はきびしい北西の季節風をまともに受ける立地に位置している。

境内の樹木はイチョウとサンゴジュで特徴づけられる。イチョウは胸高直径約0.9m、樹高18mに達する高木である。この木の樹形は激しい季節風のために著しいフラッグフォルム（旗形）を示している。亜高山の針葉樹などでは、旗形樹形はしばしば見られるが海岸の樹木では比較的めずらしい。イチョウは風の影響を受けて樹形が変わり易い樹木であるが高枝から気根がさがり、のぼり形をした樹姿はきわめて特徴的である。

サンゴジュは関東地方が自生の北限にあたり、多くの場合植栽されたものである。大形の葉が密に繁るので、垣根などに普通よく利用されている低木である。十二神社のサンゴジュは亜高木にまで生育して、樹高の最高は12mほどに達している。樹幹は赤褐色で胸高直径は20cmから30cmまでもあり、このような樹木が6、7本も生育している。

社殿の北西側にはわい生の風衝低木林がみられる。樹冠はブラシではいたように一斉に揃っている。樹種はタブノキ、カクレミノ、ヤブツバキなどの常緑樹を主としている。この樹林も北西の季節風に激しく影響されることを示している。夏の静かな風の日には想像もできない自然環境のきびしさを植物は樹形を変えて如実に示している。

105. 叶神社 Schrein Kano

所在地 横須賀市東浦賀

叶神社は浦賀湾の湾口の丘陵斜面にある。その神社林は、浦賀の港町でわきめて典型的な自然度の高い鎮守の森となっている。浦賀一带には神社や寺院によく常緑広葉樹林が保存されているが、中でも東林寺から続く叶神社のみどりは海のみさとよく調和が保たれて、すぐれた景観を示している。標高53mの山頂まで、ほぼすべて常緑広葉樹林で被われている。

叶神社の境内で特筆されるべきものは石段参道の両側のソテツである。ソテツは九州以南には自生するが関東地方ではよく庭園に植栽される。叶神社のソテツは石段のせまいテラス状地いっばいに10数本を叢生させている。石段の左右に2株あり、生育はきわめて良好である。このような大ソテツは県内でも比較的少ない。

常緑広葉樹林の調査表は Tab. 8 に示されている。これはいずれもタブノキを優占するものであり、このタブノキは列植されたものとみられる。しかし生育はきわめてよく、自然に近い樹林を形づくっている。植生学的にはイノデータブ群集と判定される。

勝海舟断食の地とされる丘陵の山頂付近にはスタジイの優占している林分がみられる。Tab. 6 の3に示されている。尾根上のやや平坦地で基盤の露出がみられる立地である。

神社林の保全について考察すると叶神社の社林はいかにも鎮守の森らしい林相をもち三浦半島の沿岸にある神社としては第1級の景観を保っている。現在神社林内にはあまり人も立ち入らず、自然に近い植生とその立地が調和を保っている。この状態をさらに存続させることが望ましい。

106. 諏訪神社 Schrein Suwa

所在地 横須賀市大津

横須賀市の馬堀海岸から約500m内陸側の台地の山足部に位置している。周辺には大津高校があり住宅がやや密集している。基盤は泥岩で社殿のうしろ側は露出して急な崖地となっている。

スダジイ林は社殿の背後で密生した樹林を形成している (Tab. 6)。スダジイとモチノキが優占し、そのほかにヤマモモ、フジがみられ、亜高木層にはタブノキ、カクレミノ、スダジイ、イヌビワ、ヒサカキ、ヤブツバキ、マテバシイなどを主とした常緑広葉樹から構成されている。低木層のヤツデ、アオキ、トベラ、ネズミモチ、草本層のベニシダ、テイカカズラ、オオイタチシダ、マサキ、シロダモ、ヤツデ、ヒサカキ、キツタなどヤブツバキクラスの種群から構成されている。このような樹林は本殿の背後に約8mの幅で带状にひろがっている。

一般にこのようなせまい幅の樹林には陽光や風の透入が林内にあって、林床の植物がそれらの影響を受けやすいが、諏訪神社の場合は小面積ながら、よくまとまった林相を示している。このような樹林は、県下の東京湾沿いなどの産業立地、交通施設、都市部やその周辺部に積極的に立地の潜在能力に応じた緑の環境創造をする場合のモデルとして考えられる。また、森林の構成種にヤブツバキクラスの構成種が高い比率を占める事も特徴の一つと考えられる。

107. 諏訪大神社 Schrein Suwadaijinja

所在地 横須賀市緑ヶ丘

横須賀港に面した台地の斜面に位置している。隣接地は病院でやや静かだが斜面下部は横須賀の市街地で商店が密集している。社林のある斜面はかなり急で基盤の逗子シルト岩層の露出が多くみられる。

社殿の南側斜面の樹林はケヤキとアカガシの植被率が大きい。そのほかに高木層にはタブノキ、カヤが生育し、亜高木層にシロダモ、モチノキ、ヤブツバキ、カゴノキ、ホルトノキなどが生育する (Tab. 8)。低木層にはヤブツバキクラスの構成種である、シロダモ、アオキ、ヒサカキなどとともにイズセンリョウがみられる。林床植物ではベニシダの植被率の高いことが特徴としてあげられる。諏訪神社林は群落構成種群の組み合わせからイノデータブ群集と判定される。

このイノデータブ群集の樹林に生育するカゴノキ、ホルトノキ、イズセンリョウの3種は最近横須賀市および三浦半島全体からみても次第に減少している樹種である。また境内にはヤマモモの大木もあり生育は良好で根張りもよい。社殿の背後のスダジイの樹林は面積がやや狭いがまとまった林相を示している。

神社林に続いた公園地から人々が林内に立ち入って林床を荒らしている現状にある。トベラ、シャリンバイなどの常緑低木植物を林縁に带状に補植して、マント群落を形成して、森林内への立ち入りを禁止して草本層や低木層の保全をはかる必要がある。

108. 白髪神社 Schrein Shiragami

所在地 横須賀市野比中村

白髪神社は野比海岸の汀線から約400mほどはいった丘陵南斜面に位置している。社林は社殿裏の小山全体にひろがってみことな鎮守の森の景観を示している。第1次調査によればこの裏山は神社に属さないものとされる。海に面していて、東京湾からの海風をまともに受ける地形にあり、境内にはかなり風衝樹形がみられる。

イチョウの高木は胸高直径1m、高さ約22mであるが、著しい旗形樹形を示している。強い海風の

影響から枝先が枯れて、樹勢はきわめて悪く枯死寸前である。また、胸高直径60cmほどのエノキとみられる枯死木もある。その他にもイチョウやケヤキの衰退した樹木が数本見られた。

境内木の弱勢に比較して、白髪神社裏山の常緑広葉樹林はみごとな生育を示している。樹高は8～12mであり高くはないがよく密生している。主な樹種は、イヌビワ、ヤブツバキ、シュロ、シロダモ、ヤブニッケイ、カクレミノなどである。

109. 東 蔵 寺 Tempel Tozo-ji

所在地 横須賀市佐島493

小田和湾に面した台地の斜面に東蔵寺の樹林約800m²が、ひろがっている。佐島地区への入口にあり、土質基盤は三浦層群の砂岩で、平均35°の急傾斜で表層の土壌はうすい。斜面に樹林がある。

樹林はアカガシとスダジイを伐採したあとの萌芽が生長したもので、樹高15mで林冠は密閉している。林床には低木類および草本植物がきわめて少ない。この樹林は三浦半島で自然植生を皆伐したあとに再生する萌芽林と同質のものと判定された。

境内にはイチョウ（樹高約18m）があるが特に大木とはいえない。

110. 東 漸 寺 Tempel Tozen-ji

所在地 横須賀市武

横須賀市の小田和湾から東方へ約1.5km、旧三崎街道に面した丘陵斜面に東漸寺は位置している。広い寺領の中に植栽されたとみられるクロガネモチの高木で特徴づけられる。

参道の北東側には数本のクロガネモチからなる樹叢がみられる。その最も大きいものは胸高直径0.6m、樹高17mにおよぶものもある。この一角にはモチノキ、スギ、タブノキなども生育しているが、亜高木層、低木層の樹木がみられず植生調査は行なわれなかった。

境内の主な単木には次のようなものがある。

クロガネモチ	1	胸高直径	0.8m	高 さい	20m
〃	2		0.6m		17m
ク ス ノ キ			0.7m		20m
タ ブ ノ キ			0.4m		18m

このタブノキは樹勢が衰退している。

寺林の保全について考察するとクロガネモチは植栽されたものとみられるが、県内の社寺にもこのように本数が多い例は珍しい。この樹叢を囲こんで亜高木層や低木層が揃った多層群落として安定した樹林に発達させていくことが望ましい。

111. 光 心 寺 Tempel Koshin-ji

所在地 横須賀市衣笠栄町

光心寺は国鉄衣笠駅から200m北にはいった山地の中腹で周辺は住宅地となっている。寺林は丘陵斜面の砂岩層上にあり、うすい褐色森林土壌の上に生育している。

本堂わきの樹林はスダジイ、ヒサカキ、タブノキ、アカガシなどが密生した常緑広葉樹林である。その立地は傾斜度が40°もある急峻な地で人手もほとんどはっていない。山地斜面の下部から中腹にかけて、土壌の厚い場所にはタブノキが生え、土壌のうすい場所にはスダジイが生育している。

尾根部にかけての斜面は常緑広葉樹と落葉広葉樹の混生林である。常緑広葉樹種がかなり多く、人手もあまりはっていないので自然林への回復が進んでいる。

112. 大松寺 Tempel Daisho-ji

所在地 横須賀市小矢部

衣笠公園南東部の丘陵の斜面に位置している。周辺には団地ができていますが比較的閑静な住宅地である。基盤の葉山層群の上にローム層が厚く被い有機質に富んだ黒ボク土壌を形成している。

寺院の本堂と庫裏の周辺に常緑広葉樹林がみられ、その外周にはスギの植林やコナラの二次林がみられる。

本堂の背後の常緑広葉樹林はモチノキ、マテバシイ、ヤブツバキ、アカガシ、スダジイなどからなる。樹高15mであまり高くなく、萌芽再生したものもみられる。低木層や草本層の植被率も比較的低い。この樹林はマテバシイ植林としてまとめられた (Tab. 19)。

また庫裏の背後の樹林は植生の高さも20mと高く各階層が比較的良好に発達している。カクレミノ、イヌビワ、トベラなどの海岸性の構成種が多数生育しており、ジュズネノキなどの矮生低木植物もみられる (Tab. 8)。この林分はイノデータブ群集としてまとめられた。

現在イノデータブ群集を主とする大松寺林は横須賀市の環境保全林に指定されている (昭和49年3月)。面積もかなり広くまとまった樹林としてAクラスにランクづけされている。

113. 真福寺 Tempel Shinpuku-ji

所在地 横須賀市吉井町

真福寺は久里浜駅から北に約1kmの丘陵の斜面に位置している。周辺にはまだ水田もあって静かな田園地帯である。一帯の丘陵斜面には伐採されたあとにアカガシが再生した一斉林がみられる。

真福寺の本堂の裏側の樹林は面積はせまいが高木層にタブノキの大木があり、それを中心にしてケヤキ、カラスザンショウ、ムクノキ、シロダモ、クロガネモチ、スダジイ、ヤブツバキ、ツルマサキなどが高木層を占めている。これらのヤブツバキクラス林の種群を中心として、林床には、シダ植物や常緑広葉樹種および常緑植物が生育している。

114. 東福寺 Tempel Tofuku-ji

所在地 横須賀市西浦賀

東福寺は浦賀湾の西側丘陵斜面に位置している。寺林は南西向きのかかなり急な斜面に発達している。山門の前にはイチョウの高木がそびえたっている。胸高直径約0.7m、樹高はおよそ18mに達して、樹木の姿もよく整い生育もよい。

本堂の北西部には墓地が階段状に設けられているが、その間にもタブノキ、ケヤキ、ヤブツバキ、モチノキ、クスノキなどの高木が多数散生して、相観的には常緑広葉樹林とみなされる。

本堂わきの南東向き斜面の樹林にはヤマハゼ、ムクノキ、エノキなどの落葉広葉樹にタブノキ、マテバシイ、モチノキ、シロダモなどの常緑広葉樹種を混生している。低木層にはヤブツバキが多くみられ、草本層は比較的貧弱である。三浦層群の母岩が露出して、土壌の生成は悪く、群落はヤブコウジースダジイ群集と判定される。

浦賀湾一帯の社寺には比較的常緑広葉樹林の残存林分が多くみられる。東福寺に近い叶神社の下社にも残存林があり、保全をはかる場合には、これらの社寺をすべて含めて、できるだけ広域的に計画されることが望ましい。

115. 八幡神社 Schrein Hachiman-jinja

所在地 平塚市浅間町

平塚市役所の南に位置する八幡神社は、国鉄平塚駅から北へ400m、海拔高7.5m、相模川と花見

川にはさまれた臨海沖積地上にある。

八幡神社の植生は敷地面積約24,000㎡のおよそ $\frac{2}{3}$ がスダジイ、クスノキ、アラカシなどの常緑広葉樹と、一部は植林されたヒノキ、アカマツなどを中心とする林分で占められている。林内は除草、落葉かきがひんぱんに行われており、林床植生は貧弱であるが、一部は人の侵入が禁止されており、林床に常緑植物の生育が多くみられる。アカマツ、スギ、ヒノキなど用材として利用される樹種の他に、高木層を構成する主な樹種としては、スダジイ、マテバシイ、アラカシ、クスノキ、カヤ、ケヤキなどがあげられる。

平塚市の市街化が今後一層進むとき、八幡神社林は市の中心部に残存生育する郷土の森として、市民の健全な生活環境を保証し、市民が日常生活において常に接し得る身近かな緑として位置づけられる。したがって、八幡神社林の文化的また環境保全林、災害防止林としての機能と相対的価値の増加が期待される。

116. 妙 圓 寺 Tempel Myoen-ji

所在地 平塚市土屋

秦野市と平塚市との境界に近く、金目川に近い妙圓寺には、裏山林としてアカマツ林とコナラ林が生育する。

スギも一部植栽されているが、アカマツが高さ10mを超え高木第1層を占めている。その下層にイヌシデ、コナラなど夏緑広葉樹が生育する。低木層および草本層には潜在自然植生のシラカシ群集の構成種であるシラカシ、アラカシ、ヒサカキ、ヤブツバキ、ヤブラン、ヤブコウジ、キツタの生育もみられる。アカマツ林に接してイヌシデとコナラの二次林もみられる。いずれの林分も自然度は決して高いとは言えない。地所内にはコモチシダが林縁の母岩が露出した湿潤地にみられる。

117. 愛宕神社 Schrein Atago

所在地 平塚市万田字宮前

東海道本線大磯駅の北、海拔200m弱の高麗山の北斜面下端で花水川沿いの沖積地に愛宕神社は位置する。

神社の境内の大部分は開放景観域として、子供達の遊び場を提供している。境内の植生は周囲を疎にとり囲む形でクロマツを中心にクスノキ、スダジイ、エノキ、ケヤキ、イヌシデが生育する。

118. 荘 厳 寺 Tempel Sogen-ji

所在地 平塚市高根174

荘厳寺は平塚市高根の花水川に面した台地北側に位置している。南側はかなり急な台地縁となり、北側には花水川の沖積地が広がっている。

寺の参道には種々の植栽樹が生育し、本堂の周囲には庭園が設けられている。南側の台地斜面には二次林やその伐採跡がみられる、特にまとまった林地は認められない。

119. 南金目神社 Schrein Minami-kaname-jinja

所在地 平塚市南金目

南金目神社は南金目の金目川に面した段丘上にある。周辺は畑の多い農業地帯であり、まだ閑静さを保っている。境内にはムクノキの大木があり、北側の川に面した斜面に神社林が带状にひろがっている。

ムクノキは、胸高直径1.1mで樹高約28mに達している。枝はよく繁茂して樹木の姿が整い樹勢もきわめて盛んである。



Phot. 22 金目川に沿った斜面の社叢 (Nr. 119 南金目神社)。
Minami-Kaname Shinto-Schreinwald auf dem Hang am Kanamegawa-Fluss.

このムクノキを含む北側斜面の森林の植生調査結果は Tab. 8 に示される。タブノキが高木層に優占しており、ケヤキ、アラカシ、エノキ、イヌシデなどが混生している。また林床にはヤブランをはじめとしてジャノヒゲ、オクマワラビ、イノデなどが生育している。以上の構成種からみて、この群落はイノデアタブ群集のケヤキ亜群集と判定される。平塚市の北部の潜在自然植生を考察する上で、重要な残存林とされる。群落の面積がせまく、一部に草刈りが行なわれている。より自然度を高めるために、参道沿いの草刈りを最少限にとどめる。道路と樹木の境界に低木のトベラ、ヒサカキ、ネズミモチ、ツツジ類などを補植して、マント群落を形成すべきである。

120. 円覚寺 Schrein Engaku-ji

所在地 鎌倉市山ノ内

鎌倉五山の第二として有名な円覚寺は山ノ内の北鎌倉駅北東の一つの谷を占めている。山内はおおよそ30,000m²の面積をもち、その中に数多く建造物が配置され、その間に植栽橘が生育する。また谷の小支谷奥には自然に近い森林が残されている。山内には、いたるところにスギが植樹されて50~70年の樹令の大木が多い。

梅院奥の崖錐地の植生は高木層には植栽されたスギのほかにミズキ、イロハモミジ、シュロ、タブノキが生育している。林床には湿性要素のヤマネコノメソウ、ワサビ、ウワバミソウ、カテンソウ、ジャゴケなどが生育し、スタジイ林やタブノキ林とは異った趣きを呈している。

禅堂の北側にはかなり密なスタジイ林がみられたが今回は植生調査が行われなかった。

境内のビャクシンは鎌倉市の天然記念物に指定されている。ビャクシンはヒノキ科の高木で庭園や社寺によく植えられる。高さは12mとあまり高くはないが幹はよく肥大している。幹や枝がねじ

れて生長するのが特徴であり針状葉だけをつける。

円覚寺は古都保存法によって特別保存区域の指定をうけている。

121. 瑞泉寺 Tempel Zuisen-ji

所在地 鎌倉市二階堂

鎌倉によくみられる小谷の奥に寺院があり、それをかこむ複雑な地形の台地斜面および台地上に樹林がみられる。

境内はスイセンで知られるが野生の一重咲きのスイセンは南向きに開けた谷で陽光を受け北風がさえぎられるので春早く開花する。またウメもこの寺院の特色であり、オウバイの古木は市の天然記念物の指定を受けている。

周辺の樹林はスギを中心とする針葉樹の植林、オニシバリーコナラ群集の二次林、常緑広葉樹林の三つが相観的に大まかに把握される。スギは50年ほどの樹令で、管理がよくされており、生育も良好である。

スダジイ林は Tab. 5 に示される。瑞泉寺から天園にいたるハイキングコースの両側にみられる。スダジイ優占の樹林でスダジイをはじめとしてアラカシ、タブノキ、シロダモなど常緑広葉樹の種群が高木層を占めている、低木層、草本層にもアオキ、ヤブツバキ、ヤツデ、イタビカズラ、ヒサカキ、ベニシダ、ジャノヒゲ、ヤブラン、ビナンカズラなどが生育し、群落学上はヤブコウジースダジイ群集アカガシ亜群集に規定される。このヤブコウジースダジイ群集アカガシ亜群集は一般に鎌倉では内陸部の尾根や急斜面上の土壌のきわめて浅い乾性立地に見られる（宮脇・原田他 1972）。

寺林の保全について考察すると、瑞泉寺の寺林の中で特に重点的に保護が必要な林分はヤブコウジースダジイ群集である。これらの林分はハイキングコースの道沿いにあり、林内へハイカーなどの立ち入りが多くみられる。ヤブコウジースダジイ群集は薄い土壌の上に生育しているので林床破壊が植生の破壊へつながるので嚴重な保全への注意が必要とされる。

122. 長勝寺 Tempel Chosho-ji

所在地 鎌倉市大町

長勝寺は鎌倉と逗子を結ぶ県道沿いにあり、大町の台地の斜面一帯を占める。全面積は35,149m²でかなり広く境内にもゆとりがある。霊園をめぐる斜面には常緑広葉樹を混じえた樹林がみられる。

本堂南側の斜面の植生は、スダジイやミズキの高木にヤブツバキ、イロハモミジなどの亜高木がかなり密に生育している。低木層と草本層にはベニシダ、テイカカズラ、キツタ、ヤツデ、ヤブニッケイ、ネズミモチ、ジャノヒゲ、シャガ、ヤマイトチシダなどのヤブツバキクラスの種類がきわめて多い。しかし、この調査林分は面積も狭く、特にすぐれた景観を示す常緑広葉樹林とはいえない。墓地の南側にあった樹叢は伐り払われており、その跡にはイノデが生育している。

長勝寺は古い歴史をもち、境内はゆったりして寺有地も広いので、これらを生かした総合的な自然環境づくりが考えられて、現在の常緑広葉樹林が生かされるような施策が望まれる。

123. 江ノ島神社 Schrein Enoshima-jinja

所在地 藤沢市江ノ島

江ノ島神社の寺林は江の島ノ台地上から北側を主とする斜面約85,000m²を占めている。民家や観光施設が占める島のいわゆる目ぬき通りを除く多くの地区が神社の所有地となっている。

資料旧江ノ島分校わきのテラス状地の林分の種組成は高木層、亜高木層にスダジイ、タブノキ、イ

ヌビワ、シロダモ、モチノキなど生育がみられる。また草本層にはフウトウカズラ、ホソバカナワラビ、イノデ、ベニシダ、オニヤブソテツなどのシダ植物が多く生育している。またこの林分中に生育しているノシランはユリ科の常緑草本植物であり、ジャノヒゲを大形にしたような形態をしている。自生は紀伊半島以西、あるいは南関東以南といわれている。江ノ島のノシランが自生とすれば北限自生地となる可能性がある。

その他にも島内にはヤブコウジースダジイ群集、イノデータブ群集、マサキートベラ群集などの常緑広葉樹林がみられる（宮脇他 1971）。また島の海岸近くにはイソギクハチジョウススキ群集などの断崖草原もみられる。一神社の社有地としてこのように数種類の自然植生がみられるのは他に例が少ない。

現在江ノ島神社は保安林および風致地区としての指定を受けている。古くからの有名な観光地に開けた江ノ島は昔ながらの土産物屋と数軒の旅館が主として北側にかたまって設置されている。しかし、南側の自然域には長い間必要にして最小限にししか手がつけられなかった。明治になってから山頂に植物園が設けられ、また平和塔などの観光施設がふやされた。さらにこの20年来、北東部に埋立地ができ、架橋工事が行われた。ヨットハーバーの設置によって島の東側の断崖植生はかなり影響を受けたとみられる。

元来江ノ島は海中に取り残された断崖をもつ島でその斜面が急峻だったために緑が保持されてきた。江ノ島の自然や植生を護る立場からはこれ以上の地形変更をすることなしに植物的自然の遺産を守る方策をたてられるべきであろう。

124. 海蔵寺 Tempel Kaizo-ji

所在地 小田原市早川

海蔵寺は東海道線の早川駅北西の約300mの地点にある。石垣山城跡のある山から、なだらかな斜面が相模湾におちこむ小さな谷部にある。北西風は山にさえぎられる温暖な地であり、周囲はみかん畑にかこまれている。山門の東側には住宅が並びはじめている。

境内にはバクチノキの高木が2本生育している。バクチノキはピランジュともいわれるバラ科の常緑高木であり、同地には国の天然記念物に指定されたバクチノキがある。バクチノキは関東地方以西の温暖な地に生育することが知られている。海蔵寺のバクチノキは樹高約17m、胸高直径0.6mと、同じく16mで0.6mの2本であり、その名のように樹皮がはがれて赤褐色の樹肌が露呈されている。堆定樹令は150年とされて、根は表土から露出している。樹木は現在特に樹勢がよくないので、根元の保護をはかることが望ましい。

またコウヨウザン、スギ、クロマツなどが境内に生育している。その他にスギ林がある。

125. 真福寺 Tempel Shinpuku-ji

(瑠璃山薬王院真福寺)

所在地 小田原市早川

国鉄早川駅西400mにある真福寺は東海道線、国道1号線、東海道新幹線にはさまれており、付近にはミカン山も少なくない。観音堂裏手にはタブノキ、ケヤキの高木がみられる。参道脇にはタブノキ、シダレザクラ、ツツジ類、ヤブニッケイなどが比較的密に生育するが、下草刈りや落葉かきが行なわれ林床植生は貧弱である。

126. 紹太寺 Tempel Shotai-ji

所在地 小田原市入生田397-4

箱根登山鉄道入生田駅から北へ200 mのところを位置する紹太寺は塔ノ峰からのびる山地が早川にけずられてできた沖積層と接するところにある。ウラジログシが特徴的に生育している。

紹太寺の墓地周辺は Tab. 14 に示されるようにウラジログシを主とする樹林が生育している。ここには位置的には臨海部であるが、植生学的にはウラジログシ、アラカシを始めシキミ、ナンテン、ヤブソテツなど内陸性のいわゆるカシ林の性格をもつものとされる。しかし、この林分は人間の干渉が強く、生育地が限られている。

127. 白峯寺 Tempel Shiramine-ji

所在地 茅ヶ崎市下寺尾

白峯寺は茅ヶ崎市北部の小出川東方の台地上に位置している。南側に県道寒川一藤沢線が通り、周辺は農村地帯でスギなど植林地と畑がめだつ。

寺院の全面積は約 5,800 m² で寺林は境内の前面と東側とにある。境内前面の傾斜地にはスタジイ、ヤブニッケイ、タブノキなどの常緑広葉樹が列植されている。樹高はそれぞれ10mから15mあり、よく茂っている。しかし、面積はせまく安定した樹林をつくるほどではない。

境内の東側にはクロマツの植林地がある。樹高9 mほどのクロマツは枝先が枯れていて生育状況はきわめて悪い。また植林地で普通にされているような下枝払いや下草刈り、あるいはつる切りなどがまったく行われていないようである。林内にはアズマネザサをはじめとしてシオデ、シロダモ、モミジイチゴ、クスギ、タラノキなどが70%の被度で生育している。墓地の裏側にあったクロマツ林は皆伐されている。

128. 三島神社 Schrein Mishima-jinja

所在地 茅ヶ崎市萩園

三島神社は相模川左岸の平地で県道寒川線沿いに位置している。周辺には新しい住宅も建ちはじめているが、農村地帯の景観を残している。

神社の全面積は約 2,000 m² であり広くはない。そこにタブノキやケヤキの高木が生育している。生育樹種は、植生調査〔128〕に示されているが樹林となっていないのではなく単木的に植栽されているだけである。社殿の裏は空地になっていて草原状である。

県あるいは市の天然記念物指定希望がだされているが、現在の状況ではその価値が低いと判定される。

129. 妙伝寺 Tempel Myoden-ji

所在地 茅ヶ崎市堤

寺院は堤の沖積地に面した台地縁に位置している。周辺は農村地帯であり、新しい住宅が散見される。昭和49年には寺院の前面に道路が建設され、同時に農地整理もすすめられている。農業調整区域として、農村景観が比較的保たれている環境である。

樹林は寺院の西側と東側にわずかな面積で残されている。西側の樹林は寺院の地境に列植されたシラカシの高木を中心として帯状にのびている。シラカシ、ケヤキ、スタジイが高木層を占め、モウソウチク、タブノキ、モチノキ、アラカシ、シロダモなどが生育している。低木層以下にも常緑の種類は多くみられる。林床植生の被度は低く、ヤブガラシ、イノコズチ、トコロ、サルトリイバラなどの陽生植物が生育している。北側の樹林はスタジイが多く列植されており、谷部からみると、こんもり



Phot. 23 (茅ヶ崎 三島神社 Nr. 128)

沖積低地にはまとまった社寺林はきわめて少なく残存木が点在する。
Mishma-Shinto-Schrein in Chigasaki auf der alluvialen Niederungsfläche
mit Rest-Bäumen des alten Schrein-Waldes.



Phot. 24 逗子市 山ノ根 熊野神社 [130] の林内
 乾性立地上のヤブコウジースダジイ群集
 Unterwuchs des *Ardisio-Castanopsietum sieboldii*
 von Shinto-Schrein Kumano (Yamanone, Zushi).

と茂ったお寺の森に見える。いずれの樹林も植物社会学的にみると自然度も高くなく、現状では特に注目すべき林分とはいえない。

寺院の入口にはタブノキの大木がそびえている。胸高直径 1.2 m, 樹高およそ 18m である。生育がよくタブノキ独得の積乱雲型の樹冠が整っていて妙伝寺のシンボルとなっている。

この樹林はシラカシ群集ケヤキ亜群集と規定された。

130. 熊野神社 Schrein Kumano-jinja

所在地 逗子市山の根

熊野神社は国鉄逗子駅の北方の山地斜面に位置している。周辺は閑静な住宅地であり、社殿の周囲は常緑広葉樹に囲まれている。

境内の前面にはタブノキの大木が 2 本生育している。いずれも樹高およそ 24m, 胸高直径 1 m に達する大木でその根元は癒合しているが、各樹木は何れも樹勢が良く、枝張りも十分でタブノキの姿は整っている。樹令約 200 年とされる。

社殿の三方には常緑広葉樹林がみられる。西側の林はスギの高木を伴っている樹林で Tab. 6 に群落組成が示される。植樹されたスギは良好な生育を示している。亜高木層以下には、常緑植物が豊富である。スダジイ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、タブノキ、アオキ、ヤツデ、ヒサカキ、テイカカズラ、ベニシダ、ビナンカズラ、ジャノヒゲ、シロダモ、イタビカズラなどである。基盤は泥岩層で、その上のロームの被覆はきわめてうすい。土壌はやや乾性であり、ところどころに母岩の露出がみられる。

社殿の東側のシイ林の組成は Tab. 6 に示されている。樹高は9 mで低いが植被率90%で密閉した林冠となっている。高木層を形づくる樹種は10種類もあり、スダジイが優占し、ヤブツバキ、トベラ、モチノキ、タブノキ、イヌビワ、ヤブニッケイ、ヤマグワ、カラスザンショウ、アカメガシワが混生している。低木層と草本層にも出現種数が多く、アオキ、テイカカズラ、シャガ、ベニシダ、イタビカズラなどが見られる。スダジイの芽生えも多くみられる。南西向きの斜面で陽光の透入が比較的多いため、草本層の被度が高いのではないかと考えられる。立地は40°の急傾斜地であり、黄褐色森林土壌はきわめてうすく、十分発達していない。いたるところに基盤の逗子シルト層が露出している。樹高が低いところから、この林分は皆伐後に再生した樹林とも考えられる。しかし、種組成の上からはヤブコウジースダジイ群集と判定される。社殿の後背部は常緑広葉樹と落葉広葉樹の混生林となっている。

神社林の保全について考察すると熊野神社は閑静な住宅地の裏山にあって典型的に鎮守の森の植生を保っている。境内の前面に植えられているタブノキの大木は立地の潜在自然植生を象徴的に示している。やや緩傾斜地には土壌が堆積してイノデータブ群集の立地となり、母岩の露出した南向き斜面はヤブコウジースダジイ群集の立地となっている。逗子市の山の根から久木にかけての一带の常緑広葉樹林のほとんどがこのタイプの樹林とされている。

保全については現在の通り、林内に人が入りこまない事が第一の条件とされる。さらに社殿後部の樹林をより安定した自然林へ復元が計られれば理想的である。

131. 岩 殿 寺 Tempel Ganden-ji

所在地 逗子市久木

岩殿寺がんでんじは久木の南向きの谷戸に広い面積を占める寺院で、堂や伽らんが点在しその間に植栽された樹木が多く、緑の多い地区といえる。南側はきわめて閑静な住宅地となっているが、丘陵の尾根の北側には新しく開発された住宅地が接している。基盤となる逗子シルト層の露出がみられ、その上を被う関東ローム層は比較的薄い。

植栽樹にも比較的多くの常緑広葉樹種が使われて落ちついた庭園となっている。表層土を削りとったあとの逗子シルト層の上にはコモモチシダ、ミツデウラボシ、マルバウツギおよびコケ類が生育する岩隙植生がみられる。サザンカ、ヤブツバキ、マサキ、アオキ、ナンテン、オモト、モチノキ、ジャノヒゲ、ヤブランなどを配した参道が続きよく手入れをされている。

谷戸の斜面は大部分がコナラ、エゴノキなどの生育する二次林でその下に常緑広葉樹が点々と混生している。

尾根近くの崖の斜面に生育する自然林は Tab. 6 に示される。高木のスダジイ、コナラ、ヤブツバキ、イヌビワ、クスノキ、サンゴジュなどが生育する。低木層と草本層にはかなり種類が多い。アオキ、スダジイ、タブノキ、アラカシ、ヒサカキ、ヤツデ、ツルグミ、シロダモ、ジャノヒゲ、ヤブコウジ、ヤブラン、ベニシダ、テイカカズラなどのヤブツバキクラスの植物が多い。また、海岸近くの植分に多くみられるマルバグミ、ツワブキ、トベラ、カクレミノも混生している。これらの種組成から岩殿寺のスダジイ林は、ヤブコウジースダジイ群集の林分と判定される。

寺院林の保全について岩殿寺をみると面積も広く、西暦720年建立という歴史の古さと相まって寺林の環境としてはきわめて恵まれている。二次林の復元がさらに進めば県内でも有数のすぐれた寺林となる可能性がある。土地全体にローム層が薄く土壌の流出によって植生が破壊され易いので、林床の保護がせつに望まれる。Tab. 6 のスダジイ林は50°の急傾斜ではあるが落葉層も2 cmほどあり土

壊の確保がみられる。谷戸の斜面樹林地への出入りを禁止し、尾根部を保護することが必要である。

132. 神武寺 Tempel Jinmu-ji

所在地 遼子市沼間

寺は沼間山とよばれる低い山の一帯を占めている。7世紀に僧行基によって開山され鎌倉時代に全盛をきわめたといわれる。寺林は本堂や客殿を中心として標高133.6mの山頂部から南は田越川の谷部へ広がり、北はやや緩傾斜で鎌倉から続く丘陵に連らなっている。また西は沼間西部の谷となり東は尾根伝いに鷹取山へ続く、一帯の地層は池子凝灰岩で凝灰質砂岩と凝灰岩からなっている。凝灰岩が風化してできた褐色森林土壌は尾根部では比較的うすい。

境内にはホルトノキの大木があり推定樹令が400年とされている。特に珍樹というほどではないが暖地性の常緑広葉樹林で房総半島以南に分布する。境内には単木的にイヌマキ、イチョウ、ミツデカエデ、アカガシなどが生育している。また神武寺内にはシダ植物が豊富に生育することでも有名である。ヤブソテツ、オニヤブソテツ、コモチシダ、ヘラシダ、ゲジゲジシダ、オウレンシダ、リョウメンシダ、イノデ、イノモトソウ、オオバノイノモトソウ、ベニシダ、ジュウモンジシダ、ミゾシダ、ホソバシケンシダ、ホシダ、イヌワラビ、ヤマイタチシダ、オオイタチシダなどが一般的である。

寺林の群落は5つにまとめられている(宮脇 1970)。

1. ヤブコウジースダジイ群集 (Tab. 6)

神武寺の自然林の代表的な群落で山頂部から尾根にかけて土壌のうすい立地に生育している。高木層を占めるスダジイは50%から70%の植被率で、その他にも常緑広葉樹種のアカガシ、ウラジロガシ、アラカシ、シロダモ、ヤブツバキなどがみられる。スダジイの根は地下に伸長できないので地表近くを走行して露出している。林床の植被率は一般に低い。

2. ホソバカナワラビースダジイ群集 (Tab. 7)

本堂の東側の谷の緩傾斜地に生育している。凝灰岩が風化してやや厚く堆積した立地で粘土化した土壌は適湿である。群集標徴種および区分種のタブノキ、ホソバカナワラビ、スダジイのほかにシロダモ、ヒサカキ、ヤブツバキ、アオキ、テイカカズラなどが生育する。特にホソバカナワラビの被度が高い。

3. イロハモミジーケヤキ群集 (Tab. 11)

客殿の西側の夏緑広葉樹林はイロハモミジーケヤキ群集として判定されている。高木層にケヤキ、イロハモミジ、イヌビワ、カマツカなどが生育している。草本層にはキチジョウソウ、ホウチャクソウ、ジュズネノキなどがみられる。垣根をめぐらせて林内に立ち入れないようにされている。

4. オニシバリーコナラ群集 (Tab. 16)

神武寺の二次林はヤブツバキクラスの種が量的にも種数の上からもきわめて多い。スダジイ、ヤブツバキ、アカガシ、アラカシ、モチノキ、ウラジロガシなどが高木第2層に高い被度を占めている。これは多摩丘陵地のクヌギーコナラ群集とは異なるオニシバリーコナラ群集としてまとめられる群落とみられる。また、伐採も現在ではあまり行われず、常緑広葉樹の再生芽がそのまま生育して、常緑広葉樹林への遷移の途上にある。

5. スギ・ヒノキ植林 (Tab. 19)

寺林のうち南側の斜面はスギやヒノキの植林からなっている。適湿地で土壌もかなり厚く、恵まれた立地であるために生育はきわめて良く樹高25mに達している樹木もある。群落内には Tab. 19 に示されるようにタブ林構成種群、スダジイ林構成種群およびその両者の共通構成種群が豊富である。ふ

つう一般の植林地では下刈り，下枝打ちをして高木層にスギ，ヒノキだけを残すことが多いが神武寺の植林地では亜高木層に常緑広葉樹を生育させている林分もみられる。林内の草本層はきわめて密で植被率100%の林分もある。シダ植物，とくにリョウメンシダ，ジュウモンジシダの被度が高い。

植生の保全については，寺林は現在の立地に対応した自然林と人為的な影響によって持続している代償植生からなっている。保護の中核地帯としては山頂部から尾根にかけてのヤブコウジースダジイ群集，ホソバカナワラビースダジイ群集の林分があげられる。

神武寺の周辺部には最近大規模な宅地開発が行なわれて寺に訪れる人も多くなっている。これらの人々が自然林の中へ踏みこんで林床部を変化させないような方策が必要である。

133. 法性寺 Tempel Hosho-ji

所在地 逗子市久木

法性寺は久木の名越の切通しに接して谷戸から名越トンネルの上の尾根部まで寺林が続いている。山門があるのは横須賀線脇の谷戸の入口であり，本堂は谷の中ほどにある。さらに参道をのぼると堂と墓地が尾根部にある。参道は逗子シルト層を削ってひろげられていて斜面にはミツデウラボシなどの岩隙植生がみられる。

本堂の周辺には植栽樹は少ないがその中でナギの大木がめだつ。

ナギはマキ科の植物で暖い地方によく生育する高木である。法性寺のナギは樹高およそ15m，胸高直径60cmと県内でも有数の大木である。幹は紫褐色をしている。よく結実し粉をふいた紺色の実が多数できるが，芽生えは少ない。

墓地への道は完全に舗装されていてその周辺部には樹高の低い常緑広葉樹林がみられる。植生調査[133]-1には落葉樹の混生した樹林が示される。スダジイ，ヤブツバキ，ヒサカキ，タブノキの緑にイヌビワやイロハモミジが四季の彩どりを添えて美しい景観を呈している。この林分の立地は落葉層の厚さが3cmから5cmと厚く，尾根の近くではあるが土壌も厚く肥沃な立地である。

Tab. 6に示されるのは参道の南西側のスダジイ林である。面積はせまいが林冠はスダジイ，タブノキ，ヤブツバキで密閉されている。低木層にも常緑樹種が多い。林冠が閉されているためか草本層の被度は低い。この林分は尾根近くでヤブコウジースダジイ群集と判定される。またスダジイは萌芽再生したものとみられる。

寺院林の保全については逗子市全体についていえることは基盤がシルト層あるいは火砕岩層などでその上のローム層の被覆はまったく無いかきわめて薄い。そのために土壌の保全が植生保護のためには重要である。法性寺では林内への人の立ち入りはほとんど行れていないが，Tab. 6の林分への塵芥の投棄がみられる。落葉などのごみは一か所にかためずに，林内に散らすような還元の仕事が望ましい。

面積もかなり広くまとまった地域であるので寺林保全の一つのモデルとなる。

134. 小坪寺 Tempel Kotsubo-ji

所在地 逗子市小坪

小坪寺は小坪湾に面した南西向きの台地斜面に位置している。旧海岸からは約40mの位置にあったが，現在は埋立地の造成が行なわれたので約200mの内陸となった。しかし，この傾斜地には海風がまともに吹きつけ樹高の低い常緑樹がみられる (Tab. 9)。

寺の本堂は斜面地の下方にあって庭園には多くの植栽樹がみられる。本堂後方の墓地の上部にクロマツを高木にもつ常緑樹林が生育している。その組成は Tab. 9に示される。

風衝の影響のため常緑樹の高さは6 mでいとど低く、低木層を形成している。スダジイ、ヤブニッケイ、トベラ、オオバグミ、シロダモ、ヤツデ、タブノキ、ヤブツバキなどの常緑樹種を多く伴っている。この樹林は海風の影響を強く受ける断崖地にみられるマサキートベラ群集と判定される。逗子市のマサキートベラ群集はトベラ、マサキ、イヌビワ、オオバイボタ、ヒメユズリハ、ツワブキを標徴種として区分された。小坪寺の寺林はそれとかなり近い組成を示している。高木にクロマツが生育しているクロマツ亜群集と判定される。

海岸の埋立てによって海からの距離が遠くなり、かつ海風の影響も弱くなることからこのようなマサキートベラ群集の立地の変化が今後注目される。

小坪湾に面したこの斜面には小坪寺のほか正覚寺、神明社、天照大神宮などの寺社もあり、それぞれ常緑広葉樹林をもって、一帯の保全が計られることが望ましい。

135. 新田稲荷神社 Schrein Nitta-inari-jinja

所在地 相模原市淵野辺

新田稲荷は相模原台地上で16号線と市道とにはさまれた農村地帯にある。周辺には新しい住宅が最近ふえてきている。全面積は5,415 m²あり社殿周辺を除いたかなり広い面積の土地にソメイヨシノが植栽されている。ソメイヨシノの間にはイヌシデやコナラも散生し、亜高木層には植栽されたスギが目立つ。低木層にはまったく樹木がなく林床にアズマネザサ、ノビル、スズメノカタビラ、カワラスゲ、オオバコ、ヤブタバコなどが生育している。この境内林中には遊具が設置されて遊び場となっている。植物群落上からみても林床は踏跡群落と同じ種組成を示している。

神社の社殿のまわりにもケヤキなどの高木が散生するが、安定した森林を形成するほどの面積もないし階層構造の発達も悪い。

自然度の低いこのような社寺林は人々のレクリエーションあるいは祭事としてはきわめて親しみ易い植生である。春の花見時に踏跡群落の上にごさを敷いて団らんをはかるとか、秋の祭の時にソメイヨシノの木陰で、みこしを待つとかいう情景は、自然林としての鎮守の森とはまた別の意味を持っている。

神社の周辺部に植栽されたスギは用材となるように下枝打ちが行われている。

136. 無量光寺 Tempel Muryoko-ji

所在地 相模原市当麻

相模川岸で国道129号線の東側の小高い台地上に位置している。寺の周辺には耕地や新しい住宅が点在する。無量光寺は700年にわたる古い歴史をもち相模原市の史跡および近郊緑地に指定されている。境内の一部に相模原市青年の家があり青少年の教育の場となっている。

境内には推定樹令200年以上の大木が点在するがこれらの中には樹勢の衰えのめだつものがある。比較的広い境内には新しい植栽木もありスギの若令樹がみられる。山門内のスギ植林は5 mに達する高さでタブノキやスギの大木にかこまれている (Tab. 16)。林床にはジャノヒゲが多く、アズマネザサ、ヤブラン、チャノキなどのほかに日なたの植物のカントウタンポポ、ニワトコ、カモジグサ、イノコズチ、カキドオシなどがふつうにみられる。スギ植樹はよく土地に適合して良好な生育を示している。

境内は三方をスギやタブノキの大木を中心とする常緑樹林のベルトで囲まれている。

山門の西側斜面にはケヤキの大樹をはじめとしてスギ、サワラ、カヤを高木層に、ヤブツバキ、ケヤキ、タブノキ、スダジイ、カヤ、アラカシ、エゴノキを亜高木層にもった樹林がみられる。これら

の林には低木層にアオキ、アラカシ、ヒサカキ、タブノキ、ナンテン、ヤブツバキ、草本層にはキツタ、イノデ、クマワラビ、ヒサカキ、ヤマイタチシダなどのヤブツバキキクラスの種が多くみられる。またこの斜面は西方向へ傾斜し林内へは陽光がよくはいり日なた植物も生育している。斜面の上部に墓地があり、塵がはきよせられて落ち、一部の林床が荒らされている。

青年の家の前面の谷沿いの常緑広葉樹林も高木層はケヤキとスギが植栽されている (Tab. 16)。亜高木層にはミズキ、スギ、アラカシ、カマツカが生育している。低木層にはアオキ、アラカシ、ヒサカキが多く、草本層にニンソウ、ジャノヒゲ、ベニシダ、ヤブラン、ヤブニッケイ、キチジョウソウなどがみられる。2つの林分ともに面積はややせまいがヤブツバキクラスの種群が多く生育し境内を包みこむ形をしている。林内には動物群集も豊富である。現在この立地の潜在自然植生はシラカシ群集ケヤキ亜群集とされている。

周辺地にはまだ水田や畑も残り典型的なお寺の森をなしている。付近には最近少なくなったヤマネコノメソウ、ネコノメソウ、ショウブ、ホソバコンロンソウなどがみられる。幅はせまいが密生した群落はかなり安定性が高いとみられる。このような多彩な郷土の森は市街地での樹林帯をつくる際のモデルとなると考えられる。

137. 若宮社 Schrein Wakamiya-sha

所在地 三浦市下宮田

若宮神社は下宮田の入江新田内に、侵食からとり残された台地上にある。この台地は沖積地の水田面からわずか5～6mほどの標高差でやや小高くなっている。かつては海中の小島であったといわれるが、現在では遠望すると沖積地の樹林のようにみえる。

社殿の前面にはイチョウ、サクラなどの植栽樹が多くみられる。しかし、後方には常緑樹を主とした密な林がみられる。この林はカクレミノ、タブノキ、アカメガシワ、トベラ、アオキ、オオバグミ、モチノキ、ネズミモチなどの樹種からなり、林床にも常緑のシダ類が多くみられる。樹林の生育しているのは南西向きの急斜面で三浦層群の泥岩層が露出している。常緑樹はその斜面に斜上して生育している。

現在若宮社林の緑の崖錐地にはサクラ類などが植えられてアズマネザサがマント状にとりまいている。

この林は隣接の初声小学校の教材園としても利用されているようである。このような場合は林床の保全の面からもまた安全の面からも、斜面林への立ち入りはできるだけ控えるような配慮が必要である。

138. 上諏訪社 Schrein Kami-suwa-sha

所在地 三浦市初声町三戸

三戸海岸に面した西向きの斜面と海岸までの平坦地上に神社林が発達している。

海岸の道路に続いた平坦地は砂丘地で土壌の生成はほとんどない。ケヤキ、クスノキ、タブノキ、エノキなどが散生し、児童公園として利用されている。さらに奥にはいった平坦地は海拔高度が3～5mであるが宮田台地と同様な黒ボク土壌が著しい発達をとげている。上にやや樹高の低い常緑樹林が育っている (Tab. 6)。高木層の樹種は10種と比較的多いがエノキの被度が高いことが特徴的である。またタブノキはやや樹高が高いが他のほとんどの木は10mほどの高さで、海岸からの風をまともに受けて樹高が揃っており、また、樹型も内陸側に著しく屈曲している。林床は比較的乾燥しているようだが、フウトウカズラがカーペット状に生育している部分やイノデ、ヤブソテツなどのシダ

植物が密に育っている部分もある。

社殿の背面には露岩の著しい急斜面があり、その上部には密な常緑広葉樹林がみられる。

海岸の砂丘平坦部から台地斜面にまで連続した社寺林の例は他にあまり例がなく、その点からもこの林は興味をもたれる。

139. 白髪神社 Schrein Shiragami-sha

所在地 三浦市小綱代

白髪神社は小綱代湾おくの南西向き斜面に位置している。三浦七福神の1つとして寿老人がまつられている。古い歴史をもち、海上安全の神として土地の人々から崇められてきている。

海浜に面しているが入江の奥まったところにあるためか植物は海風の影響を強く受けることもなく、境内の樹木は良好な生育を示している。

樹種	胸高直径	樹高
イチョウ	1.0m	20m
カヤ	0.7m	20m
イヌマキ	0.3m	12m
イチョウ	1.3m	22m
クスノキ	0.8m	20m
タブノキ	0.8m	18m

なお社殿の背後のテラス状台地の崖には基盤の泥岩が露出している。約40°の急斜面でタブノキ、トベラ、アオキ、ヤブツバキなどの生育する比較的樹高の低い常緑広葉樹林がみられる。

境内は砂質でハマユウもよく開花結実する。海に面した鎮守の森でしかも海の神を祭るという特徴をもつ神社林である。

140. 光照寺 Tempel Kosho-ji

所在地 三浦市三戸

光照寺は三戸海岸の西側で、海岸からおよそ200mの台地の斜面に位置している。寺の境内は山ふところに囲まれた形で、冬の季節風は直接当たらないような環境にある。

本堂の裏側から墓地にかけての斜面に常緑広葉樹を高木層にもつ樹林がみられる。高木層、亜高木層を構成するのはスダジイ、タブノキ、シロダモ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、モチノキ、カクレミノなどの常緑広葉樹をはじめとし、カラスザンショウ、ハリギリ、ヤマハゼなども散見される。草本層にはヤブツバキクラスのベニシダ、イノデ、カクレミノ、キツタなどに混じって、カントウタンポポ、ススキ、ヒメジョオンなどがかなり高い被度で生育している。高木層が林内を被ったヤブコウジースダジイ群集の林相を示しているにもかかわらず、林内に草原生の植物が多いのは墓地の掃除、草刈り、除草あるいは林内への立ち入りが多いためとみられる。また、本堂裏の傾斜地の上は畑として利用されているので、そこからの土砂の流入も原因の1つとみられる。群落全体としては、この社寺林については特に高い評価は与えられなかった。

境内にはスダジイの古木があり、樹高12mで推定樹令500年とされている。現在、樹勢はやや衰退ぎみで、樹姿も整っていない。

141. 龍頭山 福泉寺 Tempel Fukusen-ji

所在地 三浦市三戸

三浦市の三戸海岸から約300mの位置にあり台地端の崖に樹林が一か所みられる。その一つは参道

の南側でテラス状の崖地にある。他の一つは寺の東側の崖の斜面に帯状に分布している。

山門のわきにみられるのは植栽樹を中心とした樹林である(Tab. 6)。一部、母岩の露出もあるがローム層に被われた褐色森林土壌の立地で傾斜はゆるい。高木層にはスダジイ、ヤブツバキ、マサキ、モチノキ、カクレミノ、ヒサカキなどの常緑樹種が密生して、まとまった樹叢となっている。特に著しいのはマサキで樹高が7、8 mにも達して良好な生育を示している。低木層と草本層にはアズマネザサが優占しているが、ヤマユリ、ノガリヤス、タチツボスミレ、ノイバラ、ナワシロイチゴ、テリハノイバラなどの草原生の種がみられる。ベニシダ、ヤマイタチシダ、ヤツデ、トベラなどのヤブツバキクラスの種もまた生育している。この樹叢は高木層がまとまっているのにもかかわらず、低木層、草本層には向陽生の種が多くみられる。樹叢の面積も小さく、また除草、草刈りなどの管理が行われるためと考えられる。

寺院の東側の台地縁の崖は約25°の急傾斜地である(Tab. 8)。崖下は畑で崖錐地は採草地として利用されたり、フキが栽培されている。土壌は肥沃な黒色森林土壌でB層が厚い。高木層はタブノキ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、シロダモが密生して樹高は15mと低いがまとまった林分となっている。低木層はトベラ、イヌビワ、モチノキ、ヤブツバキなどからなり、草本層にはオニヤブソテツ、カクレミノ、ヤツデ、オクマワラビ、イノデが生育している。これらの種類から検討するとイノデータブ群集の林分と判定される。急傾斜地のために林内への立ち入りはほとんどなく、したがって特別な管理もされていないもようである。三浦半島の台地縁に残存する典型的なイノデータブ群集として保存の価値がある。

142. 西光寺 Tempel Saiko-ji

所在地 秦野市鶴巻1340

小田急電鉄小田原線の鶴巻温泉駅のすぐ脇で、相模川にそった沖積面と洪積台地との接点に位置する。海拔30mでローム層に被われた西光寺は、周囲の耕作地等より3~5 m高くなっている。地所周囲にはヤブニッケイとタブノキを中心とする高木林がみられる。墓地と本堂とを囲むかたちでみられる高木林も本堂裏手では一部がマルバウツギなどの林縁が良く残されているため、限られた中であるにもかかわらず生育が良い。潜在自然植生域としてイノデータブ群集域の西光寺の寺院林は、残存生育が限られた中であっても地所周囲を囲むかたちであるため相観的にすぐれている。

143. 桂林寺 Tempel Keirin-ji

所在地 秦野市堀西

桂林寺は秦野盆地の西側で四十八瀬川と水無川の間で台地上に位置している。寺の周辺には畑がひろがっていて古い集落が散在している。

寺のまわりには高さ1 mほどの土塁がめぐらされている。土塁の幅は5 mから場所によっては10 mの幅を保っている。この土塁の上に植えられたスダジイは、樹令約300年と推定され、いずれも良好な生育を示している。スダジイは1971年に秦野市の天然記念物の指定を受けている。

スダジイはやや幅のせまい群落をつくるが、その構成は(Tab. 6)に示される。人工的な管理をかなり受けてはいるがヤブコウジースダジイ群集の種組成を示している。高木はスダジイ(胸高直径1.5 m, 高さ20 m)の大木が積乱雲型の円い樹冠をつくっており、その他にもヤブニッケイ、ヤブツバキ、ヒサカキ、タブノキ、アオキなどの常緑の種群が多い。林内は樹冠が密閉されるために、きわめて暗くなっている。

現在この林床には墓地を掃除した時にだされる塵芥などが棄てられている。ごみは他の方法で処理

して、スダジイ林内には投棄しないことが望まれる。

144. 命徳寺 Tempel Myotoku-ji

所在地 秦野市河原町

命徳寺は秦野盆地の東端、権現山のふもとに位置する。寺領の北側を厚木―秦野間の県道が通じ、さらに周辺には一般住宅や団地が建設されてきている。

寺林は本堂の裏側と西側に帯状に残っている。本堂裏側にはケヤキの大木を主とした雑木林および針葉樹の植林がある。ケヤキの大木のうち大きいものは樹高およそ23mで胸高直径は70cmにおよんでいる。西側は主としてモウソウチク林となっている。

雑木林はケヤキ、ムクノキ、エノキなどの落葉樹が多く、それに亜高木のタブノキ、ヤブツバキなどが混生している。道路建設のために寺林がけずられて、自然林の維持ができるほどの面積は保たれていない。

145. 竜鳳寺 Tempel Ryuho-ji

所在地 厚木市小野

竜鳳寺は厚木市小野の新玉川に面した丘陵上にある。前面には小野の水田がひらけ後部の台地上は畑であり、寺の後側は広い墓地となっている。

寺林は水田に面した丘陵の斜面にひろがっている。主な樹種はスギであり、それに他の樹種が混生している。群落としての均一性を欠く混交林となっている。かつて植樹されたスギは樹高20m近くもあり、良好な生育を示している。これにアラカシ、ミズキ、イロハモミジ、タブノキなどがまじっている。なお他にクロマツの大木が2本（樹高約25m、胸高直径1.2m、樹令およそ300年）がある。混交林は林内が自然のままに放置されていてジャノヒゲ、マンリョウ、オクマワラビ、ベニシダ、ヤマイタチシダ、シャガ、ヤブランなどが密に生育している。

146. 松石寺 Tempel Shoseki-ji

所在地 厚木市上荻野

上荻野源氏河原の西500mに位置し、荻野川に面するややゆるやかな東斜面にあるのが松石寺である。裏手はゴルフ場と接しているが、20mにたつするスダジイを中心とする常緑広葉樹林は社殿裏手に壮大な景観を形成している。林床は墓地のため下草刈りなどの人為的干渉もあるが、残存面積、樹冠の密度、樹高など県下でも有数のスダジイ林である。20mにたつするスダジイの下層として、亜高木層以下にアラカシ、ウラジロガシといった常緑のカシ類やマユミ、モミ、シキミ、ツルグミ、モチノキ、ヒイラギ、クスノキ、ベニシダ、ジャノヒゲ、テイカカズラ、ヤブコウジ、ビナンカズラなどヤブツバキクラスの種も多数生育している。

墓地でもあるため二次植生の構成種であるコナラ、ハコネウツギ、ハナイカダなどの生育もみられる。

147. 荻野神社 Schrein Ogino-jinja

所在地 厚木市上荻野

荻野神社は上荻野の小学校に隣接した段丘上にあり、面積は660m²と比較的せまい。神社林はないが、境内には大木が林立する。その主なものはイチョウ（樹高28m、推定樹令500年）カヤ、ケヤキなどである。いずれも境内でその根元は踏み固められており、根は露出している。イチョウは県内でも有数の大木であるが、境内が狭いことと遊園地的に利用されているために保全が十分ではない。

148. 長谷寺 Tempel Hase-ji

所在地 厚木市飯山

長谷寺は厚木市街地の北東で厚木国際ゴルフ場の北側にある。敷地 130,000 m²と広い面積を占めるにもかかわらず、長谷寺の林分は比較的貧弱である。高木のスダジイ、モミ、アラカシ、クスノキ、低木のヤブツバキ、アラカシ、ヒサカキ、ウコギ、カヤ、マユミ、アオキ、マサキ、タブノキ、ヒイラギなど常緑広葉樹林の構成種（自然植生の構成種）も少なくないが、いずれも単木的である。樹令が200年をこえるスダジイ、イヌマキ、スギ、モミなどが生育しており一見荘重な印象をうけるが、林床が貧弱であり必ずしも高い評価を与えられない。高木を中心に、一つのまとまり一林分一として多層構造の群落への生育・遷移をはかることが望まれる。

149. 蓮生寺 Tempel Rensho-ji

所在地 厚木市中依知

蓮生寺は厚木市中依知の河岸段丘上にあり前面には水田がひらけている。寺の西側をはじめとする周囲には畑やその放棄地がみられる。新しい住宅も点々と建っている。

蓮生寺は本間役宅、梅光寺跡に接して古い歴史をもつ。境内には兵法学者竹中甚兵衛の墓所もある。

境内にはウメの古木があるが老令のために、今日ではまったく勢いがおとろえている。寺の北側にタブ林のややまとまった林がある。その種組成は Tab. 8 に示される。高木のタブノキは高さ約23m 径は1.2mである。これは相模川の対岸からもよく見える。亜高木層以下はタブノキ、ヤブツバキ、ミズキ、ケヤキ、シロダモなどから構成されていてイノデータブ群集ケヤキ亜群集に相当すると考えられる。しかし、この林も面積はせまくて自然林としての十分な広さはない。林内はまったく放置されており、人手がはいっていない。マント群落構成種のカラスウリなどが侵入して荒れた感じがする。

150. 浅間神社 Schrein Segnen-jinja

所在地 厚木市温水浅間山

浅間神社は相模川の西側の小台地上で厚い関東ロームに被われている。

浅間神社の植生は、胸高直径（D. B. H）60cmのアカマツ、タブノキなどの大木が高木層に単木として生育するにとどまり、枯死木もみられる。スギやスダジイ、アラカシ、クマノミズキ、エノキ、ムクノキ、イチョウ、ヒサカキ、イイギリ、ソメイヨシノ、ヤブツバキが亜高木層および低木層に生育する。

151. 深見神社 Schrein Fukami-jinja

所在地 大和市深見

深見神社は深見町の境川に面した台地上に位置している。北側に相鉄線が通り深見台の新興住宅地に取り囲まれているが神社の一带にはまだ大木が残っている。神社の境内は広く本殿のほかに集会所などの建造物が建てられている。

境内には特にまとまった樹叢や樹林はみられない。しかし、樹高の高い大木が散生している。その中で最も大きいのはアキニレ(*Ulmus parvifolia*)で、胸高直径1.2m、樹高30m、推定樹令400年とされる。このアキニレはなんじゃもんじゃの木として大和市の天然記念物に指定されている。なんじゃもんじゃの木とは種名のわからない珍しい樹木につけられた名称である。神奈川県では有馬のなんじゃもんじゃの木（ハルニレ）や神武寺のなんじゃもんじゃ（ホルトノキ）が有名である。アキニレはニレ科の高木で本州の中部地方以南に多く自生がみられる。しかし関東地方でも植栽されて良好

な生育を示す。深見神社のアキニレは枝ばりが良く樹勢も良い。

このほかにタブノキの樹高28m、胸高直径0.8mの高木やケヤキの樹高25m、胸高直径1mの大木もある。また樹高20mをこすカヤ、スタジイ、シラカシ、ムクノキ、イヌガヤ、ヤマザクラなどがみられる。これらの高木は境内の社殿の周囲に点々として生えている。その下は丈の低い下草が生えているにとどまる。

神社一帯の緑地は神奈川県の保安林となっており、アキニレは大和市の天然記念物に指定されている。県内の社寺でこれほど生育の良い高木が数多くみられるところは少ないのでアキニレの大木を含めて保護されることが望ましい。保護に際してはアキニレ、ケヤキ、タブノキなどを単木的に保護するだけでなく、境内全域の樹木を含めて保全林として育成される事が必要である。区域をきめて厳重な囲いをし、林内への立ち入りを一切禁止すると共に下草刈りをしない事がまず第一の条件である。ついて現在、高木層と亜高木層だけの樹叢にはタブノキ、アオキ、ヤブツバキなどの補植をすることがあげられる。

深見神社の社標は江戸時代の記念物として文化財に指定されているが歴史の古さと相まって自然の文化財が保全されることの意義は大きい。

152. 諏訪神社 Schrein Suwa-jinja

所在地 大和市下鶴間

多摩丘陵上の平坦地から丘陵のゆるやかな斜面にかけて広い面積を占める神社林である。神社林の大部分を占めているのはスギ、ヒノキ、サワラなど常緑針葉樹の植林で種々の樹令の樹木が植えられているのがみられる。これらの植林は下枝刈りや下草刈りがよく行われて管理がゆきとどいている。また境内の中には子供の遊び場が設けられている。

社殿の前には樹高10mのサカキの古木がある。胸高直径約60cmで樹勢もよく根張りも良好である。

スギ、ヒノキが混植された林分は Tab. 19 に示される。神社林らしくイチョウヤソメイヨシノも高木層を占めているがヒノキやスギは肥沃な黒ボク土壌上できわめて良好な生育を示している。また、ケヤキ、シラカシ、アオキなどの潜在自然植生を示す樹種も生育している。林床は下刈りがくりかえされるために草丈が低く、種々の群落構成種群からなっている。この植林地には平坦地であるにもかかわらず人の出入りは多くないものとみられる。

やや若令のサワラ植林は Tab. 19 に示されている。ここにもシラカシやケヤキの大木は残されている。低木層の被度は著しく低い。草本層には一年生の草本植物が比較的多い。

諏訪神社は広大な境内にかなり計画的な植林が行われている。平坦地であるにもかかわらず、他地域にみられるような林内の立入りはほとんどなく植林地としては成功している例といえよう。周辺部が宅地として次第に開発されてきている現在、地域住民の憩いの場として、あるいは災害時の避難場所としての利用が考えられる。

153. 日向薬師(宝城坊) Tempel Hinata-yakushi

所在地 伊勢原市日向1644

東名高速道路厚木インターチェンジから西へ8km入った海拔220m前後の台地に日向薬師は位置する。寺院の敷地は広くスタジイ、モミ、ウラジロガシ、イロハモミジ、タブノキ、ケヤキなど自然植生の構成種とスギの植栽樹種が高木として多数生育している。おとずれる人の数が多く、管理が十分ゆきとどいていることは逆にそこに生育する高木林の林床植物を欠くことが多い。日向薬師も例外ではない。しかし参道西手の斜面には植生調査資料が得られたようなスタジイ林の生育がみられる。

資料が得られたスギ植林では、種組成的にイロハモミジ-ケヤキ群集とイノデ-タブ群集との性質をかねそなえている肥沃な立地となっている。

日向薬師は参道脇に残存するスダジイ林、薬師堂裏手のウラジロガシ-モミ林、ケヤキ、タブノキ、モミの高木の残存など各種植生単位が立地条件の差異に応じてみられる。スダジイ林のみの評価はBであるが、その他の植生が多彩に生育している数少ない社寺林であり、全体としてAと評価される。

154. 大山寺 Tempel Oyama-ji

所在地 伊勢原市大山

大山不動尊は阿夫利神社下社への登山道の中途にある。北側にはケーブルの軌道が通り、南側には林道が通じている。大山不動尊は小さな沢の両側に約4haの森林をもっている。

沢ぞいにはケヤキがめだつ混交林があり、一部にはスギも植えられている。ケヤキ林にはウラジロガシ、アラカシなどが混生している (Tab. 13)。高木層にはケヤキ、アラカシ、ウラジロガシなどが生育して、低木層にはアオキが高い被度で繁茂していることが特徴である。この林分はアラカシ-ウラジロガシ群落とされる。県の内陸部で急傾斜地の露岩の見られる立地を中心に生育域をもつ群落である。

またケーブルの軌道との間にある小さな尾根にモミの優占する林分がある。この林分は種組成的にシキミーモミ群集とされる。これとほぼ同じ群落は林道上の尾根地にもみられる。大山は雷山のモミ原生林がすでに県の天然記念物に指定されているが、大山寺のシキミーモミ群集は海拔520mあたりにおいて県内でも最も低海拔地に生育する群落である。

この群落の立地は35°から45°ときわめて急な傾斜面であり、諸所に母岩が露出している。そのわずかなすき間にたまった崩積土砂を母材とした褐色森林土壌の上にモミなどが生育している。岩質はもろく、絶えず崩壊がくりかえされている。

これらの林内をぬって登山道(女坂)がつけられているし、さらに林道はこの林のすぐ上の阿夫利トンネルまで通じている。現在ハイカーの増加によって、シキミーモミ群集の林床を一部荒廃させている。さらに林道が延長されることによって、これらの自然林は、大はばな変容を受けることが予想される。いまのうちに保全の手を打つことが強く望まれる。

155. 涅槃寺 Tempel Nehan-ji

所在地 伊勢原市大山

涅槃寺は茶湯寺ともいい大山登山道の南側から流れ出る小さな沢の合流点に位置している。寺の境内には基盤の緑色凝灰岩の露頭があり、そこに仏像がほられている。大山の阿夫利神社から流れ出る川と小さな沢との合流地は約10mほどの崖地となっている。この崖の斜面と上部にイロハモミジが生えている。イロハモミジの大木は樹令およそ200年で胸高直径0.8m、樹高およそ15mほどである。また隣接してこれよりもひとまわり小さなイロハモミジも生育している。イロハモミジの生育地としては典型的な溪谷であるし、登山道からの景観もすぐれている。しかし、その生育地はきわめてせまく上部が畑に続いている。

156. 三ノ宮神社 Schrein Sanno-miya-jinja

所在地 伊勢原市三ノ宮

三ノ宮神社は比々田の国道246号線の北側約1kmの場所にある。付近には大山から流れ出る鈴川が南に向かって蛇行している。神社は鈴川の営力によってつくられた扇状地上にある。周辺は畑、果樹園、水田などがひろがり閑静な農村地帯となっている。



Phot. 25 大山寺 (Nr. 154) のモミ-シキミ群集の林床にはアオキ、ウラジロガシなどの広葉常緑樹が多い。
Illicio-Abietum firmae am Ohyama-Tempel (580 m NN). Im Unterwuchs kommen *Aucuba japonica*, *Quercus salicina* und andere immergrüne Gehölze vor.

神社はおよそ12,000m²の広さがあり、境内のまわりに一段と高くなった所に樹木が植えられている。社殿の前面にはケヤキとスギの大木がある。鳥居をくぐってすぐの両側にケヤキの大木が生育している。特に右側のものが大きく、胸高直径1.5m、樹高およそ35mの大木である。地上約3mのところから、二つに幹が分枝している。樹勢は比較的良好だが根は露出している。社殿の前面のスギの大木は胸高直径1m、樹高およそ25mである。枝先が枯れてしまって生育状況はきわめて悪い。これらの樹木は樹令が300年と推定される。

境内をとりまいて、やや高くなった周辺部には植栽したとみられる古木が数10本ある。アラカシ、スダジイ、ヤブツバキ、タブノキなどである。スダジイの1本は胸高直径が1mを越しているが、地際から10mのところまで折られてしまっている。これらの大木は植栽されたものと考えられるが、その年代は300年以上のむかしにさかのぼるとみられる。

大木の下はよく刈りこまれ、あるいは耕作されており、1面にゴマが植栽されている部分が多かった。樹木の下へは子供がはいって、遊び場となっているところもある。このような林床の状態のために森林として成立していない。この土地は土壌も黒ボクで豊かであるために北側のスギ林のスギは生育がきわめて良好である。

157. 豊受大神 Schrein Toyouke-Oogami

所在地 海老名市杉久保

相模川の東方の伊勢山台地上に在り、38,000m²の広さをもつ神社である。北方約500mには、東名高速道路の海老名サービスエリアがあるが周辺は比較的静かな農村地帯である。

神社の境内は特に広くはないがその南側の台地上に神社林が広く続き管理の行き届いたサワラ、スギ植林となっている。スギ植林の種組成はTab. 19に示される。調査林分ではサワラを主体としてスギやヒノキが植栽されている。高木層にはウワミズザクラ、ハリギリ、ゴンズイ、エゴノキなどが生育している。林床には46種の植物が生育していてスギ・ヒノキ植林としてはきわめて数が多い。

この植林地は下草刈りの手入れがよくされていて植樹の生育を阻害するつる植物はほとんどみられない。一般の植林地とちがって高木層を構成するサワラとスギの下に亜高木層、低木層とサワラ、ヒノキの植樹が次々に行われていて、それらがよく調和して林相を保っている。このような植林地はおよそ30,000m²にわたっている。

社殿の周辺にはイチョウ、ツバキ、イロハモミジなどが生育している。

158. 神明社 Schrein Shinmei-sha

所在地 海老名市大谷

神明社は海老名市の相模川に面した台地の斜面に位置している。旧街道沿いに古くからある集落にかこまれ、後方には大谷古墳群のある比較的静かな環境である。

本殿に向かう石段の参道の左側にはタブノキ、イヌガヤ、サワラ、ヒノキ、ヤブツバキ、アカガシなどの広葉常緑樹が生育している。これらの樹叢は高木層から草本層までの多層の階層構造をもつが面積は狭く、植生調査が行なえるほどの十分な広さはない。生育している種類には常緑広葉樹が比較的多く、参道の下から見上げるとかなりまとまった自然林にみえる。しかし、植栽種が多く、しかも遊び施設や通路として、樹林が伐り開かれているために樹林としてはまとまりがなく自然度も高いとはいえない。

神社後方の二次林は疎林であり、特筆すべきものはない。

159. 南足柄神社 Schrein Minami-ashigara-jinja

所在地 南足柄市飯沢

南足柄神社は大雄山線の終点大雄山駅の南方約 500 m の地点にある。大雄山の参道の途上で狩川の扇状地上にある。周辺は古くからの集落がやや密に集まっている。神社の北側の緩やかな南向き斜面はスギ林となっている。境内からスギ林に続く境界あたりに、シラカシ、ケヤキの大木が生育している。Aufn. 159 にはその林の植生調査結果が示されている。

林内の土壌は黒ボクがかなり厚く、落葉層も厚い。神社のまわりを取りまくようにして植栽されたとみられるシラカシはきわめて生育が良く樹高は 25 m にもなっている。植林はスギやヒノキでこれも良好な生育を示している。さらに林床植物をみると潜在自然植生のシラカシ群集の構成種が多くみられる。テイカカズラ、ジャノヒゲ、ヤブコウジ、シラカシ、シャガ、シュロ、ヤマイタチシダ、ピナンカズラ、ナンテン、キツタ、ヒサカキなどがこれに当たる。しかし、自然のままに放置されている部分はきわめて少なくオオムラサキの植栽樹が低木層の大部分を占めている。しかも、下草は年に 2 回程度刈りとられているので低木層の発達はやくない。

160. 上関山極楽禅寺 Tempel Gokuraku-zenji

所在地 南足柄市狩野

伊豆箱根鉄道大雄山線の終点・大雄山駅から南西へ約 600 m に上関山極楽禅寺が位置する。この上関山極楽禅寺の裏手で関東ロームが厚く堆積した小台地上にシラカシ林が生育する。

関東地方に残存生育するシラカシ林はケヤキ、ムクノキ、コナラなどの夏緑広葉樹またはスギ、ヒノキなどの植樹された針葉樹を混じえることが多く、シラカシ一種が優占する林分はきわめて限られている。

今回調査資料が得られたシラカシ林は、残存が少なく“幻の森”とも言われたシラカシ群集であり、県下はもちろんのこと関東地方一円でも第 1 級の林分と評価される。

このシラカシ群集は、高木第 1 層にシラカシが優占し、アカシデとシラカシが高木第 2 層を形成し、低木層および草本層にも常緑植物が優占する。

161. 珠明寺 Tempel Shumei-ji

所在地 南足柄市怒田

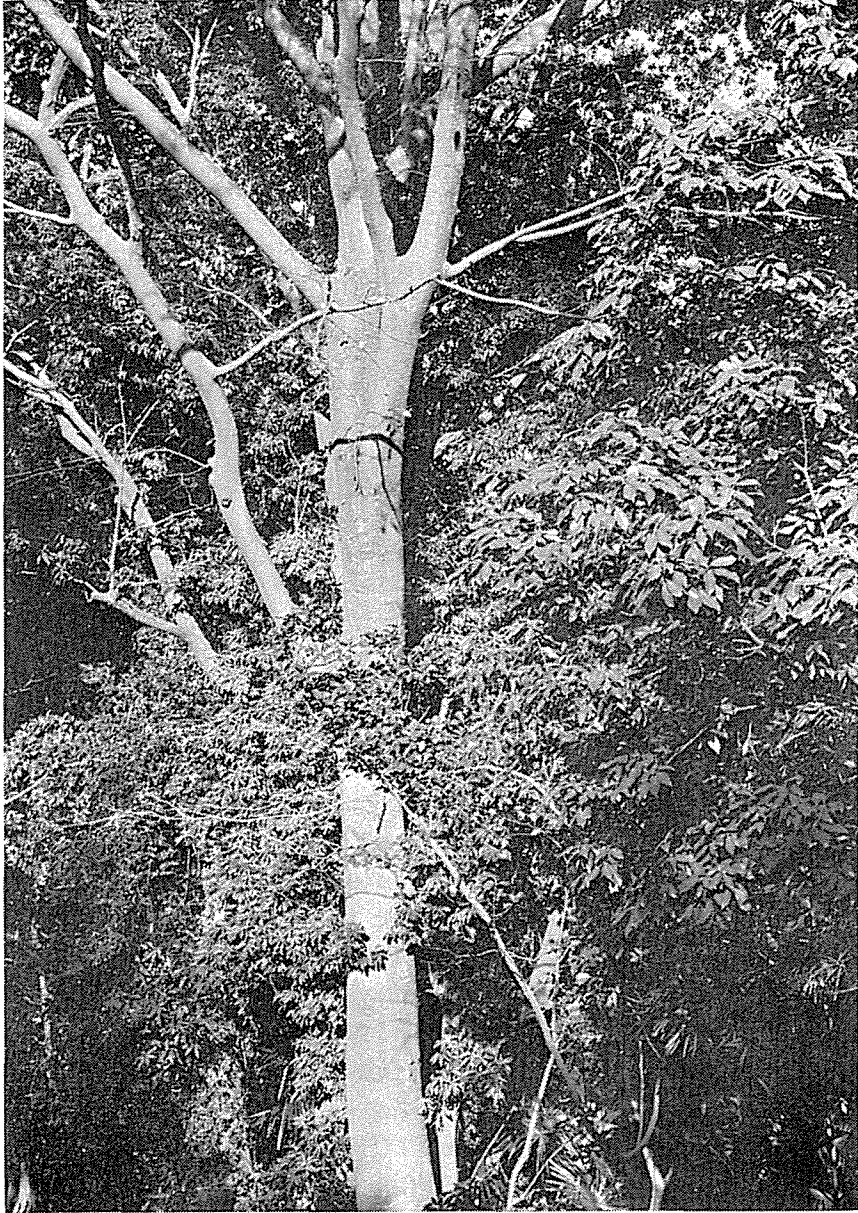
珠明寺は酒匂川の南側怒田台地の上に位置している。酒匂川の河岸段丘から台地上にかけてひろがるみかん園に取りかこまれている。寺の北側に墓地があり、そのまわりに植栽されたとみられるシラカシがよく育っている。シラカシは線状に植えられており、群落を構成するにはいたらない。主な植栽樹は Auf [161] に示される。

台地の下から見るとまとまった林に見えるが墓地のまわりに数列に植えられている。植栽地の幅は広いところでも 5 m ほどであり構成種にも常緑樹のほかには落葉樹種も混生している。

162. 天王院 Tempel Tenno-in

所在地 南足柄市塚原

伊豆箱根鉄道大雄山線、大雄山駅の南東部 1.5 km に天王院が位置する。沖積低地に接する凹状斜面であり、ムクノキ、エノキ、ケヤキなどの湿生指標植物の生育がみられる。また神奈川県下での生育が稀なケンボナシ、ミツデカエデの大木も生育する。ケンボナシはヤブツバキクラス域の上部からブナクラス域にかけてのケヤキ林に多く生育する。ミツデカエデは、ヤブツバキクラス域の上部からブナクラス域下部にかけてのイヌブナ林、ケヤキ林、ミズキ林、ツガミズナラ林などに比較的高い被



Phot. 26 社寺林の樹叢は小面積の場所に密植することが多い。南足柄市珠明寺〔161〕
Tempel- und Schreinwälder Japans sind bilden dichte Bestände (Shumeiji-Tempel
in Minami-Ashigara).

度で生育する。

ケンボナシ、ミツデカエデを始めケヤキ、エノキ、ムクノキなどの大木、比較的分布の限られた樹木の生育はいずれも単木であり、林床は好窒素性草本植物が一面に繁茂している。

163. 福田寺 Tempel Fukuda-ji

所在地 南足柄市和田河原

福田寺は南足柄市の和田河原にあり、そこに生育している樹木は、スギ、イチョウ、ケヤキ、クスノキ、シラカシ、ムクノキなどが10~20本生育することとまる。

164. 御嶽神社 Schrein Mitake-jinja

所在地 南足柄市三竹

御嶽神社は箱根外輪山明星ヶ岳山足の三竹の奥に位置している。周辺にはみかんの果樹園がひろがり、背後は外輪山の二次林へと続いている。神社は部落の最も奥まった台地上にあり、針葉樹の人工林に囲まれている。

鳥居のかたわらに根元の連なったスギの大木が2本生育している。樹高およそ40mで、推定樹令は400年とされる。このスギは神木としてまつられており、根張りもよく生育良好である。

社殿の周囲にはスギの混生する常緑広葉樹林がみられる。きざはしの周辺の林は Tab. 6 に示されている。スダジイ、タブノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなどが混生している。低木層にはアオキ、コクサギ、ヤマアジサイなどが生育している。種組成からヤブコウジースダジイ群集と判定される。林内にはスギが混生している。神社の前面と背後にはスギの人工林が広がっている。

165. 新善光寺 Tempel Shinzenko-ji

所在地 三浦郡葉山町山口

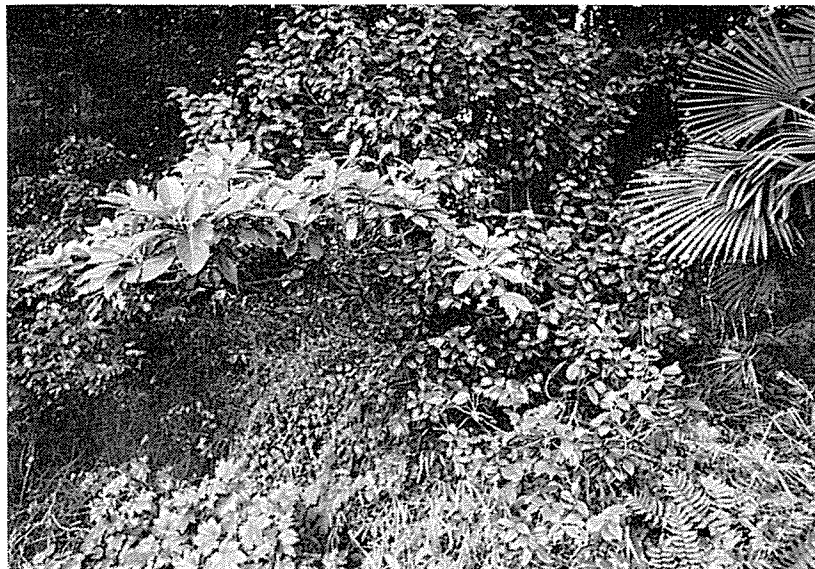
新善光寺は葉山と横須賀を結ぶ県道の沿線で滝坂峠の東側に位置している。周辺は静かな農村地帯である。道路が整備されて、これから住宅が増加する傾向がみられる。寺領は沖積地から緩やかな山足の傾斜地にかけて約10,000m²を占めている。寺の起源は古く現在地へは天正時代に移転したとされる。山門は特色のある禅宗の建築様式を伝える四脚門として県の文化財に指定されている。また本堂も草ぶきで趣のある寺院である。本堂および厨子も共に県の文化財に指定されて保存が計られている。

境内に通じる参道の石段は寺の古さを物語るようにまったくすりへっている。境内はよく整備されて植栽樹のイチョウ、サクラ類、白ツバキなどの生育がみられる。

およそ4,500m²におよぶ寺有林は、建造物に調和したきわめて自然度が高くすぐれた景観を呈している。境内の前面で県道に面したタブノキの樹林は Tab. 8 に示される。南東向きの8°の傾斜で続くこの樹林はタブノキを主としてヤブニッケイ、ヤブツバキ、スダジイ、モチノキなど常緑広葉樹の大木を多数含んでいる。タブノキは境内の外面の土手上に列植されたようすもうかがわれるが、樹高22mにもなり、タブノキ独特の美しい積乱雲型の樹冠がみられる。

亜高木層を優占するのはヤブツバキで、これにヤブニッケイ、スダジイ、シロダモ、モチノキなどが生育する。草本層は高植被率で常緑の草本植物および低木類が50種近くも生育している。イノデ、オオバノイノモトソウ、リョウメンシダ、ベニシダ、ヤマイトチシダ、ヤブソテツなどのシダ植物をはじめとしてキチジョウソウ、テイカカズラ、ヤブラン、ジュズネノキ、マンリョウ、ピナンカズラなどヤブツバキクラスの種が多くみられる。この林分はイノデータブ群集と判定される。

本堂の裏手にも常緑樹林があって人手もあまりはならず、密閉した林冠をつくっている。主な樹種は Tab. 6 に示されるがアカガシ、ヤブニッケイ、モチノキ、スダジイがほぼ同じ割合で高木層を占



Phot. 27 新善光寺 (三浦郡葉山町)

イノデータブ群集の林縁部にも常緑広葉樹種が多い。

Niederwald des *Polysticho-Machiletum thunbergii* mit *Persea thunbergii*, *Trachycarpus fortunei* u. a. (Buddistischer Tempel Shinzenkoji in Hayama).

めている。ヤブツバキ、タブノキ、カクレミノなどの亜高木層と共に林冠を密閉しているので低木層、草本層の被度は低い。落葉の層は2 cmから5 cmで、やや乾いた砂質の土壌である。林床にジュズネノキが多いことが特徴的である。

保全については現在、神奈川県下で常緑広葉樹林のうちイノデータブ群集の残存が最も少ない。部分的には谷浴いや崖地の下部にみられてもいずれも面積がせまくて、隣接群落の種が混入し、十分な調査面積がとれない場合が多い。新善光寺の林分は十分な面積をもち、しかも比較的平坦地にある林分として県内でも有数なものと思われる。

現在、葉山町の天然記念物として保護されているようだが、全県的な立場に立った保全が望まれる。イノデータブ群集の林分は道路の拡張工事によって一部が影響を受けている。道路沿いの林縁には常緑樹種の補植あるいはマント群落の構成種の育成が望まれる。現在は林内への立入りはほとんどないようだが、平地が立ち入り易くなっているので、その点にも留意が必要である。

166. 寒川神社 Schrein Samukawa-jinja

所在地 高座郡寒川町宮山

寒川神社は寒川町の相模川岸の平地にあり旧国幣大社であった。周辺は農村地帯であり、県道寒川線沿いにある。参道にはクロマツなどの樹林がよく繁っている。

神社の境内は植樹がされて自然林に似た組成をもつ樹林となっている。

参道の両側に形成された樹林はTab. 6に示されている。高木層にはクロマツとスダジイ、亜高木層にはスダジイ、ヤブニッケイ、ケヤキなどが主として生育している。低木層には神社の榊として使わ



Phot. 28 寒川神社 (Nr. 166) の林内相観。

スタジイ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ネズミモチなどが目立つ。

Blick in das Innere des Samukawa-Shinto-Schreinwaldes mit *Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii*, *Camellia japonica*, *Eurya japonica*, *Ligustrum japonicum*.

れるヒサカキをはじめとしてヤブニッケイ、スギ、サカキが植えられている。草本層の被度は低く約30%で、構成種はキツタ、アオキ、ヤブラン、ジャノヒゲなどで種数も17種と少ない。この林分は古くから境内の植栽木としてよく手入れがされてきたといわれる。戦後参道や溝をつくる際に土盛りされて林内はよく手入れがされたという。

昭和38年までは林床の落葉はすべて清掃されていたし、また現在でも林床に芽生えてくる草本類はすべて除去されるという。草本層が貧弱なことはそのためとみられる。また県内の常緑広葉樹林に普通にみられるシダ植物がみられなかった。本殿北側の二次林中にもスギやサカキの補植がされている。

このように寒川神社の樹叢は自然の常緑広葉樹種の植栽により自然林の組成に近い樹林に育てられている。県内の多くの神社林がスギやヒノキなどの植林の育成をしている中では特異であり、数10年かかって造られた林は今後の県内での保全林創造のサンプルとしての意味をもつことにもなる。現在この樹林は神奈川県緑地保全林に指定されているが文化財としての価値も高い。

なお、今後の林の保全条件としては次の二項目があげられる。現在庭園として手入れ管理がされている樹叢では、できるだけ自然林として扱う。そのためには林内に生育してくる下草などを除去することは避けたほうがよい。樹冠がかなり密閉しているため陽樹の侵入はあまり多くはないと判定される。神社域の安定した景観を保つために自然林の方が望ましい。寒川神社の地域はイノデータブ群集域と考えられているが現在の林はヤブコウジースタジイ群集の構成種の侵入も多くみられる。植物社会学的にみれば、タブノキ、ケヤキ、ムクノキ、ヤブニッケイなどの育成をして自然の潜在自然植生に近づけるほうが良いと考えられる。

167. 長 泉 寺 Tempel Chosen-ji

所在地 高座郡綾瀬町早川

長泉寺は相模台地の山腹斜面にあり、広大な寺林を有する（約1万 m^2 ）。林内への立入調査の許可が得られなかったので植生調査は行われなかった。

寺林はスギ植林とコナラークヌギ林で、特に自然度の高い森林はみられない。

168. 熊 野 社 Schrein kumano

所在地 綾瀬市上土棚

熊野社は綾瀬市の釣川と引地川の合流地点に面した台地の斜面に位置している。神社の南面と西側には集落があり、他方には雑木林や草地在りひろがっている。

社殿の北西側の雑木林には針葉樹の植林がおよそ1,000 m^2 ほどまとまっている。高木層のスギ、サワラ、クスノキが植樹され、その下にはハリギリ、シロダモ、ケヤキ、スダジイが生育している。林冠が開放的であり、光の透過が多いので低木層の種数や植被率も多い。草原生のアズマネザサ、ススキ、サルトリイバラ、ヒメヤブラン、ケスゲ、アオスゲなどが生育している。この台地上は黒ボク土壌が厚くて肥沃な立地である。ヤブツバキクラスの種もかなり多く、タブノキ、アカガシ、ビナンカズラ、ベニシダ、ヒサカキ、シロダモ、ヤブラン、ヤブコウジなどが常緑の葉をひろげている。

社殿近くのクスノキは樹高22m、胸高直径約70cmでめだつ大木である。

熊野社の社叢は植物社会学的にみて、特に自然度の高いすぐれた森林とはいえないが、都市化の進展の著しい地域としては保全をはかりたい。

169. 神 明 社 Schrein Shinmei-sha

所在地 綾瀬市吉岡

神明社は綾瀬市の目久尻川沿いの台地斜面に位置している。神社の北側と西側には新しい宅造地が開かれて、裸の造成地が神社をとりまく形になっている。

社寺林の面積は約3,000 m^2 とされ、その大部分はスギ植林である。胸高直径60cmほどのスギとサワラが高木層を占める生育良好な樹林である。過去に下草刈りがよく行われたためか低木層や草本層には常緑広葉樹の幼樹は少ないが、ヤブラン、ジャノヒゲ、キツタ、ヒサカキのほかにはクマザサが高い被度で生育している。土壌も黒ボクで肥沃であり、草本層の種数も豊富である。

境内には大きな植栽樹がめだちクスノキは樹高23m、胸高直径0.7m、モミは樹高25m、胸高直径0.8mである。クスノキは生育が良いがモミは枝枯れがめだち、樹勢もよくない。団地の開発で周辺の樹木が伐採されたためとみられる。

神明社の社林は植物社会学的にみて、特に自然度の高い森林とはいえない。しかし、住宅団地の開発によって樹林が失われているこの綾瀬市の西部地域では緑の保全は何らかの形で必要であり、この林分を保存する必要がある。

170. 五 社 神 社 Schrein Gosha

所在地 綾瀬市早川

五社神社は相模原台地で東名高速道路から約800m南の地点に位置している。周辺の台地上は新しく開かれた住宅地となり、樹林はここにだけ残されている。

社殿背後には約1,000 m^2 の針葉樹植林がある。スギ、ヒノキがおよそ18mの高さに生育している。林内にはヤブニッケイ、タブノキ、スダジイが生え、林床にはジャノヒゲ、ヤブコウジ、ヒサカキ、ヤブランなども生育している。

社殿のまわりには樹高20mのクスノキとスダジイがめだつた単木である。
自然度は高くなくて特に保存の価値ある森林とはいえない。

171. 白岩神社 Schrein Shiraiwa

所在地 中郡大磯町国府本郷933

国鉄大磯駅の西部約1 km、海拔高100~200mの小台地南斜面下端付近に白岩神社は位置する。関東ローム層が薄く第三紀の砂礫層が所々に露出している。

社殿の前面には、イチョウ、タブノキ、ムクノキなどの大木の生育がみられる。社殿裏の斜面には高木、低木、草本の各階層をなす多層群落のスダジイ林の生育が高く評価される。



Fig. 8 白岩神社 [171] の植生断面模式

Vegetationsprofil des Schreinwaldes von Schrein Shiraiwa [171]

- | | | |
|-----|--------|--|
| 1. | ガマズミ | <i>Viburnum dilatatum</i> |
| 2. | マルバウツギ | <i>Deutzia scabra</i> |
| 3. | コナラ | <i>Quercus serrata</i> |
| 4. | ヤブツバキ | <i>Camellia japonica</i> |
| 5. | トベラ | <i>Pittosporum tobira</i> |
| 6. | ヒサカキ | <i>Eurya japonica</i> |
| 7. | ネズミモチ | <i>Ligustrum japonicum</i> |
| 8. | スダジイ | <i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i> |
| 9. | テイカカズラ | <i>Trachelospermum asiaticum</i> |
| 10. | イヌシデ | <i>Carpinus tschonoskii</i> |
| 11. | ヒカゲスゲ | <i>Carex lanceolata</i> |

高さ14mのスタジイが高木第1層に優占し樹冠を広げており、高木第2層以下にはトベラ、ヒサカキ、アオキ、モチノキ、テイカカズラ、ヤブラン、ベニシダなど常緑植物が多く生育する。

白岩神社のスタジイ林は、林分として比較的自然度が高いが、残存面積が限られている。

172. 鷹取神社 Schrein Takatori

所在地 中郡大磯町生沢

鷹取神社は大磯町の北方の鷹取山の山頂にあり、一帯が神社林となっている。小田原—厚木道路の北方約300mにあり、山頂部はみかんの果樹園となっていてふもとの集落から約1kmの参道が続いている。人の訪れも少なくきわめて静かな環境である。

鷹取山一帯は神奈川県自然環境保全地帯に指定されている。南側の畑に続く鳥居のわきには植栽樹とみられるモミが数本植えられている。その上には参道に沿ってスタジイ林が帯状に続いている。山頂部はタブノキを主とする自然林でその組成は Tab. 8 に示される。山頂部は比較的広く、やや凹状地で落葉層の厚い黒ボク土壌である。高木層にはタブノキ、カゴノキ、ヤブニッケイ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹が生育している。また、この地域を北限とするモクレイシをはじめとして、アオキ、ツルグミ、ヤブニッケイ、スタジイ、ヒサカキ、テイカカズラ、トベラなどが低木層に多い。草本層は被度が低く、ヤブラン、アオキ、テイカカズラ、カラタチバナ、サイハイラン、イヌビワなどが点々と生育している。

以上の種組成から鷹取山の樹林はモクレイシ—タブノキ群落とされる。これまでは神奈川県内ではイノデ—タブ群集の生育地は沖積地および丘陵や台地の斜面下部とされていた。大磯丘陵の山頂部緩傾面に生育するタブ林はモクレイシ—タブノキ群落と区分される。またカゴノキは三浦半島の社寺林にみられたが他には比較的少ない。モクレイシ—タブ群落の林分はその生育地が人為干渉を受けてきわめて残存林が少ない。鷹取山ではかなりまとまった面積の林が山頂部にあることが特徴的である。

現在この林の保存状況はきわめて良好である。集落から隔たっているために来訪者は少ないようである。鳥類をはじめとする動物群集も豊富であり、静かな自然がよく保たれている。社殿も年代がついて古びていて周辺の植生と調和のとれた景観を呈している。その意味で県内でも有数の社寺林とされる。県の天然記念物指定の希望があるが、早急に指定して森林の保全を計ることが望まれる。

173. 川勾神社 Schrein Kawawa

所在地 二宮町山西2122

相模湾に面した袖ヶ浦海岸から押切川にそって約1km内陸に入ったところに川勾神社は位置する。神社の周囲はスギ植林と耕作畑が広い。境内では社殿の前面を中心に西側および裏手にスギ植林がみられる。

自然度の高い植生がみられるのは社殿裏の小高い山の南斜面である。斜面中部以上はアカマツ植林で占められているが、斜面中部以下はモミの大木がみられる。スギ、ヒノキが一部植栽されているが、林床にはアオキ、トベラ、アラカシ、ヤブツバキなどが隣接地の潜在自然植生の構成種であるケヤキ、クサギ、ジュウモンジシダなどとともに多くみられる。このモミ林は生育域としてももう少し大きな面積が望まれる。したがってアカマツ植林の一部は伐採、下刈り等をやらずに放置してモミ林の発達が望まれる。

174. 八幡神社 Schrein Hachiman

所在地 足柄上郡中井町遠藤



Fig. 9 シラカシ群集植生断面模式

Vegetationsprofil des *Quercetum myrsinaefoliae*

- | | | |
|-----|------------|---|
| 1. | テйкаカズラ | <i>Trachelospermum asiatica</i> |
| 2. | ヒサカキ | <i>Eurya japonica</i> |
| 3. | アカシデ | <i>Carpinus laxiflora</i> |
| 4. | シラカシ | <i>Quercus myrsinaefolia</i> |
| 5. | ヤブニッケイ | <i>Cinnamomum japonicum</i> |
| 6. | ヤブコウジ | <i>Ardisia japonica</i> |
| 7. | ヤマモミジ | <i>Acer palmatum</i> var. <i>matsumurae</i> |
| 8. | アオキ | <i>Aucuba japonica</i> |
| 9. | ウツギ | <i>Deutzia crenata</i> |
| 10. | ヘニシダ | <i>Dryopteris erythrosora</i> |
| 11. | ヤマイトチシダ | <i>Dryopteris bissetiana</i> |
| 12. | ハナイカダ | <i>Helwingia japonica</i> |
| 13. | アブラチャン | <i>Parabenzoin praecox</i> |
| 14. | ヤブツバキ | <i>Camellia japonica</i> |
| 15. | オオバノイノモトソウ | <i>Pteris cretica</i> |

八幡神社は小田原の東，押切川にそって北に約5 km上流へあがった東側にある。沖積面に接する南西向きの小斜面にあり，社殿をかこむようにクスノキ，モミ，アラカシ，イヌシデ，イチョウ，スギ，

アカマツ、コナラ、ムクノキが高木あるいは亜高木さらには低木として生育する。しかし林床植物は貧弱で、安定した多層群落としての形態は見られない。

175. 三島社 Schrein Mishima-sha

所在地 足柄上郡大井町篠窪

三島社は東名高速道大井松田インターチェンジの北東約1 kmにある。相模湾に面した酒匂川河口付近の沖積面、小田原市街地と秦野盆地にはさまれた海拔500 m以下の曾我山を始めとする台地、丘陵があり、これらの台地丘陵のやや秦野盆地側に三島社が位置する。三島社は表参道付近および社殿裏手にスダジイ、タブノキの大木がみられる。スダジイのD. B. H.は1.8 mであり、樹高20 mにもたつする林分には、分布のほぼ北限と考察されるモクレイシが生育し、その他ヤブコウジースダジイ群集の構成種が多く生育している。林分としては表参道付近がまとまりをみせるが、一部スギ、ヒノキ植林のされている社殿裏手のスダジイ林は植生学的に興味深い林分であり積極的保護の価値がある。

176. 寒田神社 Schrein Samuta

所在地 足柄上郡松田町惣領

寒田神社は松田町惣領の酒匂川に面した細長い東側沖積面上にある。神社に接して東名高速自動車道があるが、寒田神社の立地が適湿で肥沃土壌からなる富養地であるために境内のケヤキ、カヤ、イチョウの生育が良好となっている。しかし下草刈りや落葉かきがひんばんに行われているために、林床は裸地化している。

177. 寄神社 Schrein Yadorigi

所在地 足柄上郡松田町寄

秦野盆地の西側で海拔500 m前後の尾根をはさんだ中津川^{やどりぎ}ぞいの寄にあるのが寄神社である。この寄神社は樹高25 mをこえるスギとイチョウが町指定天然記念物(昭和46年4月)にされているが、他の植物はスギ、アカマツ、ケヤキ、クスノキに限られてみられるにとどまる。神社林としては前記の2本の大きな木の生育を除いてきわめて貧弱である。

178. 室生神社 Schrein Muro

所在地 足柄上郡山北町山北

御殿場線山北駅のある山北町住宅域(山北盆地)の南部河岸段丘上に室生神社がある。神社裏手は東海道新幹線が横ぎっており、裏山の人工林の伐採など植生に影響を与える環境の変化も少なくない。

神社の境内にはイチョウ、カヤ、ケヤキ、スダジイ、シナノキ、クスノキ、ムクノキ、シラカシ、カゴノキ、サンショウなど高木、亜高木、低木が散生する。境内の社殿裏手は自生のムクノキ、ケヤキなど湿潤な立地と結びつく樹木が生育する。低木層、草本層の植生は非常に貧弱である。社殿の前面は下草刈りや落葉かきなど管理が十分ゆきとどいている。

従って、室生神社の植生は、前面が十分な管理下にある庭園の色彩が強く、裏手は比較的攪乱されたケヤキ林が一部にみられるにとどまる。

179. 白山神社 Schrein Hakusan

所在地 足柄下郡箱根町湯本431

白山神社は箱根町役場に続く斜面で、旧道と箱根新道とにはさまれたところにある。生育している高木はスダジイ、アカガシ、コウヤマキ、カヤなどが単木的にみられるにとどまる。林床が貧弱な疎林となっている。

180. 諏訪神社 Schrein Suwa

所在地 足柄下郡箱根町仙石原下向

箱根外輪山と仙石原とが接する付近、仙石原下向に諏訪神社がある。夏緑広葉樹のブナ、ミズナラ、ヤマモミジ、イヌシデ、ホオノキ、常緑広葉樹のアカガシなどが大木として高木層を被っているが林床はクマザサを中心とするササ類が高い植被率で生育する。

諏訪神社は、社殿、神社林、水際と一定のまとまりをみせるもっとも典型的な神社であるが規模が限られている。そのため仙石原一帯にみられる緑としては必ずしも高い評価は与えられない。

181. 箱根神社 Schrein Hakone

所在地 足柄下郡箱根町元箱根

箱根神社は駒ヶ岳南麓の芦の湖畔に位置する。駒ヶ岳溶岩、火山灰に被われた海拔730mの地にある。おとずれの人々の数も多い箱根神社は前面にスギの大木を中心とした林分がみられ、社殿裏手には県指定天然記念物（昭和28年）のヒメシャラ林がみられる。

箱根神社は、ヤブツバキクラス域（常緑広葉樹林帯）とブナクラス域（夏緑広葉樹林帯）との接点付近であり、火山灰に被われていることもあって、ブナ、トチノキ、ヒメシャラ、イタヤカエデなどの夏緑広葉樹とアオキ、ヒサカキ、ヤブニッケイ、アラカシ、シロダモなどの常緑広葉樹が生育する植生学的にも興味深い所となっている。ヒメシャラ林は、これらの各植物がより自然度の高い植生としてまとまりをみせている貴重なものとされている。

182. 阿弥陀寺 Tempel Amida

所在地 足柄下郡箱根町塔ノ沢24 外5筆

阿弥陀寺は塔ノ沢駅から北へ約1kmの塔ノ峯の南面中腹に位置する。早川に面する南斜面はかなり急峻であり、いたるところに谷が深くいくんでいる。阿弥陀寺の寺領は寺を中心におよそ26万㎡に及ぶとされている。阿弥陀寺は塔ノ沢温泉を開いた僧弾誓によって開山されたという由緒のある寺院である。嘉永2年に火災によって寺も森林も焼けたといわれる。境内以外には針葉樹のスギやヒノキ、あるいはコウヨウサンの植林が谷ぞいにかかなり広い範囲にみられる。また寺院よりも下の参道のほとりや谷間の急な崖地にはスダジイ林が点在している。スダジイ林の組成は Tab. 6 に示される。高木層にはスダジイのほかにアラカシ、ウラジロガシが生育し、それにモミも混生している。さらに低木層にはアオキの被度も高く、イヌビワ、ヒイラギ、ツルグミなども混生する。アリドオシ、オクマワラビ、テイカカズラ、カンアオイ、シャガ、フユイチゴ、ジャノヒゲなどが草本層に著しい。この林分は箱根の古期外輪山を形づくる輝石安山岩を基盤とする立地上にあり、土壌は褐色森林土壌であって急斜面のために崩れやすくなっている。この群落は現在のところヤブコウジースダジイ群集アカガシ亜群集とされる。

スギなどが植えてある谷間にもヌマダイコン、キチジョウソウ、セキヤノアキチヨウジ、ハカタシダ、カンアオイ、キチジョウソウ、ホソバカナワラビなどの植物が豊富に生育している。

寺のまわりにはモウソウチク林があって、その林内にも潜在自然植生を示す植物が数多く混生している。コウヨウザン（樹高約20mのもの）が10数本あり、生育は良好である。寺から上は落葉広葉樹林となっているが、放置してあるにもかかわらず、自然林とはいいいがたい。イロハモミジ、ケヤキ、ミズキ、クリ、コナラ、イヌシデ、モミ、ホオノキなどという各種の落葉広葉樹が生育していて、しかもそれらの樹高があまり高くない。薪炭林とも異った特別の相観を示している。しかし、塔ノ峯の頂上が海拔566.3mであり、潜在自然植生はヤブツバキクラスの上限と考えられる。

阿弥陀寺の一带は自動車の騒音の高い箱根路からはかけ離れた静寂な地であり、寺に参詣する人やハイカーが時折訪れるだけである。広大な寺有林が、スギ・ヒノキ植林、竹林、および常緑広葉樹林と適正に利用されることが望ましい。

183. 早雲寺 Tempel Soun-ji

所在地 足柄下郡箱根町湯本

ヒメハルゼミの生育地としても知られている早雲寺は、箱根町役場の裏手の小丘陵にある。早川、須雲川の合流点付近でもあり神山の熱雲泥流上にローム層、火山灰が堆積している。小田原から早川にそって点々と残存生育がみられるスダジイ林が、もっともまとまった形でみられる。

早雲寺のスダジイ林は15mをこえるスダジイを中心にタブノキ、ウラジロガシにより高木第1層が構成されている。高木第2層、低木層、草本層にも常緑広葉樹ヤブツバキクラスの種であるヤブニッケイ、トベラ、ヒサカキ、クスノキ、ヤツデ、ヤブツバキ、アオキ、アラカシ、サカキ、クチナシなどが生育する。残存面積が広いこと、ヒメハルゼミの生育地として保護されてきたこと、林冠がスダジイを中心とする大木で被われていることなどにより、比較的高い自然度の林分となっている。部分的には人為的干渉が加わっているところも多く、残存林分の後退もみられる点が留意される。

184. 貴船神社 Schrein Kifune

所在地 足柄下郡真鶴町真鶴

貴船神社は真鶴湾に面した斜面にあり、クロマツ、クスノキの大木を中心とした植生がみられる。本来、貴船神社は、その細かな立地条件のちがいに応じてマサキートベラ群集、イノデータブ群集、ヤブコウジースダジイ群集が潜在自然植生として生育する立地である。そのために、真鶴湾に直接面した斜面ではマサキ、トベラ、クロマツ、ツツブキ、オニヤブソテツなどが特徴的に生育し、斜面上部ではイノデ、フウトウカズラ、イタビカズラ、クスノキが特徴的に生育し、社殿裏手の尾根状地ではスダジイ林もみられる。貴船神社の林分は、複雑な立地条件の差異に対応してやや入り組んでいるため景観上、相観的には必ずしも均質と云えないが、植生学的に興味深い。

185. 五所神社 Schrein Gosho

所在地 足柄下郡湯河原宮下

五所神社は湯河原の千歳川に面する南向き小斜面上にある。海岸に近く関東ローム層に被われた向陽地であり斜面中部以上にヤブコウジースダジイ群集、斜面中部以下にイノデータブ群集が潜在自然植生として生育する立地である。敷地約8,000㎡の大部分はクスノキ、ムクノキ、イヌマキ、スギ、タブノキ、エノキ、ヤマモミジなどの高木、大木が散在するが、下草、落葉かきが行なわれていることもあって林床—低木層および草本層—は貧弱な植生となっている。樹高が20mにたっする高木が多く生育するにもかかわらず、高木第2層以下が貧弱であるという一つの典型的なかたちを示している。

186. 産土八幡神社 Schrein Ubusuna-hachiman

所在地 足柄下郡湯河原町城堀

国鉄湯河原駅のすぐ脇に樹令250年前後のクスノキの大木の生育している神社があり、産土八幡神社と称される。産土八幡神社は尾崎山西南部の山すそに位置し、10mの樹高に達する高木としてアカマツ、ケヤキ、クスノキ、タイサンボクがみられる。しかもこれらの樹木は単木的に生育するにとどまり、林床の保全は良好とはいえない。

187. 勝 楽 寺 Tempel Shoraku-ji

所在地 愛甲郡愛川町田代2061

中津川の流路を西から東へとかえた愛川町平山・田代に勝楽寺は位置する。寺の境内はスギ、マツ、イチョウ、ケヤキの大木が多く生育する。

188. 八 幡 社 Schrein Hachiman

所在地 愛甲郡愛川町角田2371

中津川にそった河岸段丘面に設けられているのが八幡社である。中央の広場を囲むかたちで樹高20mにたっするタブノキを始め、ケヤキ、ムクロジ、スギ、イチョウ、キンモクセイなどが単木的に生育している。

個々の樹木をみると高木も少なくないが、その多くは植栽されたスギ、ムクロジ、イチョウである。

大木のタブノキは昭和47年に町の天然記念物指定がされており、社寺林として愛甲郡に残存生育するタブノキの大木としての評価にとどまる。

189. 八 菅 神社 Schrein Hasuge

所在地 愛甲郡愛川町八菅山

中津川に面した八菅山の集落に続く丘陵の西側はゴルフ場として開発されているが、海拔100~170mの南側斜面から東側斜面にかけては、八菅神社の森と称されるスダジイ林が生育している。

一部にスギやヒノキが植栽されているが、200段を越す階段をなす参道周囲は樹高が15m以上のスダジイ林が自然植生として生育する。

高木層は、台地上でアカシデ、ヤマモミジ、ハリギリを混じえ、スダジイが優占する林分となっている。亜高木層以下はヒサカキ、サカキ、アラカシ、ツルグミ、クロガネモチ、アオキ、ビナンカズラ、ベニシダ、イタチシダなどヤブツバキクラスの種（常緑の自然植生の構成種）が比較的多く生育する。

八菅神社の森は、相模平野にそって海岸から比較的内陸まで生育するスダジイ林（ヤブコウジースダジイ群集）が10,000㎡以上もまとまって残存生育していることが特徴とされる。

現在すでに八菅山の集落から社殿のあるところまで自然植生をぬうように車道が設けられている。この車道による植生への影響は少なくないので、今後は平常時の車両の通行を止め、う廻路的性格の歩道とする必要がある。

190. 花 蔵 院 Tempel Kazo-in

所在地 愛甲郡清川村煤ヶ谷

花蔵院のある煤ヶ谷（金翅）は、周囲がスギ植林とクヌギーコナラ群集（二次林）で囲まれており、小鮎川およびその支流にそった沖積地は耕作地として畑や水田となっている。

花蔵院は高木にケヤキ、イチョウ、カヤ、シキミ、ホオノキが生育し、低木として生育する自然植生の構成種はイヌツゲ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ナンテンがあげられる。これら自然植生は10mにたっするケヤキを中心に小面積の生育域をもつにとどまり、多くはスギの人工林とモウソウチク林である。

191. 八 幡 神社 Schrein Hachiman

所在地 愛甲郡清川村煤ヶ谷

海拔1,246mの大山の東側斜面が、南北に流路をとる相模川の沖積地と接するところに煤ヶ谷は位置する。相模川の支流小鮎川によりえぐられた地形をなす。八幡神社は煤ヶ谷・金翅の集落の北部で

海拔 200 m の小高い小台地上となっているところにある。

八幡神社の森は小さな社殿を中心にあり、社殿の南東部は高木層の高さ15mにたっするスダジイ林、南西部では尾根状地に沿ってモミ林を形成している。このスダジイーモミ林は、高木層に優占するモミ、スダジイの他に、亜高木層、低木層および草本層に自然植生の構成種の生育を多くみることが出来る。常緑植物（ヤブツバキクラスの種）のナンテン、クスノキ、アオキ、シロダモ、アラカシ、ヒサカキ、テイカカズラ、ヤブコウジ、ジャノヒゲと夏緑植物のガマズミ、ハナイカダ、ムラサキシキブ、コマユミ、ヤマモミジ、クロモジ、コバノガマズミが生育する。この夏緑植物の多くは、自然植生の置きかえ群落として生育するコナラの二次林（クスギーコナラ群集他）の構成種であり、より高海拔地に生育するミズナラ林の構成種でもある（コナラーミズナラオーダーの種群）。

八幡神社の森は、つい最近まで多くの集落周辺に比較的普通に見られた八幡様の神社林である。し

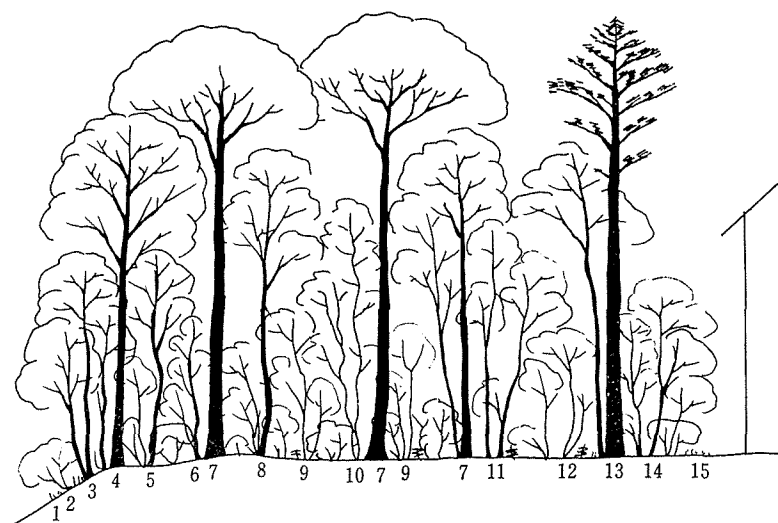


Fig. 10 清川村 八幡神社 [191] の植生断面模式

Schematische Vegetationsprofil des Schreinwaldes von Hachiman-jinja, Kiyokawa-son [191]

- | | | |
|-----|--------|--|
| 1. | テイカカズラ | <i>Trachelospermum asiatica</i> |
| 2. | ハナイカダ | <i>Helwingia japonica</i> |
| 3. | アラカシ | <i>Quercus glauca</i> |
| 4. | ヤマモミジ | <i>Acer palmatum</i> var. <i>matsumurae</i> |
| 5. | ホオノキ | <i>Magnolia obovata</i> |
| 6. | クロモジ | <i>Lindera umbellata</i> |
| 7. | スダジイ | <i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i> |
| 8. | ケヤキ | <i>Zelkova serrata</i> |
| 9. | アオキ | <i>Aucuba japonica</i> |
| 10. | ヤマウコギ | <i>Acanthopanax spinosus</i> |
| 11. | ガマズミ | <i>Viburnum dilatatum</i> |
| 12. | ナンテン | <i>Nandina domestica</i> |
| 13. | モミ | <i>Abies firma</i> |
| 14. | クサギ | <i>Clerodendron trichotomum</i> |
| 15. | ヤブコウジ | <i>Ardisia japonica</i> |

かし、急速に減少をしている現在の時点ではとびぬけて高い自然林としての評価を与えるべき植生とはいえないが、現時点において緑の自然環境の典型指標として評価され、今後相対的価値が高くなるという点からAランクに所属させられよう。

192. 熊野神社 Schrein Kumano

所在地 愛甲郡清川村宮ヶ瀬

熊野神社は宮ヶ瀬の集落の北側で中津川に面した緩やかな山地の麓に位置している。周辺は山地で、川沿いに発達した農村地帯である。神社の前面には畑が広がっていて、背後は主として人工林となっている。

社殿の後側はぐらりとスギの植林でとりかまれている。特別に大木があるわけではなく、樹高およそ20mほどのスギ林となっている (Tab. 18)。この林は特に下草刈りや枝打ちが行われていないために亜高木層以下に、潜在自然植生を示す植物群がかなり多く出現する。また植物の種類も豊富である。裏山のモミヤカシの生育している地区については、植生調査ができるほどの面積を有する群落はみられなかった。スギなどの針葉樹は混生するが、かなり密な樹林を形成している。

県の天然記念物指定の希望がでているが現在のままでは特に指定するほどの価値は認められない。今後、この樹林は自然のままに放置して、自然植生がかなり回復した時点で再び検討されるべきであろう。

193. 正住寺 Tempel Shoju-ji

所在地 愛甲郡清川村煤ヶ谷

正住寺のある煤ヶ谷・寺家は相模川の支流の小鮎川にそってケヤキ林が残存生育しており、一部にフサザクラの大木がみられる。正住寺入口などにはケヤキの老木も多くシラカシ群集ケヤキ亜群集の潜在自然植生域と判定される。しかし寺院の敷地内にはアカマツ、ツツジ類が多く植栽されている。

正住寺の裏手は大部分がスギ植林で占められており、樹令20~50年のスギが2,200本生育している (管理者談)。最近アカマツ、スギの大木が伐採され開放景観を呈するところもある。一部には植生の高さ7~8mのコナラ林 (クヌギーコナラ群集) の生育も見られる。

正住寺の森は、スギの人工林であり、ケヤキの老木が並木状に生育しているにとどまる。

194. 蓮久寺 Tempel Renkyu-ji

所在地 愛甲郡清川村煤ヶ谷

相模川の支流、小鮎川ぞいの西側斜面に煤ヶ谷の蓮久寺の裏手の山林はウラジロガシとアカガシが優占して生育する常緑広葉樹林が自然に比較的近いかたちでみられる。

樹高15mにたつするウラジロガシとアカガシを中心に、一部にスダジイの生育もみられるこの林分はカン類とカヤ、イヌガヤ、シキミなどの生育することによって特徴づけられるモミシキミ群集あるいはウラジロガシ群落とされる。事実、隣接域にはモミの生育がみられる。しかし残存林分が限られており、二次的な種群の侵入も少なくない。

195. 普門寺 Tempel Fumon-ji

所在地 津久井郡城山町中沢

津久井湖の北岸で川岸から約300mへだたった山腹に位置する。南向きの緩傾斜面にある。周辺には畑が広がり静かな田園景観である。寺の境内にはスギの大木がある。本堂の裏側にはスギの植林がひろがりその中にスダジイの樹叢がみられる。

境内のスギは樹高25m、推定樹令は500年の大木である。そのほかにもスダジイの大木もある。本



Fig. 11 蓮久寺 [194] の植生断面模式
Schematisches Vegetationsprofil des Renkyu-ji [194]

高木層 (B ₁)	15m	90%	
ウラジロガシ			<i>Quercus salicina</i>
アカガシ			<i>Quercus acuta</i>
亜高木層 (B ₂)	7m	15%	
アカガシ			<i>Quercus acuta</i>
ヤマモミジ			<i>Acer palmatum</i> var. <i>matsumurae</i>
低木層 (S)	3m	30%	
アオキ			<i>Aucuba japonica</i>
シキミ			<i>Illicium religiosum</i>
カヤ			<i>Torreya nucifera</i>
草本層 (K)	0.5m	10%	
ヤマイトチシダ			<i>Dryopteris bissetiana</i>
ジャノヒゲ			<i>Ophiopogon japonicus</i>
ヤブラン			<i>Liriope plathyphylla</i>
ヤブコウジ			<i>Ardisia japonica</i>

堂の西側のクヌギーコナラ林は1973年に伐採された。スギ植林には樹高15mから20mで生育良好なスギが生育する (Tab. 19)。林冠は密閉してヤマザクラ、ホオノキを混生する。亜高木層にはモウソウチクが植被率40%で被い、ほかにはヤマザクラやアラカシが散生している。この植林地は林冠が密なために林床には日光がはいらず、林床植物は少ない。ベニシダ、オオバジャノヒゲ、キツタ、ヤブコウジ、ジャノヒゲ、マンリョウなどのヤブツバキクラスの植物が多い。参道の東側には下刈りをしたスギ、ヒノキ植林地がある (Tab. 19)。ここにはやや若令のスギ、ヒノキが植栽されていて参道沿いにスダジイ、コナラが生育している。亜高木層と低木層は貧弱だが草本層の種群は44種と多い。下刈りは一年に1～2回行われている。参道に沿って植栽されたとみられるスダジイを中心にして常緑樹

叢は带状に連なり上の神社まで連続している (Tab. 6)。スダジイとウラジロガシが高木層を占め、亜高木層にはヤブツバキ、スダジイ、アラカシなどの種群が生育している。低木層にはテイカカズラが多く、シャガ、ジャノヒゲ、ヤブツバキ、ヤマイトチシダ、ヤブコウジ、オオバジャノヒゲ、ウラジロガシ、ヤツデなどのヤブツバキクラスの種が多くみられる。

これらの常緑広葉樹林に生育している種群は、立地の潜在自然植生を考察するための重要な手がかりとなっている。すなわち、スダジイは優占しているが本来この立地はヤブコウジースダジイ群集とは判定されず、ウラジロガシ群落の植生域とされている。現在、ウラジロガシ群落の解析は十分されていないのでその意味からも普門寺の樹林は重要とされる。

社寺の経済を維持するためにもスギやヒノキの植林は県内の各社寺林に広くみられる。その中でも普門寺のスギ林は生育も良好で樹高も高く独得の寺林景観をつくっている。今後の保全としてはできる限り、皆伐を避けて間伐がされることが望ましい。常緑広葉樹林の面積はせまいがスギ植林がみごとであり、その意味でAランクに判定される。なお寺院の上にある神社のスダジイ樹叢も含めた保護が望まれる。

196. 諏訪神社 Schrein Suwa

所在地 津久井郡津久井町鳥屋

津久井町の諏訪神社は宮之前の小学校の北西側に位置している。前面は串川に向かってゆるやかに開け、橋本から伊勢原に通じる街道沿いに人家が集まって街道街の形態をとっている。

神社の境内は開けていて、そこには児童会館が建てられ、遊具なども設置されている。社殿のわきにスギやケヤキの大木が合計4本生育している。スギのもっとも大木は胸高直径1.5 m、高さおよそ28 mとされる。いずれも生育はきわめて良好である。

社殿に最も近い場所に生育するケヤキは胸高直径1.2 mで、樹高およそ33 mとされる。幹は地上7.8 mのところまで二つに枝分かれしていて、生育は良好である。このケヤキを含む社殿の後側の斜面の植生調査はTab. 19に示される。スギの人工林ではあるが、これらの大木を含む林分として自然植生の構成種が多く生育している。とくにこのケヤキは県内でも有数の大きさをほこるものであり、その生育地が群落として保全が計られることが望ましい。面積はあまり広くないが立地は適湿な黒ボク土壌であり、潜在自然植生はコクサギーケヤキ群集と推定される。

197. 根小屋諏訪神社 Schrein Negoya-Suwa-jinja

所在地 津久井郡津久井町根小屋

根小屋諏訪神社は城山の西側にある。周辺はきわめて閑静な農村地帯であり、根小屋から津久井湖にぬける道路が通じている。この道路から社殿にいたる参道の両側にスギの大木が数10本列植されている。

その中で最も大きなスギは胸高直径が2.2 mで樹高およそ40 m、推定樹令は600年である。神社では御神木として保護されている。神社の境内とそれに続く斜面の植生調査結果はTab. 19に示される。

スギの生育地はローム層もかなり厚くその上に適湿な黒ボクが被っている。スギはこのような立地によく適して良好な生育を示している。とくに林床の植物の種類も多く、また生育も良好である。

神木のスギは天然記念物の指定を受けたい希望がでている。現在、スギの天然記念物は単木で県の北部には2、3あるが、指定木が枯れてしまえば終わりである。根小屋諏訪社のスギは日向薬師の二本杉につぐ大木であり、ただ一本だけでなく、他のスギと共に生育地を含めて天然記念物とされること

が望ましい。

198. 功雲寺 Tempel Koun-ji

所在地 津久井郡津久井町根小屋

功雲寺は根小屋のほぼ中央にあり、尻久保川に面した南側高台に位置している。周辺は古くからの集落がかなり密にあり、畑がひろがって閑静な農村景観を示している。

寺は南に面した緩傾斜地にあり、境内にはクスノキの高木が生育している。寺院の後側の南向きの斜面にはアカマツ、スギ、ヒノキなどが植えられて、よく手入れがされている。アカマツ林は Tab. 21に示されるように高木層が高さ20mほどのアカマツで、その下にクリ、サクラ、コナラ、ヤマモミジ、ヤマハンノキなどの落葉樹が植えられている。下刈りが行われているが、林床には53種もの植物が生育している。自動車道をへだてた寺の前面にはスギ林があるが带状で面積はせまい。

寺の周辺部にはとくに注目すべき自然植生はみられなかった。

199. 与瀬神社 Schrein Yose-jinja

所在地 津久井郡相模湖町与瀬宮開戸

与瀬神社は相模湖の北側の山地で中央高速道の側に位置している。標高320mの山の傾斜面に約93,000㎡の社有地がある。その起源は古くて、すでに昭和2年には記録があるという。隣接の慈眼寺と境内を接し、ここの一角に神社と寺の森が発達している。高速道路の開通に当たって与瀬神社の幸い門は現在の位置に移築された。

参道から社殿にかけての両側や社殿の背後はすべてスギの人工林であり、自然林はほとんどみられなかった。社殿の前面のスギはかなりの大木でその中の一本は相模湖町の天然記念物に指定されている。胸高直径1.7m、樹高約30mで樹令は約600年とされている。このスギは1972年の調査時に樹高50mと報告されたが、その後、枝先が著しく衰退して、全樹高の5割に枯枝がめだっている。スギの衰退と高速道路との関係が改めて問われなければならない。このスギの植林は Aufn. 199に示される。かなりの急傾斜地にスギ、ヒノキ、ケヤキ、シロダモ、ヤブツバキ、イロハモミジなどの高木が生育し、林床にはシャガ、ヤブツバキ、イノコズチ、ドクダミ、ミズヒキ、ヤブランなどが混生している。社殿の背後にも種々の樹令のスギを主とする人工林がみられる。

4. 社寺植生の評価

Ab schätzung der Schrein- und Tempelwälder nach Vegetationskundlichen Gesichtspunkten

調査された社寺林について、その自然度や面積、保全状況などを総合的に検討し、A、B、C、Dの4ランクに区分された (Tab. 25)。

(1) A ランク

その地域の潜在自然植生が顕在化された自然度の高い森林植物群落がまとまった面積をもつ社寺林を形成している。高木層から草本層にいたる各階層の発達が良好であり、林床が破壊されていない。森林の面積は群落が持続するために十分な広さがあり、林内に裸地もなく、土壌攪乱が少ない。森林全体の保護状態が良好であり“ふるさとの森”としての価値がきわめて高いと評価される社寺林である。Aランクに評価された社寺林は以下に記す40であった。

宝生寺 (横浜市) イノダータブ群集, ヤブコウジースダジイ群集

善行寺 (横浜市) イノダータブ群集

稲荷社 (横浜市) シラカシ群集

- 浄性寺（横浜市）シラカシ群集
 浅間神社（横浜市）ヤブコウジースダジイ群集
 八幡神社（横浜市）イノデータブ群集
 富岡八幡（横浜市）ホソバカナワラビースダジイ群集
 称名寺（横浜市）イノデータブ群集
 態野神社（横浜市）ヤブコウジースダジイ群集
 旧城寺（横浜市）シラカシ群集
 正法寺（横浜市）シラカシ群集
 豊顕寺（横浜市）土塁上に発達したシラカシ群集
 春日神社（川崎市）沖積低地のシラカシ群集
 三島社（横須賀市）ホソバカナワラビースダジイ群集
 叶神社（横須賀市）イノデータブ群集
 諏訪大神社（横須賀市）ヤブコウジースダジイ群集
 白髪神社（横須賀市）ヤブニッケイなどの密生低木林
 大松寺（横須賀市）イノデータブ群集
 瑞泉寺（鎌倉市）ヤブコウジースダジイ群集
 江島神社（藤沢市）スダジイ林，トベラ低木林
 熊野神社（逗子市）ヤブコウジースダジイ群集
 岩殿寺（逗子市）ヤブコウジースダジイ群集
 神武寺（逗子市）広い寺領の中の各立地に対応したヤブコウジースダジイ群集，ホソバカナ
 ワラビースダジイ群集，イロハモミジーケヤキ群集
 法性寺（逗子市）ヤブコウジースダジイ群集
 無量光寺（相模原市）コクサギーケヤキ群集
 上諏訪神社（三浦市）イノデータブ群集
 松石寺（厚木市）ヤブコウジースダジイ群集
 日向薬師（伊勢原市）イノデータブ群集
 大山寺（伊勢原市）シキミーモミ群集
 極楽寺（南足柄市）シラカシ群集
 新善光寺（葉山町）イノデータブ群集，ヤブコウジースダジイ群集
 寒川神社（寒川町）ヤブコウジースダジイ群集
 鷹取神社（大磯町）モクレイシータブノキ群落
 三島社（大井町）シイータブ林
 箱根神社（箱根町）ヤマボウシーブナ群集
 阿弥陀寺（箱根町）ヤブコウジースダジイ群集
 早雲寺（箱根町）タブノキ，ウラジログシを伴うシイ林
 貴船神社（真鶴町）立地に対応したトベラ林，シイ林，タブ林
 八管神社（愛川町）スダジイ林
 八幡神社（清川村）モミを混生するスダジイ林

Tab. 25 神奈川県下の社寺林植生調査結査の概要

Übersichtstabelle der Vegetationskundlich studierten Shintoistischen Schreinen und
Buddhistischen Tempel in der Präfaktur Kanagawa

調査 番号 Aufn. Nr.	社 寺 名 Shinto Shreine u. Buddhistische Tempel	ラ ン ク Stufed. Rang nach Vegetation	自然植生○印および代償植生の概況と単木▽印 Natürliche Vegetation (○-Marke) und Ersatzgesellschaften sowie einzelnen Bäume (▽-Marke)
1.	常 倫 寺 Tempel Jorin-ji	B	面積の狭いスダジイ林
2.	宝 生 寺 Tempel Hoshō-ji	A	立地に対応したヤブコウジースダジイ群集○ およびイノデータブ群集○
3.	勝 国 寺 Tempel Shokoku-ji	B	低木層と草本層の貧弱なヤブコウジースダジイ群集○
4.	定 光 寺 Tempel Joko-ji	C	常緑広葉樹の混生するモウソウチク林 ケンボナシ▽
5.	若宮八幡宮 Shinto S. Nakamura-hachiman	B	低木層と草本層が荒廃したヤブコウジースダジイ群集○
6.	下 神 明 社 Shinto S. Simo-shinmei	B	急傾斜地のアカガシ林
7.	総 持 寺 Tempel Soji-ji	B	面積の狭いヤブコウジースダジイ群集○で林床が荒れている。
8.	正 行 寺 Tempel Shogyo-ji	B	湿生立地のスダジイ林
9.	宝 蔵 寺 Tempel Hozo-ji	C	面積の狭いスダジイ林 五色ツバキ▽
10.	下 神 明 社 Shinto S. Shimo-shinmei	B	人の立ち入りが頻繁なスダジイ林
11.	八 幡 神 社 Shinto S. Hachiman	C	オニシバリーコナラ群集中にクロマツが混生する。 クロマツ▽
12.	善 行 寺 Tempel Zengyo-ji	A	墓地を囲む樹高20mのイノデータブ群集○イヌビワミズキ群落 タブノキ▽
13.	妙 香 寺 Tempel Myoko-ji	C	クスノキ、タブノキなどの林
14.	無 量 寺 Tempel Muryo-ji	B	常緑広葉樹を混生するイヌビワミズキ群落
15.	白 山 神 社 Shinto S. Hakusan	C	スダジイとシラカシの混交林
16.	中村八幡宮 Shinto S. Nakamura-hachiman	C	急傾斜地上の夏緑広葉樹林
17.	万 福 寺 Tempel Manpuku-ji	D	ケヤキ、コナラなどの二次林
18.	吉 祥 寺 Tempel Kichijo-ji	C	帯状のケヤキ林
19.	西 光 寺 Tempel Saiko-ji	C	常緑広葉樹を混じたクスギーコナラ群集
20.	普 門 院 Tempel Fumon-in	D	墓地周辺のコナラ低木林
21.	貞 昌 院 Tempel Joshō-in	C	スギ植林 タブノキ▽
22.	神 明 社 Shinto S. Shinmei-sha	C	アカガシ林
23.	春日神社 Shinto S. Kasuga	B	急傾斜面に生育するヤブコウジースダジイ群集で林床荒廃する
24.	福 聚 院 Tempel Fukuju-in	C	コナラ、ケヤキの二次林 タブノキ▽
25.	東 福 院 Tempel Tofuku-in	B	18mにもおよび常緑広葉樹の配置された墓地
26.	天 神 社 Shinto S. Tenjin	C	スギ植林
27.	八 幡 神 社 Shinto S. Hachiman	B	二次林から遷移の進行したシラカシ群集○
28.	大 仙 寺 Tempel Daisen-ji	C	墓地に点在する常緑広葉樹 ケヤキ▽
29.	正 福 院 Tempel Seifuku-in	C	本堂裏手崖地の疎林 イチョウ▽
30.	樹 源 寺 Tempel Gyugen-ji	B	面積の狭いシラカシ群集
31.	遍 照 寺 Tempel Hensho-ji	C	植栽樹を中心とした樹林

32.	神明社	Shinto S. Shinmei-sha	C	イヌシデ群落で土壌が攪乱されている ヤブツバキ▽
33.	稲荷社	Shinto S. Inari-sha	A	シラカシ群集○とヒノキ植林の利用区分が されている。
34.	白根神社	Shinto S. Shirane	B	イロハモミジを主とした夏緑広葉樹林 ヤマザクラ▽
35.	長源寺	Tempel Chogen-ji	C	モウソウチク林
36.	浄性寺	Tempel Josei-ji	A	シラカシ群集の典型亜群集とケヤキ亜群集○
37.	清来寺	Tempel Seirai-ji	B	シラカシ林とクスギーコナラ群集 カヤ▽
38.	福泉寺	Tempel Fukusen-ji	C	モウソウチク林 イチョウ▽
39.	妙蓮寺	Tempel Myoren-ji	C	常緑広葉樹からなる狭い樹林 イヌマキ▽
40.	熊野神社	Shinto S. Kumano	B	面積の狭いイノデータブ群集○
41.	浅間神社	Shinto S. Sengen	A	樹令の高いヤブコウジースダジイ群集○ クスギ▽
42.	八幡神社	Shinto S. Hachiman	A	植林崖錐地に発達したイノデータブ群集
43.	宝勝寺	Tempel Hosho-ji	B	面積の狭いヤブコウジースダジイ群集○
44.	熊野神社	Shinto S. Kumano	B	海に面した斜面のイノデータブ群集○
45.	富岡八幡	Shinto S. Tomioka-hachiman	A	テラス状斜面に発達したホソバカナワラビー スダジイ群集○
46.	金竜寺	Tempel Kinryu-ji	B	常緑樹を混生するコナラ林
47.	称名寺	Tempel Shyomyo-ji	A	金沢文庫を囲む斜面のイノデータブ群集○
48.	伊勢山皇太神	Shinto S. Iseyama-kotaijin	B	夏緑広葉樹を混生するスダジイ林
49.	東福寺	Tempel Tofuku-ji	B	墓地をとり囲むイノデータブ群集○
50.	勸行寺	Tempel Kangyo-ji	B	面積の狭いタブノキ林
51.	熊野神社	Shinto S. Kumano	A	社殿の背後にひろがる発達したヤブコウジ ースダジイ群集○
52.	杉山神社	Shinto S. Sugiyama	C	台地上のコナラ林
53.	金蔵寺	Tempel Kinzo-ji	C	台地斜面の常緑樹を伴うコナラ林
54.	三会寺	Tempel Sane-ji	C	寺領のコナラ林 ケヤキ▽
55.	泉谷寺	Tempel Senkoku-ji	C	常緑広葉樹の混生するスギ林、モウソウチク 林
56.	真福寺	Tempel Shinpuku-ji	C	常緑広葉樹林の断片 クスノキ▽
57.	西方寺	Tempel Saiho-ji	B	面積の狭いシラカシ群集
58.	鉄神社	Shinto S. Kurogane	C	スギ植林と常緑広葉樹林の断片 アカガシ▽
59.	王子神社	Shinto S. Ohji	B	シラカシ群集モミ亜群集○
60.	旧城寺	Tempel Kyujo-ji	A	旧榎下城跡をとりまくシラカシ群集○
61.	真福寺	Tempel Shinpuku-ji	C	クスギーコナラ林 カヤ▽
62.	神明社	Shinto S. Shinmei-sha	C	台地上のシラカシ群集○ タブノキ▽
63.	白旗神社	Shinto S. Shirahata	B	白旗山斜面のシラカシ群集○で面積がやや狭 い。
64.	舞岡八幡宮	Shinto S. Maioka-hachiman	C	樹高の比較的高いスギ植林
65.	八幡神社	Shinto S. Hachiman	B	ヤブコウジースダジイ群集の断片
66.	御霊社	Shinto S. Gorei	C	土塁上のスダジイ林
67.	定泉寺	Tempel Josen-ji	C	クロマツ、サクラ類の混生する常緑広葉樹林

- | | | | | |
|------|-------|-----------------------|---|------------------------------|
| 68. | 正法寺 | Tempel Seiho-ji | A | 無住の堂を囲むシラカシ群集で常緑広葉樹種の芽生えが多い |
| 69. | 東泉寺 | Tempel Tosen-ji | C | クヌギーコナラ林 イチョウ▽ |
| 70. | 盛徳寺 | Tempel Seitoku-ji | C | 小面積のスダジイーカシ林 イチョウ▽ |
| 71. | 妙秀寺 | Tempel Myoshu-ji | B | 小面積のイノデータブ群集○ |
| 72. | 本興寺 | Tempel Honko-ji | B | 下刈りをされたシラカシ群集○ クスノキ▽ |
| 73. | 青蓮寺 | Tempel Seiren-ji | C | 回復途上にあるシラカシ群集○ |
| 74. | 最勝寺 | Tempel Saisho-ji | C | モウソウチク林 タブノキ▽ |
| 75. | 薬王院 | Tempel Yakuo-in | C | ケヤキの疎林 |
| 76. | 専称寺 | Tempel Sensho-ji | C | クロマツ林 |
| 77. | 本覚寺 | Tempel Honkaku-ji | B | 幅18mのイノデータブ群集○ |
| 78. | 浄滝寺 | Tempel Joryu-ji | C | 墓地の間に帯状に配列されるヤブコウジースダジイ群集 |
| 79. | 長導寺 | Tempel Chodo-ji | C | 常緑、夏緑広葉樹の混交林 イチョウ▽ |
| 80. | 豊顕寺 | Tempel Bugen-ji | A | 土塁上に帯状に発達したシラカシ群集○ |
| 81. | 春日神社 | Shinto S. Kasuga | A | 沖積低地の旧自然堤防上のシラカシ群集○ |
| 82. | 神明社 | Shinto S. Shinmei-sha | C | 丘陵斜面のイヌシデ群落 |
| 83. | 諏訪社 | Shinto S. Suwa | C | 参道両側の植栽樹 |
| 84. | 岡上神社 | Shinto S. Okagami | D | 参道両側の樹林帯 |
| 85. | 白山社 | Shinto S. Hakusan | D | 社殿前面の植栽木 |
| 86. | 月読神社 | Shinto S. Tsukiyomi | C | 小面積のヒノキ、サワラ植林 |
| 87. | 白鳥神社 | Shinto S. Shiratori | D | 小面積のスギ植林 |
| 88. | 御巖神社 | Shinto S. Mitake | C | * 常緑広葉樹を含むコナラ林 |
| 89. | 汁守神社 | Shinto S. Shirumori | B | シラカシ群集の断片とイヌシデ群落 |
| 90. | 十二社 | Shinto S. Junisha | B | 小面積のシラカシ群集モミ亜群集 |
| 91. | 琴平神社 | Shinto S. Kotohira | C | アカマツ、ヒノキ、ヤマザクラなどの混交林 |
| 92. | 日枝神社 | Shinto S. Hieda | C | ケヤキの植栽 |
| 93. | 影向寺 | Tempel Yogo-ji | D | モウソウチク林 イチョウ▽ |
| 94. | 泉福寺 | Tempel Sempuku-ji | D | イチョウ▽ |
| 95. | 妙楽寺 | Tempel Myoraku-ji | B | 小面積の常緑広葉樹 |
| 96. | 法泉寺 | Tempel Hosen-ji | C | モウソウチク林とイロハモミジ林 |
| 97. | 延命寺 | Tempel Enmyo-ji | C | ヤブツバキ、タブノキの小樹叢 モッコク▽ |
| 98. | 王禅寺 | Tempel Ozen-ji | C | イロハモミジ、ケヤキ林 カキノキ▽ |
| 99. | 長念寺 | Tempel Chonen-ji | D | イチョウ▽ |
| 100. | 全竜寺 | Tempel Zenryu-ji | C | クスノキ、ヒノキなどの小樹叢 |
| 101. | 了源寺 | Tempel Ryogen-ji | B | 小面積のスダジイ林 |
| 102. | 三浦神社 | Shinto S. Miura-sha | B | 植生高18mのスダジイ林で面積はせまい |
| 103. | 三島社 | Shinto S. Mishima-sha | A | 種々のシダ植物の生育するホソバカナワラビースダジイ群集○ |
| 104. | 十二所神社 | Shinto S. Junisho | B | タブノキ、カクレミノなどの低木密生林
サンゴジュ▽ |
| 105. | 叶神社 | Shinto S. Kano | A | まとまった面積を占めるイノデータブ群集○ |
| 106. | 諏訪神社 | Shinto S. Suwa | B | 小面積のヤブコウジースダジイ群集○ |

107.	諏訪大神社	Shinto S. Suwadai	A	カゴノキ, ホルトノキを伴うイノデアタブ群集○
108.	白髪神社	Shinto S. Shiragami	A	ヤブニッケイ, ヤブツバキなどの密生低木林 イチョウ▽
109.	東蔵寺	Tempel Tozo-ji	C	常緑広葉樹の萌芽林 イチョウ▽
110.	東漸寺	Tempel Tozen-ji	B	クロガネモチの植栽樹を中心とした小樹叢 クロガネモチ▽
111.	光心寺	Tempel Koshin-ji	B	スダジイ, ヒサカキなどの低木林
112.	大松寺	Tempel Daisho-ji	A	イノデアタブ群集○とマテバシイ林
113.	真福寺	Tempel Shinpuku-ji	B	タブノキを中心とした小樹林
114.	東福寺	Tempel Tofuku-ji	B	ムクノキ, マテバシイなどの混生林 イチョウ▽
115.	八幡神社	Shinto S. Hachiman	B	常緑広葉樹とヒノキ, アカマツなどの混生林
116.	妙園寺	Tempel Myoen-ji	B	アカマツ林とコナラ林
117.	愛宕神社	Shinto S. Atago	C	クロマツを中心とした疎林
118.	荘厳寺	Tempel Sogen-ji	C	斜面に小面積の二次林
119.	南金目神社	Shinto S. Minami-Kaname	B	金目川沿いの斜面のイノデアタブ群集○
120.	円覚寺	Tempel Engaku-ji	B	スダジイ林とイロハモミジケヤキ群集
121.	瑞泉寺	Tempel Zuisen-ji	A	ヤブコウジースダジイ群集○と境内の植栽
122.	長勝寺	Tempel Chosho-ji	C	小面積のスダジイ林
123.	江ノ島神社	Shinto S. Enoshima	A	ヤブコウジースダジイ群集など
124.	海蔵寺	Tempel Kaizo-ji	C	コナラ林 バクチノキ▽
125.	真福寺	Tempel Shinpuku-ji	C	タブノキ, ヤブニッケイなどの小樹叢
126.	紹太寺	Tempel Shotai-ji	B	アラカシーウラジロガシ群集
127.	白峯寺	Tempel Shiramine-ji	C	クロマツ植林
128.	三島神社	Shinto S. Mishima	C	タブノキ, ケヤキの高木を中心とする木立
129.	妙伝寺	Tempel Myoden-ji	B	小面積のシラカシ群集○
130.	熊野神社	Shinto S. Kumano	A	乾性立地のヤブコウジースダジイ群集○
131.	岩殿寺	Tempel Iwadono	A	尾根近くの崖上のヤブコウジースダジイ群集○
132.	神武寺	Tempel Jinmu-ji	A	ヤブコウジースダジイ群集○ホソバカナワラビースダジイ群集, イロハモミジケヤキ群集
123.	法性寺	Tempel Hoshō-ji	A	尾根部にひろがるヤブコウジースダジイ群集○
134.	小坪寺	Tempel Kotsubo-ji	B	マサキートベラ群集
135.	新田稲荷	Shinto S. Nitta-inari	C	サクラの植栽
136.	無量光寺	Tempel Muryoko-ji	A	コクサギーケヤキ群集とタブノキ林
137.	若宮神社	Shinto S. Wakamiya	B	カクレミノ, タブノキなどの低木密生林
138.	上諏訪神社	Shinto S. Kami-suwa	A	砂丘海岸に続く平坦地のイノデアタブ群集○
139.	白髪神社	Shinto S. Shiragami	B	低木のタブノキ林
140.	光照寺	Tempel Kosho-ji	C	林床の荒廃したスダジイ林 スダジイ▽
141.	福泉寺	Tempel Fukusen-ji	B	小面積のヤブコウジースダジイ群集○とイノデアタブ群集○
142.	西光寺	Tempel Saiko-ji	B	タブノキ林

143.	桂 林 寺	Tempel Keirin-ji	B	面積の狭いヤブコウジースダジイ群集○ スダジイ▽
144.	命 徳 寺	Tempel Myotoku-ji	C	ケヤキ, ムクノキの二次林, モウソウチク林
145.	竜 鳳 寺	Tempel Ryuho-ji	C	アラカシ, ミズキなどの混生するスギ林
146.	松 石 寺	Tempel Shoseki-ji	A	ヤブコウジースダジイ群集○
147.	萩野神社	Shinto S. Ogino	C	ケヤキ, カヤなどの植栽木 イチョウ▽
148.	長 谷 寺	Tempel Hase-ji	B	スダジイ, アラカシなどの林
149.	蓮 生 寺	Tempel Rensho-ji	B	相模川河岸段丘上のイノデータブ群集○
150.	浅 間 神 社	Shinto S. Sengen	C	タブノキ, アカマツなどの疎生する高木林 アキニレ▽
151.	深見神社	Shinto S. Fukami	C	境内にタブノキ, ケヤキ, アキニレの高木が 散生する
152.	諏訪神社	Shinto S. Suwa	B	スギ, ヒノキ植林
153.	日向薬師	Tempel Hinata-yakushi	A	スダジイ林, イノデータブ群集など
154.	大 山 寺	Tempel Oyama-ji	A	シキミーモミ群集のまとまった林分○
155.	涅 槃 寺	Tempel Nehan-ji	C	イロハモミジの溪谷林
156.	三ノ宮神社	Shinto S. San-nomiya	C	土塁上のスギ林
157.	豊受大神	Shinto S. Toyouke-taijin	C	スギ植林
158.	神 明 社	Shinto S. Shinmei	C	タブノキ, スギなどの植栽木を中心とする小 樹叢
159.	南足柄神社	Shinto S. Minami-ashigara	B	面積の狭いシラカシ群集○
160.	極 楽 寺	Tempel Gokuraku-ji	A	台地上のシラカシ群集○
161.	珠 明 寺	Tempel Shumei-ji	C	線状に植栽されたシラカシ
162.	天 王 院	Tempel Tenno-in	C	ムクノキ, エノキの樹林 ケンボナシ▽
163.	福 田 寺	Tempel Fukuda-ji	C	スギ, イチョウ, クスノキなどの樹木
164.	御 巖 神 社	Shinto S. Mitake	B	スギの混生したヤブコウジースダジイ群集○
165.	新善光寺	Tempel Shin-zenkoji	A	ヤブコウジースダジイ群集○とイノデータブ 群集○
166.	寒川神社	Shinto S. Samukawa	A	社殿の前面に復元されたヤブコウジースダジ イ群集○
167.	長 泉 寺	Tempel Chosen-ji	C	ヤブコウジースダジイ群落○
168.	熊 野 社	Shinto S. Kumano	C	スギ, サワラなどの植林
169.	神 明 社	Shinto S. Shinmei-sha	C	スギ, サワラなどの植林
170.	五 社 神 社	Shinto S. Gosha	C	スギ, ヒノキの植林
171.	白 岩 神 社	Shinto S. Shiraiwa	B	面積のせまいスダジイ林
172.	鷹 取 神 社	Shinto S. Takatori	A	モクレイシータブノキ群集○
173.	川 匂 神 社	Shinto S. Kawawa	B	アカマツ, モミの林内に常緑広葉樹が生育す る
174.	八 幡 神 社	Shinto S. Hachiman	C	クスノキ, モミなどの林 スダジイ▽
175.	三 島 社	Shinto S. Mishima	A	社殿裏のスダジイ林
176.	寒 田 神 社	Shinto S. Samuta	C	カヤ, イチョウ, ケヤキなどの樹林
177.	寄 神 社	Shinto S. Yadorigi	C	植栽木を中心とする樹林 イチョウ, スギ▽
178.	室 生 神 社	Shinto S. Muro	C	カヤ, ケヤキ, スダジイなどの低木林
179.	白 山 神 社	Shinto S. Hakusan	C	スダジイ, アカガシなどの疎生

180.	諏訪神社	Shinto S. Suwa	B	ブナ, ミズナラ, ヤマモミジなどの夏緑広葉樹林	
181.	箱根神社	Shinto S. Hakone	A	ヒメシャラの優占するヤマボウシーブナ群集○	
182.	阿弥陀寺	Tempel Amida-ji	A	塔ノ沢の谷部に発達したヤブコウジースダジイ群集○	
183.	早雲寺	Tempel Soun-ji	A	タブノキ, ウラジロガシを混生するスダジイ林	
184.	貴船神社	Shinto S. Kifune	A	境内の立地に対応したトベラ低木林, タブ林, スダジイ林	
185.	五所神社	Shinto S. Gosho	B	クスノキ, ムクノキなどの高木の散生	
186.	産土八幡	Shinto S. Ubusuna-hachiman	C	アカマツ, ケヤキなどが単木的に生育する	
187.	勝楽寺	Tempel Shoraku-ji	C	マツ類, イチョウなどの散生	
188.	八幡社	Shinto S. Hachiman	C	ケヤキ, ムクロジ, スギなどの散生 タブノキ▽	
189.	八菅神社	Shinto S. Hasuge	A	広い面積を占めるスダジイ林	
190.	花蔵院	Tempel Kazo-in	C	ケヤキ, カヤの疎林とモウソウチク林	
191.	八幡神社	Shinto S. Hachiman	A	スダジイ林とモミノキ林	
192.	熊野神社	Shinto S. Kumano	B	スギ植林に常緑広葉樹種が混生する	
193.	正住寺	Tempel Shoju-ji	C	スギ植林	
194.	蓮久寺	Tempel Renkyu-ji	B	ウラジロガシ, アカガシ林	
195.	普門寺	Tempel Fumon-ji	B	ヤブコウジースダジイ群集○	スギ▽
196.	諏訪神社	Shinto S. Suwa	B	スギ, ケヤキ	
197.	根小屋諏訪	Shinto S. Negoya-suwa	B	スギの大木を中心とした樹林	
198.	功雲寺	Tempel Koun-ji	C	アカマツ植林	
199.	與瀬神社	Shinto S. Yose	B	スギ植林	

これら40の社寺林はヤブコウジースダジイ群集が最も多数を占め、次でシラカシ群集, イノデータブ群集の順である。神武寺 [132] のように広い寺領の中の各立地に応じて数種の森林植物群落が含まれている例もある。また宝生寺 [2] のように寺林の面積自体は広くないが背後に続く自然林とともにすぐれた“ふるさとの森”の景観を示す例もある。

Aにランクづけられた社寺林は植物社会学的調査の対象数199社寺の20%に相当する。さらに、県下の総社寺数の1.04%に相当し、広葉常緑樹で構成される郷土林は現在100の社寺に対して1つが残存していると言える。

(2) Bランク

Aランクの林に次ぐ社寺林であり、以下の基準によって選定された。自然度はかなり高い森林だが、面積が狭いために群落の維持に問題がある。あるいは常緑広葉樹と他の植栽樹種または落葉広葉樹種の混交林である。さらには二次林からの遷移の途上にある森林とみられるものなどが含まれる。また、森林群落の各階層のうち、いずれかが未発達あるいは破壊されていて、森林の保全について問題を残す森林がこのランクに含まれる。

Bランクに含まれるのは63社寺で、植物社会学的調査の対象数の31%に相当する。Bランクの社寺林も積極的な回復措置を講ずることによって天然記念物級の森林への回復の期待がもたれる。

(3) Cランク

二次植生で代償植生から構成される社寺林はCランクと評価された。クスギーコナラ群集, スギ・ヒノキ植林, イヌシデ群落などであり、林業の施業の対象として、管理されている森林が多い。

(4) D ランク

社寺林は全くないが、単木についての天然記念物指定希望が出されていた社寺はDランクに区分された。

Tab. 26 市町村別のランク別社寺林数
Schrein- und Tempelwälder nach Rang in jeden Gemeinde in der Präfektur Kanagawa

市 町 村 Städten und Gemeinder	調 査 数 Zahl der Aufnahmen	ラ ン ク Rangstufe			
		A	B	C	D
横 浜 市 Yokohama	80	12	79	37	2
川 崎 市 Kawasaki	21	1	4	10	6
横 須 賀 市 Yokosuka	13	5	7	1	—
鎌 倉 市 Kamakura	3	1	1	1	—
藤 沢 市 Fujisawa	1	1	—	—	—
茅 ヶ 崎 市 Chigasaki	3	—	1	2	—
逗 子 市 Zushi	5	4	1	—	—
三 浦 市 Miura	5	1	3	1	—
葉 山 町 Hayama	1	1	—	—	—
寒 川 町 Samukawa	1	1	—	—	—
相 模 原 市 Sagami-hara	2	1	—	1	—
大 和 市 Yamato	2	—	1	1	—
海 老 名 市 Ebina	2	—	—	2	—
座 間 市 Zama	—	—	—	—	—
綾 瀬 市 Ayase	4	—	—	4	—
平 塚 市 Hiratsuka	5	—	3	2	—
秦 野 市 Hadano	3	—	3	—	—
伊 勢 原 市 Isehara	4	2	—	2	—
大 磯 町 Ohiso	2	1	1	—	—
二 宮 町 Ninomiya	1	—	1	—	—
南 足 柄 市 Minami-ashigara	6	1	2	3	—
中 井 町 Nakai	1	—	—	1	—
大 井 町 Ohwi	1	1	—	—	—
松 田 町 Matsuda	2	—	—	2	—
山 北 町 Yamakita	1	—	—	1	—
開 成 町 Kaisei	—	—	—	—	—
小 田 原 市 Odawara	3	—	1	2	—
箱 根 町 Hakone	5	3	1	1	—
真 鶴 町 Manazuru	1	1	—	—	—
湯 河 原 町 Yugawara	2	—	1	1	—
厚 木 市 Atsugi	6	1	2	3	—
愛 川 町 Aikawa	3	1	—	2	—
清 川 村 Kiyokawa	5	1	2	2	—
城 山 町 Shiroyama	1	—	1	—	—
津 久 井 町 Tsukui	3	—	2	1	—
相 模 湖 町 Sagamiko	1	—	1	—	—
藤 野 町 Fujino	—	—	—	—	—
合 計 Gesamtbetrag	199	40	63	88	8